佐久市埋蔵文化財調査報告書　第 273 集

'20 第273集
西近津遺跡群　西近津遺跡XIII
佐久市教育委員会

西近津遺跡群

NISHITIKATU

西近津遺跡XIII

長野県佐久市長土呂西近津遺跡XIII発掘調査報告書

2020.3
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第 273 集

西近津遺跡群

NISHITIKATU

西近津遺跡ⅩⅢ

長野県佐久市長土呂西近津遺跡ⅩⅢ発掘調査報告書

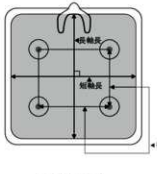
2020.3
佐久市教育委員会

例　言

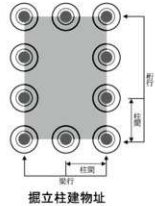
1　本書は長野県佐久市に所在する西近津遺跡群西近津遺跡第 13 次調査の発掘調査報告書である。
2　調査は株式会社新津組ミサワホーム事業部が行う宅地造成工事に伴う記録保存を目的に佐久市教育委員会が実施した。
3　遺跡名及び所在地　　西近津遺跡群西近津遺跡ⅩⅢ（ＮＴＸⅢ）
　　佐久市長土呂字森下 1783-2、1799、1797-1 他
4　調査期間及び面積　　発掘調査：平成 30 年 7 月 30 日～ 10 月 1 日
　　整　　理：平成 30 年 10 月 2 日～令和 2 年 3 月 20 日
　　調査面積：623.7㎡
5　本書に掲載した地図は佐久市役所発行の地形図（1：50,000）である。
6　遺構測量は TS を用い３次元データを取得した。取得したデータは株式会社 CUBIC の「遺構君」により図化した。図面トレースは「遺構君」で行い、Adobe Illustrator で調整した。写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し Adobe Photoshop で補正等を行った。編集は Adobe InDesign で行った。
7　本書の作成・編集は小林が行った。
8　本書及び発掘調査の図面･写真などの記録及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

1　挿図の縮尺は遺構 1/80、遺物 1/4（鉄器・鉄製品は 1/2）を基本とするが、これ以外の物は図中に縮尺を記した。
2　海抜標高は、水糸標高をスケールに「標高」として記してある。また、土色の色調は 1999 年版「新版標準土色帖」に基づいた。
3　遺構の計測値は下図に示した部分の測定値である。面積は床面積、壁残高は最大値である。
4　挿図中の網掛けは以下の表現である。



竪穴住居址



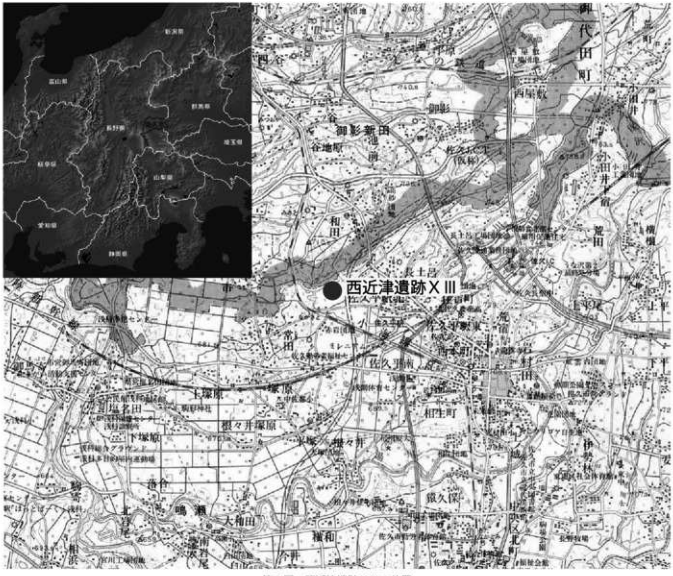
掘立柱建物址

土坑

長軸方位

目　次

例言
凡例
目次
第Ⅰ章　調査の経緯 …… 1
第1節　経過と立地 …… 1
第2節　調査体制 …… 2
第3節　検出遺構・遺物の概要 …… 2
第Ⅱ章　遺構と遺物 …… 2
第1節　住居址 …… 2
第2節　掘立柱建物址 …… 19
第3節　土坑 …… 22
第4節　周溝墓 …… 31
第5節　溝址 …… 32
第6節　ピット …… 32



第1図　西近津遺跡XⅢの位置

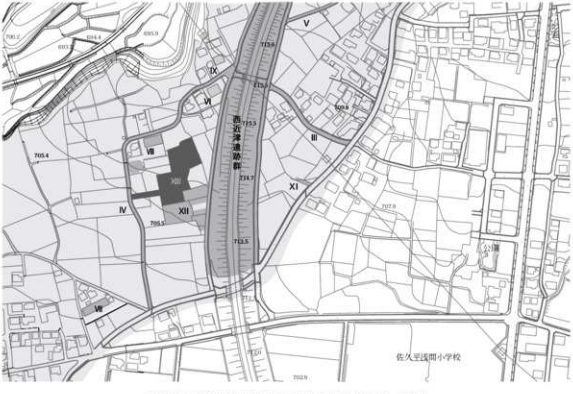
第７節　遺構外 …… 32
第８節　黒色帯 …… 83
第Ⅲ章　まとめ …… 83
表
写真図版
抄録・奥付

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　経過と立地

西近津遺跡ⅩⅢは佐久市長土呂字森下地籍に所在する。遺跡は北西を田切に、南東を浸食が進まずに田切を形成しなかった緩やかな谷地形に挟まれた台地上に立地する。遺跡内では過去に、佐久市教育委員会による 12 次に及ぶ発掘調査と、中部横断自動車道建設に伴う長野県埋蔵文化財センターの発掘調査が行われている。何れの調査に於いても数多くの遺構・遺物が検出されており、特に長野県埋蔵文化財センターの調査では、長辺 18 m を測る弥生時代後期の巨大な竪穴住居址や、古代の銅製私印、鐙瓦などが出土し、注目された。以上の調査事例により、西近津遺跡は縄文時代中期後半から人々の活動が認められるようになり、後期には集落が営まれるようになる。その後、弥生時代後期に至る間は人間の生活痕跡は認められていないが、後期に入ると規模の大きな集落が形成される。しかし古墳時代に入ると集落規模は縮小、あるいは断絶する期間も認められるようになり、後期に入り再び大規模な集落が形成され、平安時代まで継続する。中世には鷺林城に関係するのであろう遺構が存在することが明らかとなってきた。

今回、遺跡内で株式会社新津組ミサワホーム事業部により宅地造成が計画されたことから、遺跡の保護を目的



第２図　西近津遺跡ⅩⅢ周辺の過去の調査位置（1：2,500）

とし、状況を把握するための試掘調査を平成 29 年 6 月 26・27・30 日に実施した。その結果、住居址等の遺構が検出されたため、遺構の破壊が予測される道路箇所等について記録保存を目的とした発掘調査を行うこととなった。なお、宅地部分については埋土保存とした。

第 2 節　調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	棚澤晴樹
事務局	社会教育部	部長	青木　源
	文化振興課	課長	小林義夫（H30 年度）　東城　洋（R 元年度）
		企画幹	武者新一（H30 年度）　吉田　晃（R 元年度）
	文化財調査係	係長	塩川宏幸（H30 年度）　山本秀典（R 元年度）
		係	小林眞寿　富沢一明　上原　学
			久保浩一郎（R1 年度 12 月まで）
			岩下　琴（H30 年度 6 月まで）
			荻原義治（H30 年度 7 月から H31 年度 3 月まで）
			羽毛田卓也（H31 年度 4 月から）
		臨時職員	森泉かよ子（H30 年度）
		調査担当者	小林眞寿
		調査員	甘利隆雄　岩松茂年　大矢志慕　小林喜久子　小林節子
			小林敏雄　堺　益子　清水律子　田中ひさ子　花岡美津子
			細谷秀子　堀籠滋子　宮川真紀子　山口ひとみ　柳沢孝子
			柳沢千賀子　山田叔正　油井満芳

第 3 節　検出遺構・遺物の概要

遺構　竪穴住居址 31 軒　掘立柱建物址 6 棟　土坑 9 基　溝址 2 条　ピット 152 基
遺物　縄文土器　弥生土器　土師器　須恵器　灰釉陶器　石器・石製品　鉄器

第Ⅱ章　遺構と遺物

第 1 節　住居址

● H1 号住居址（第 3・51・52 図）

調査区西端で検出された。北、南方向の調査区外に延びるため全容は不明である。短軸長 6.18 m、壁残高 0.52 m の規模である。調査範囲内にはカマドは存在しない。壁下には周溝が巡る。P1 ～ P3 の 3 基のピットは主柱穴であり、φ 16cm前後の柱痕が確認された。掘方から検出されたピットから、本址は建て替えが行われていることが確認された。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、弥生土器、土製品、石器、鉄器、銅製品が出土している。土師器には坏・甕の器種が認められる。坏は北武蔵型が主体である。甕はヘラケズリ調整の古墳時代的なものと、武蔵甕、ロクロ甕が混在する。須恵器には坏・有台坏・坏蓋・高坏・甕・壺の器種が認められる。坏のロクロからの切り離し

は、回転ヘラ切りである。所謂「ヘラ記号」が外底に刻まれるものも４点認められる。記号は「×」あるいは「－」の２種類であり、魔除け記号かもしれない。坏蓋は１点のみの出土であるが、つまみの形状は所謂「皿状」である。甕は頸部が短く、丸底である。壺は２点共に高台が付く。縄文土器は全て破片で、中期後半から後期堀之内２式のものが認められる。量的には堀之内１式が大半を占めている。土偶・土器片円盤などの土製品もこれらの縄文土器と同時期の所産と考えられる。弥生土器は後期箱清水期の甕・壺片が認められる。石器は砥石・凹石・打製石斧・石鏃・編物石・磨石が出土している。砥石・編物石は本址に伴うものであろう。石製品は滑石製の臼玉が１点出土した。鉄器は長頸鏃が１点出土している。銅製品は裏金具が欠損した帯金具の巡方が１点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅰ期に比定され、８世紀第Ⅰ四半期の実年代が想定される。

●H2 号住居址（第４・53 図）

調査区西端部でＨ１号住居址の東隣りで検出された。北、南方向の調査区外に延びるため全容は不明である。短軸長 5.16 m、壁残高 0.21 m の規模である。カマドは北壁中央部分に構築されていたが、掘方状態に破壊されていた。P1 ～ P4 の方形に均等配置されるピットは主柱穴であり、φ 16㎝大の周痕が確認された。周溝は有さず、建て替えの痕跡は認められなかった。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、弥生土器、土製品、石器、石製品、銅製品が出土している。土師器には羽釜と甕の器種が認められる。甕にはロクロ甕と武蔵甕が存在する。羽釜は所謂「ロクロ土師器」である。須恵器には、坏・有台坏・坏蓋・甕・壺の器種が認められる。坏のロクロからの切り離しは回転ヘラ切りである。甕は頸部が長く、大きく開口するもので、外面には叩目が認められる。縄文土器は後期堀之内１式から加曽利Ｂ式のものが出土している。全て破片である。弥生土器は縄文が施される甕片が１点出土している。群馬系であろう。土製品は土偶の腕が２点出土している。縄文土器と同一時期の所産であろう。石製品として砥石が３点、石器として打製石斧１点と石錐１点が出土した。銅製品は帯金具巡方の裏金具が１点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅲ期に比定され、８世紀第Ⅲ四半期の実年代が想定される。

●H3 号住居址（第５・54 図）

調査区南端中央付近で検出された。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。短軸長 5.44 m、壁残高 0.37 m の規模である。P1・P2 の２基のピットは主柱穴で、φ 16㎝大の柱痕が確認された。P3 ～ P5 の３基は出入口施設に関係するものと思われる。検出範囲にはカマドは存在しない。壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、弥生土器、石器・石製品・鉄器が出土した。土師器には坏・甕・壺の器種が認められる。坏１は内面に放射状暗文が施される所謂「畿内系坏」である。３の外底には魔除け記号と思われる「×」が刻まれている。甕は全て武蔵甕である。壺は須恵器凸帯文付四耳壺を模倣したもので、耳部分のみが出土した。須恵器には坏・有台坏・坏蓋・甕の器種が認められる。坏のロクロからの切り離しはヘラによるものが大勢であるが、６は右回転糸切りである。７の見込みには魔除け記号「×」が刻まれる。有台坏は回転ヘラケズリ後高台を貼付している。坏蓋は天井部が強く張る形態である。縄文土器は中期後半のものと、後期堀之内２式のものが認められる。弥生土器は後期箱清水期の甕・壺・ミニチュア土器が出土している。石器は打製石斧・磨石・敲石の器種が、石製品は石皿・滑石製臼玉の器種が出土した。鉄器は鎌の柄部分が１点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅲ期に比定され、８世紀第Ⅲ四半期の実年代が想定される。

●H4 号住居址（第６・54 図）

調査区南端中央付近で検出された。住居址の南西隅部分が検出されただけであり、全容は不明である。H6・7 号住居址を切っている。壁残高 0.52 m の規模である。検出範囲の壁下には周溝が巡る。掘方を含め２基検出さ

れたピットの性格は不明である。

遺物は土師器、須恵器、石器が出土している。土師器は全て甕であり、外面にはヘラケズリ調整が施される。須恵器には坏・有台坏・坏蓋・高盤の器種が認められる。坏のロクロからの切り離しは回転ヘラ切りである。石器は打製石斧と磨石が１点づつ出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅰ期に比定され、８世紀第Ⅰ四半期の実年代が想定される。

● H5 号住居址（第７・55 図）

調査区南端中央やや東寄りで検出された。南東方向に調査区外に延びるため全容は不明である。F2・3 号掘立柱建物址に切られている。長軸長 3.29 m、壁残高 0.28 m の規模である。カマドは北東隅に構築されているが、掘方状態に破壊されていた。検出範囲には主柱穴は存在せず、周溝も有さない。

遺物は土師器、須恵器が出土した。土師器は甕が２点出土しており、１点は武蔵甕であるが、もう１点は丸底を呈し、ヘラケズリ調整が施される。須恵器は坏蓋が１点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅰ期に比定され、８世紀第Ⅰ四半期の実年代が想定される。

● H6 号住居址（第８・55 図）

調査区南端中央付近で検出された。H4 号住居址に切られ、北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。短軸長 4.33 m、壁残高 0.49 m の規模である。検出範囲にはカマド、周溝は存在しない。掘方で主柱穴と思われる P1・P2 が検出されたが、柱痕は確認できなかった。

遺物は土師器、縄文土器、弥生土器、石器が出土している。土師器には坏・高坏の器種が認められる。縄文土器は後期堀之内１式と２式の深鉢片が各１点出土した。弥生土器は後期箱清水期の甕片と壺が出土している。石器は、磨石と使用痕が有る剥片が各２点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅰ期に比定され、８世紀第Ⅰ四半期の実年代が想定される。

● H7 号住居址（第９・55 図）

調査区南端中央東寄りで検出された。H4 号住居址に切られ、北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。短軸長 4.29 m、壁残高 0.40 m の規模である。検出範囲にはカマドは存在しない。壁下には周溝が巡り、北東隅近くの、東壁下には所謂「間仕切り」が認められる。掘方を含め３基検出されたピットの内、P1・P3 は主柱穴、P2 は出入口施設と思われる。

遺物は土師器、縄文土器、弥生土器、石器が出土している。土師器は外面にハケ目調整が施される甕片が１点出土した。縄文土器は後期堀之内１・２式期の深鉢片が３点出土している。弥生土器は後期箱清水式期の壺片が２点出土した。石器は磨石が１点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は、古墳時代後期七世紀代の所産と推測される。

● H8 号住居址（第 10・55・56 図）

調査区南端中央西寄りで検出された。流路に切られ、カクランによる破壊を受けている。南方向に調査区外に延びるため全容は不明である。短軸長 4.74 m、壁残高 0.59 m の規模である。カマドは北壁の中央部分に構築されるが、掘方状態に破壊されていた。カマド部分を除く壁下には周溝が巡る。掘方を含め５基検出されたピットの内、P1・P2 は主柱穴でφ 20㎝大の柱痕が確認された。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、弥生土器、石器が出土している。土師器には坏・高坏・鉢・甕・壺・甑の器種が認められる。坏は須恵器坏蓋模倣形態のもの（2・3・5・8・9）と半球状形態（1・4・6・7・10）のものが存在する。2・9 は北武蔵型坏である。高坏は低脚で小型のものが１点出土した。鉢は須恵器坏蓋模倣形態

の坏を大型化したものが３点出土した。甕はヘラケズリ調整が施される。壺は内外面にヘラミガキ調整が施される。須恵器は廰の口縁部片が１点出土している。縄文土器は後期堀之内１式を主体とする破片が出土している。弥生土器は後期箱清水期の甕・壺片が出土した。石器は砥石・台石・打製石斧・磨製石斧・石鏃・編物石・磨石・敲石の器種が出土した。鉄製品は器種不明の角棒状のものが１点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の古墳時代Ⅳ期に比定され、７世紀代の実年代が想定される。

●H9 号住居址（第 11・56 図）

調査区東南端付近で検出された。H12 号住居址を切る。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。短軸長 3.57 m、壁残高 0.24 mの規模である。検出範囲にカマドは存在しない。南東隅部分を除く壁下には周溝が巡る。５基検出されたピットの内、P1 ～ P3 は主柱穴でφ 20㎝大の柱痕が確認された。P4 と P5 の２基は出入り口施設と思われる。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、土製品、石器、石製品が出土している。土師器には坏・甕・壺の器種が認められる。甕は口縁部に最大径を有する武蔵甕である。須恵器は無高台の壺底部が１点出土した。土製品は紡錘車が１点出土している。石器は台石・凹石・打製石斧・編物石・磨石が出土している。石製品は石棒片が１点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅱ期に比定され、８世紀第Ⅱ四半期の実年代が想定される。

●H10 号住居址（第 12・57・58 図）

調査区東南端付近で検出された。H13・20 号住居址を切り、カクランによる破壊を受ける。東方向に調査区外に延びるため全容は不明である。長軸長 5.04 m、壁残高 0.21 mの規模である。カマドは北壁の中央に石芯を粘土で被覆して構築されているが、破壊を受け、残存状況は良くない。検出範囲には周溝は認められない。６基検出されたピットの内、P1・P2・P4 の３基は主柱穴でφ 20㎝大の柱痕が確認された。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、土製品、石器、鉄器が出土した。土師器には碗・高坏・甕の器種が認められる。碗は須恵器の模倣形態で、外面体部に判読不明の墨書がある。高坏は低脚の２と高脚の３が出土している。甕は 10・12 がロクロ甕で他は武蔵甕である。10 は叩き成形であり、平行叩目が顕著である。須恵器には坏・有台坏・甕・横瓶の器種が認められる。坏４の外底には楕円状のヘラ記号？が刻まれている。縄文土器は後期堀之内１式が主体である。土製品の土偶もこれらの縄文土器と同一の所産期であろう。石器は砥石・編物石・磨石・敲石が出土している。鉄器は長頸鏃が１点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅰ期に比定され、８世紀第Ⅰ四半期の実年代が想定される。

●H11 号住居址（第 13・58・59 図）

調査区東南端北寄りで検出された。H15・17 号住居址を切る。東方向に調査区外に延びるため全容は不明である。長軸長 6.62 m、壁残高 0.37 mの規模である。カマドは北壁の中央に構築されるが、破壊を受け掘方状態であった。北西隅から南壁の壁下には周溝が巡る。掘方も含め 19 基検出されたピットの内、P15・18 の２基は主柱穴と考えられるが、他は判然としない。南壁下の周溝、ピットの状況から本址は建て替えが行われているものと思われるが、覆土等の観察からは確定できなかった。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、土製品、石器、石製品、鉄器、鉄製品が出土した。土師器には、坏・碗・皿・鉢・甕の器種が認められる。坏１・２は混入品であり、本址に帰属するものは内面ヘラミガキ後黒色処理が施され、ロクロからの切り離しは回転糸切りが基本である。「字」墨書が記されたものも多い。椀も皿も坏と同様であるが、鉢は坏形態を大型にしたものと、須恵器広口甕形態のものが認められるが、混入品である 37 を除き内面ヘラミガキ後黒色処理が施される。甕は武蔵甕 38・41 と武蔵甕化の傾向が認められる混入品の 39、台坏甕 40 が存

在する。41 には刻書が認められるが、判読はできない。須恵器には坏・坏蓋・甕・壺の器種が認められる。坏のロクロからの切り離しは右回転の糸切りである。坏蓋は天井部が平坦な形態で、つまみは扁平な擬宝珠である。甕は短頸の広口形態で、外面には平行叩目が残される。壺は高台が付く底部片と、凸帯文付四耳壺が出土している。縄文土器は後期堀之内２式の破片が出土している。土製品は土器片円盤が１点出土した。石器は打製石斧・石鏃・石錐・磨石・敲石が、石製品は石皿と素材が出土した。鉄器は刀子・鋤先・長頸鏃。鉄製品は紡錘車と 72 の折畳まれた不明品が出土している。その他に未図化であるが鉄滓が出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅵ期に比定され、9 世紀後半の実年代が想定される。

● H12 号住居址（第 14・60 図）

調査区東南端付近で検出された。H9 号住居址に切られる。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。短軸長 5.08 m、壁残高 0.45 m の規模である。検出範囲にカマドは存在しない。南西隅から西壁下には周溝が巡る。P1 と西壁下の周溝間には所謂「間仕切り」が存在する。３基検出されたピットの内、P1・P2 の２基は主柱穴でφ 18㎝大の柱痕が確認された。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、土製品、石器、鉄製品が出土した。土師器は、内外面黒色処理の皿１と、ヘラケズリ調整が施される甕２の２点が認められる。須恵器は３の小型広口壺が１点出土した。縄文土器は後期堀之内１・２式の破片が出土している。土製品は全て土器片円盤であり、縄文土器と同一時期の所産と考えられる。石器は打製石斧片が１点出土した。鉄製品は鎧の小札が２点出土した。１点は完形である。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の古墳時代Ⅳ期に比定され、7 世紀代の実年代が想定される。

● H13 号住居址（第 15・60 図）

調査区東南端付近で検出された。H10 号住居址に切られ、カクランによる破壊を受ける。北西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。南北長 5.26 m、東西長 5.50 m、壁残高 0.66 m の規模である。カマドは北壁中央部分に存在するが、調査区の境に存在するため 1/2 を検出したに過ぎない。粘土で構築された煙道部分は残存するが、カマド本体は石芯が１個残るのみであった。カマド部分を除く壁下には周溝が巡る。掘方も含め６基検出されたピットの内、P1・P2 の２基は主柱穴でφ 20㎝大の柱痕が確認された。掘方から検出された P5・P6 は古い主柱穴であり、本址が建て替えを行ったことが明らかとなった。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、石器、鉄製品が出土している。土師器には坏・高坏・甕・甑の器種が認められる。坏は２点出土しており、何れも北武蔵型である。高坏は小型で、5 が低脚、3・4 は高脚である。4 に記された墨書は判読できないが、当地域で出土する墨書資料としては古い時期のものである。甕は 9 が武蔵甕、7 はヘラケズリ後粗いヘラミガキ調整が施される。8 はヘラケズリ調整が施される。甑 10 は坏の転用である。縄文土器は後期堀之内２式を主体とする。全て破片である。石器は凹石・打製石斧・磨石が出土している。鉄製品は器種不明である。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の古墳時代Ⅳ期に比定され、7 世紀代の実年代が想定される。

● H14 号住居址（第 16 図）

調査区東南端付近、H12 号住居址の北隣で検出された。H7 号住居址に切られ、調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高 0.11 m の規模である。検出範囲が狭いため南壁の一部と調査区北境の掘方においてピットの一部を検出できただけである。

出土遺物は皆無であったが、H7 号住居址の所産期である 7 世紀代を下ることはない。

● H15 号住居址（第 17・61 図）

調査区南端北寄りで H11 号住居址の北西隅に切られ検出された。H22 号住居址を切る。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。東西長 4.03 m、南北長 2.02 m、壁残高 0.45 m の規模である。カマドは北壁の

中央やや西寄りに構築されるが、破壊を受け掘方状態であった。周溝、柱穴は有さない。

遺物は土師器、須恵器、石器が出土している。土師器には坏・甕の器種が認められる。坏のロクロからの切り離しは回転糸切りで、内面にはヘラミガキ後黒色処理が施される。3には墨書が認められるが、判読出来ない。甕は全て武蔵甕である。7には台が付く。須恵器は坏と有台坏の器種が認められる。ロクロからの切り離しは4が回転糸切り、5・6は回転ヘラ切りである。5の外底には判読できないヘラ記号が認められる。石器は台石と磨石が各1点づつ出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅳ期に比定され、8世紀第Ⅳ四半期の実年代が想定される。

●H16号住居址（第18・60図）

調査区東端で検出された。他遺構との重複関係は有さない。西壁の一部分が検出されただけであり、全容は不明である。壁残高0.20 mの規模である。検出範囲にはカマド・炉・周溝・ピット等は存在しなかった。

遺物は全て須恵器で、底部回転糸切りの坏片、坏蓋片、甕片が各1点出土した。何れも細片であり、本址の時期は不明と言わざるを得ない。

●H17号住居址（第19・61図）

H11号住居址に切られ、H20号住居址を切る。東半部分が調査区外に延びるため全容は不明である。東壁の一部分が浸透トレンチ内で検出されたため、東西長が明らかとなった。南北長5.70 m、東西長5.76 m、壁残高0.47 mの規模である。カマドは北壁の中央部分に構築されているが、掘方状態に破壊されていた。掘方も含めピットは7基検出されたが、主柱穴は特定できなかった。カマド部分を除く壁下には周溝が巡っている。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、石器が出土した。土師器は坏・高坏が各1点出土した。坏は半球状の形態で、内面はヘラミガキ後黒色処理が施される。高坏は脚上部の破片である。須恵器は壺も口縁部片が1点出土した。縄文土器は中期後半から堀之内2式までの破片が出土したが、主体は堀之内1式である。石器は打製石斧・石鏃・磨石・敲石が出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の古墳時代Ⅳ期に比定され、7世紀代の実年代が想定される。

●H18号住居址（第20・61・62・63図）

調査区中央付近で検出された。H27・28号住居址、M1号溝址を切る。東南隅部分が調査区外に延びるため全容は不明である。南北長6.18 m、東西長6.24 m、壁残高0.34 mの規模である。カマドは北壁の中央部分に石芯を粘土で被覆して構築されているが、粘土部分はほとんど残存していなかった。掘方も含めピットは12基検出された。主柱穴はP1～P3の3基である短径13㎝大の割材の柱痕が確認された。カマド部分を除く壁下には周溝が巡っている。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、弥生土器、石器、鉄製品、鉄器が出土した。土師器には坏・皿・坏蓋・鉢・甕の器種が認められる。坏・皿のロクロからの切り離しは回転糸切りであり、坏蓋を含め内面はヘラミガキ後黒色処理が施される。皿28はヘラミガキではなく暗文が描かれている。墨書が記されるものも多く、「字」・「十」・「大井」などが判読できる。鉢48・49は同一個体の可能性を有する。内面はヘラミガキ後黒色処理が施され、49の体部には「大十」の墨書が記されている。甕は、50が1点のみ出土した。ロクロ甕の底部である。須恵器には坏・坏蓋・擂鉢・甕の器種が認められる。坏のロクロからの切り離しは回転糸切りである。坏蓋は天井部が平坦で、つまみは扁平な擬宝珠形態である。擂鉢は外底に刺突が施される。甕は底部片と口縁部が大きく開口する形態の頸部片が各1点出土している。縄文土器は堀之内1式を主体に加曽利B式まで出土している。弥生土器は後期箱清水期の甕・鉢・ミニチュア土器が出土している。石器は台石・編物石・磨石・敲石が出土した。鉄製品は紡錘車が、鉄器は長頸鏃が各1点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅴ期に比定され、9世紀前半の実年代が想定される。

● H19 号住居址（第 21・60 図）

H18 号住居址の北隣で検出された。M1 号溝址を切る。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高 0.45 m の規模である。壁下には断続的に周溝が巡っている。ピットは 1 基検出された。検出範囲にはカマドは存在しなかった。

遺物は土師器、須恵器、石器、石製品が出土した。土師器は北武蔵型坏が 1 点、壺の底部片が 1 点出土した。須恵器は甕の体部片が 1 点出土した。石器は打製石鏃が、石製品は石棒片が各 1 点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の古墳時代Ⅳ期に比定され、7 世紀代の実年代が想定される。

● H20 号住居址（第 22・63 図）

調査区南東端付近で H10・11・13・17 号住居址に切られて検出された。東、西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高 0.39 m の規模である。壁下には周溝が巡っている。検出範囲にはカマドは存在しなかった。床面上で柱痕だけが検出された P1・P2 は主柱であり、φ 14㎝大の規模である。

遺物は土師器、縄文土器、弥生土器、石器が出土した。土師器には甕・甑の器種が認められる。甑は小型で単孔のものである。縄文土器は後期堀之内式期のものである。弥生土器は後期箱清水期の「T」字文が施される壺の頸部片が出土した。石器は磨製石斧・スクレイパー・石鏃・磨石・敲石が出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の古墳時代Ⅳ期に比定され、7 世紀代の実年代が想定される。

● H21 号住居址（第 23・63 図）

H11 号住居址の東隣りに検出された。浸透トレンチ内に存在するため、カマドを含む北壁の一部分以外は調査区外に存在する。壁残高 0.46 m の規模である。カマドを除く壁下には周溝が巡っている。カマドは焚口部分から天井部の架け穴の 1/2 程度以外は調査区外に存在する。焚口部を石芯を粘土で被覆している以外は粘土で構築されていた。検出範囲に柱穴は存在しなかった。

遺物はヘラミガキ後黒色処理が施される土師器坏。後期堀之内 1・2 式の縄文土器、後期箱清水式期の弥生土器甕、編物石が出土している。

本址の時期は不明である。

● H22 号住居址（第 24・64 図）

H15・24 号住居址に切られて検出された。北、西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高 0.56 m の規模である。検出範囲にはカマド、周溝、柱穴は存在しなかった。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、石器、鉄器が出土している。土師器は武蔵甕の体部下半部分が 1 点出土した。須恵器は坏・有台坏・坏蓋・壺が各 1 点出土した。縄文土器は後期堀之内 1・2 式の破片が出土している。石器は石錐・磨石・敲石が出土した。鉄器は長頸鏃が 1 点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅲ・Ⅳ期に比定され、8 世紀後半の実年代が想定される。

● H23 号住居址（第 25・64・65 図）

調査区東側中央付近で検出された。F4 号掘立柱建物址に切られる。南北長 3.25 m、東西長 3.84 m、壁残高 0.65 m の規模である。カマドは北壁の中央に構築される。袖部分は所謂「地山削り出し」であるが、石芯は皆無、粘土は煙道部分を除き存在しなかった。カマドと南東隅部分を除く壁下には周溝が巡っている。床面上で 2 基のピットが検出されたが、柱痕は有さない。

遺物は土師器、土製品、石器、石製品が出土した。土師器には坏・鉢・甕・甑・壺の器種が認められる。坏は半球状と須恵器坏蓋模倣形態のものが存在し、3・4・6・7 のような北武蔵型が認められる。鉢は 3 点共に内面にヘラミガキ後黒色処理が施される。甕はハケ目やヘラケズリ調整が施される長胴のものである。甑 16 は底部を欠損するが、器面調整から甑と判断した。壺は外面と内面口縁部にヘラミガキ調整が施される。土製品は縄文

時代後期の土偶の脚片である。石器は台石・編物石・磨石・敲石・凹石・脚付の石皿が出土した。石製品は石棒片が 1 点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の古墳時代Ⅳ期に比定され、7 世紀代の実年代が想定される。

● H24 号住居址（第 26・65 図）

H22 住居址を切って構築されている。西方向に調査区外に延びるため、検出されたのは東壁の一部分だけである。壁残高 0.71 m の規模である。検出範囲にはカマド、周溝、柱穴は存在しない。

遺物は土師器有段口縁坏、甕、須恵器壺の台部分、後期堀之内 1 式の縄文土器片、縄文土器片を加工した土器片円盤が出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の古墳時代Ⅳ期に比定され、7 世紀代の実年代が想定される。

● H25 号住居址（第 27・65 図）

調査区東側中央付近で検出された。南東方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高 0.42 m の規模である。カマドは北壁の中央に構築される。袖部分は粘土が残存していた。東壁のカマドを除く東側の壁下には周溝が認められる。床面上で 4 基のピットが検出されたが、主柱穴は判然としない。

遺物は内面ヘラミガキ調整が施される半球状形態の土師器坏、ヘラケズリ調整の土師器小型甕、受部を有する須恵器坏、須恵器有台坏が各 1 点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅰ期に比定され、8 世紀第Ⅰ四半期の実年代が想定される。

● H26 号住居址（第 28・65 図）

調査区東側中央付近で検出された。東方向に調査区外に延びるため全容は不明である。N － 4° － E に長軸方位をとる。長軸長 8.24 m、短軸長 4.89 m、壁残高 0.83 m の規模である。地焼炉が住居のほぼ中央に構築されていた。周溝は有さない。P1 と P2 は主柱穴であり、短径 9㎝の割材の柱痕が確認された。南壁下中央に構築された P3・P4 は出入り口施設、P5 は貯蔵穴と思われる。本址は弥生時代後期の竪穴住居址であるが、規模的には大きな部類にはいるものと思われる。

遺物は縄文時代後期堀之内 2 式の深鉢片と注口土器の把手、弥生時代後期箱清水式の内外面赤彩の鉢、内外面赤彩の壺口縁部片、ヘラ描綾杉文が頸部に施される壺片、櫛描波状文・簾状文が施される甕、赤色顔料が付着した台石・打製石斧・磨・敲石・石皿が出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は、弥生時代後期箱清水期の所産と考えられる。

● H27 号住居址（第 29・66 図）

H18 号住居址に切られるため、南西隅部分が残存していたのみである。検出範囲にはカマド・炉、周溝は存在しない。ピットは掘方から 1 基検出されたが、本址に伴なうか否かは判断できない。壁残高 0.40 m の規模である。

遺物は弥生時代後期箱清水式の甕 2 点と打製石斧片が出土している。甕 1 は櫛描波状・簾状文、2 は櫛描斜走・簾状文が施される。

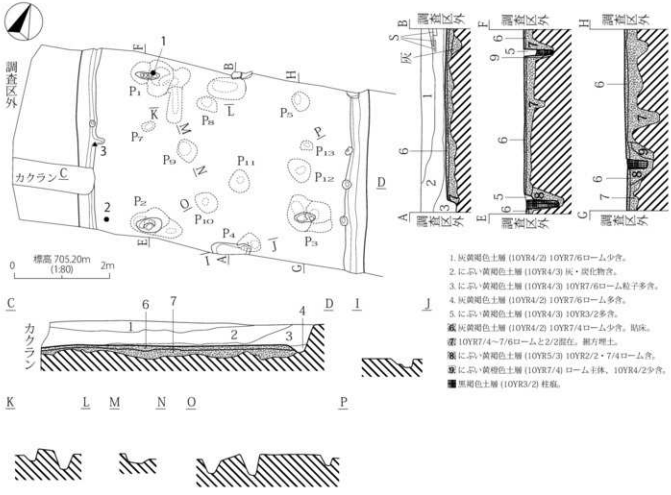
以上の出土遺物から本址は、弥生時代後期箱清水期の所産と考えられる。

● H28 号住居址（第 30・66 図）

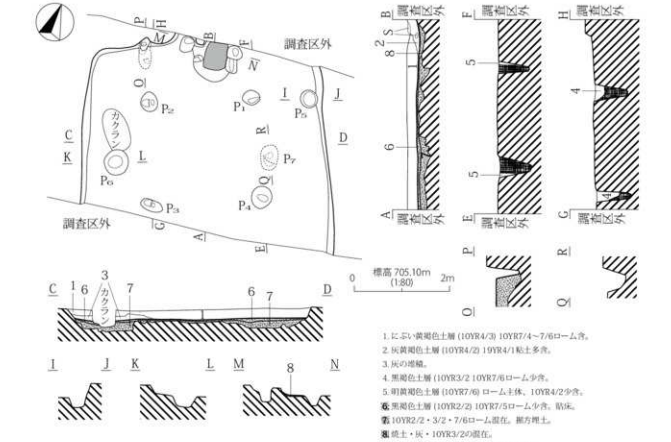
H18 号住居址、M1 号溝址に切られるため、南壁の一部が残存していたのみである。検出範囲には炉、周溝、ピットは存在しない。壁残高 0.33 m の規模である。

遺物は赤彩が施される弥生時代後期の高坏片と、縄文時代後期の深鉢片が各 1 点出土している。

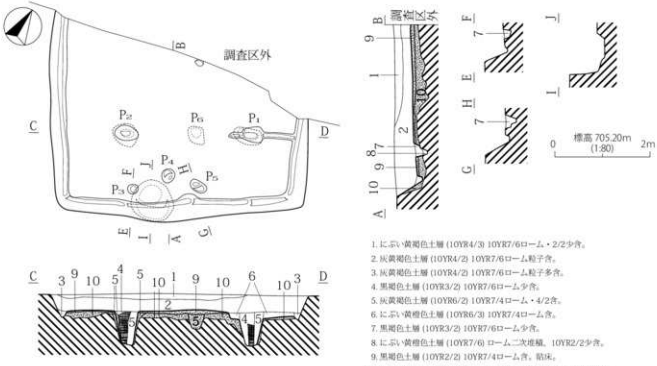
本址の所産期は弥生時代後期箱清水期の可能性が高い。



第３図　Ｈ１号住居址

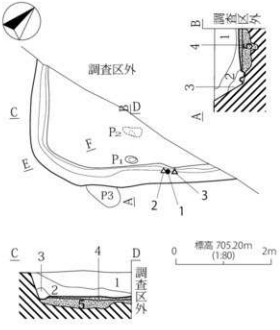


第４図　Ｈ２号住居址



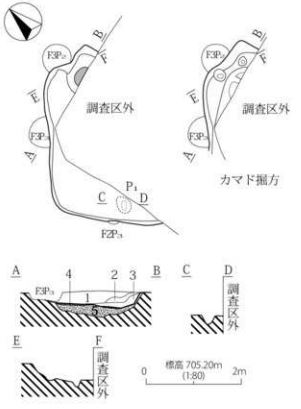
1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/6ローム・2/2少含。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/6ローム粒子含。
3. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/6ローム粒子多含。
4. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/6ローム少含。
5. 灰黄褐色土層 (10YR6/2) 10YR7/4ローム・4/2含。
6. にぶい黄橙色土層 (10YR6/3) 10YR7/4ローム含。
7. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/6ローム少含。
8. にぶい黄橙色土層 (10YR7/6) ローム二次堆積、10YR2/2少含。
9. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム含。貼床。
10. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム主体、10YR2/2少含。掘方埋土。
■ 黒褐色土層 (10YR3/2) 柱痕。

第5図　H3号住居址



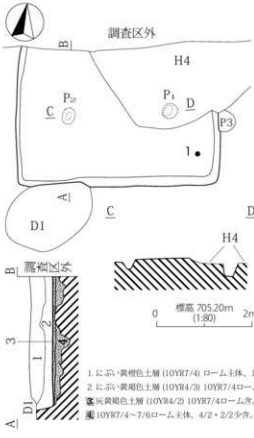
1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/6ローム粒子多含。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR2/2・7/6ローム含。
3. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/6ローム多含。
4. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR4/2少含。貼床。
5. 10YR4/2・7/4ローム・2/2混在。掘方埋土。

第6図　H4号住居址



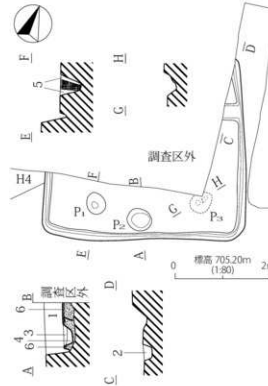
1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR4/4ローム多含。
2. 褐灰色土層 (10YR4/1) 粘土。
3. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 灰・焼土含。
4. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR4/2少含。貼床。
5. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム、10YR4/3含。掘方埋土。
▒ 灰・焼土。

第7図　H5号住居址



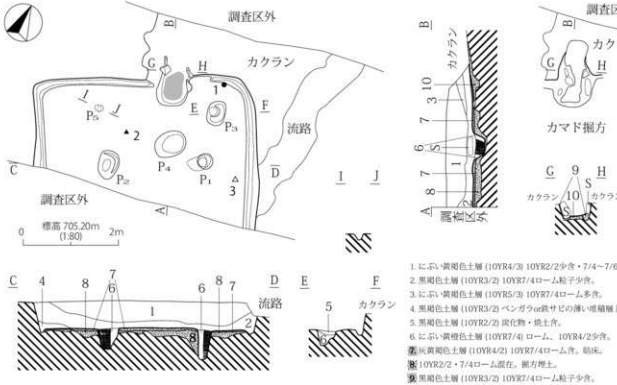
1. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム主体。10YR4/2多含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム含。
3. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム含。貼床。
4. 10YR7/4～7/6ローム主体。4/2・2/2少含。掘方埋土。

第８図　Ｈ６号住居址



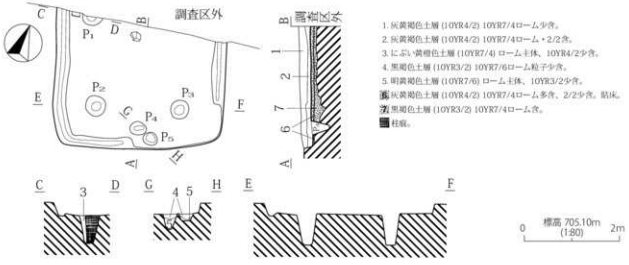
1. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム主体。10YR2/2・4/3含。床直上に炭化物。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/6ローム含。
3. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム粒子少含。
4. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム二次堆積。10YR4/2少含。
5. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム・2/2含。
6. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含。貼床。
7. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム主体。10YR4/2少含。掘方埋土。
■ 黒褐色土層 (10YR3/2) 柱痕。

第９図　Ｈ７号住居址



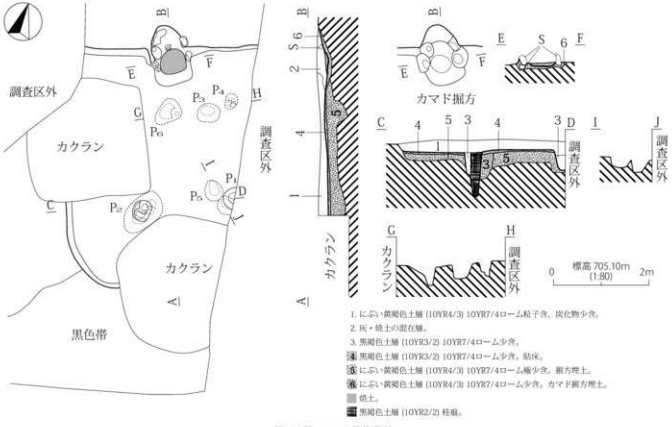
1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR2/2少含・7/4～7/6ローム多含。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム粒子少含。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。
4. 黒褐色土層 (10YR3/2) ベンガラor鉄サビの薄い堆積層上面に有。
5. 黒褐色土層 (10YR2/2) 炭化物・焼土含。
6. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム。10YR4/2少含。
7. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム含。貼床。
8. 10YR2/2・7/4ローム混在。掘方埋土。
9. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム粒子少含。
10. 黒褐色土層 (10YR3/2) 灰・焼土含。
■ 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム多含。柱痕。

第10図　Ｈ８号住居址



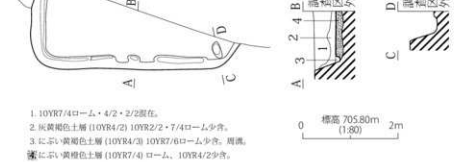
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム少含。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・2/2含。
3. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR4/2少含。
4. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/6ローム粒子少含。
5. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム主体、10YR3/2少含。
6. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム多含、2/2少含。貼床。
7. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム含。
柱痕。

第 11 図　H 9 号住居址



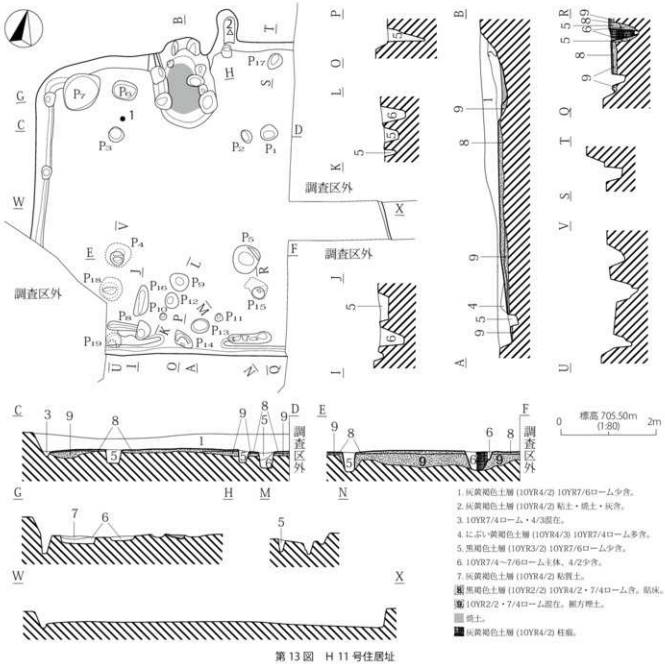
1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム粒子含、炭化物少含。
2. 灰・焼土の混在層。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。
4. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。貼床。
5. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム極少含。被方理土。
6. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム少含。カマド掘方理土。
焼土。
黒褐色土層 (10YR2/2) 柱痕。

第 12 図　H 10 号住居址

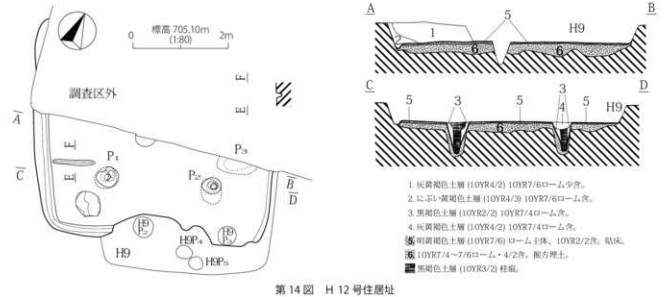


1. 10YR7/4ローム・4/2・2/2斑在。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR2/2・7/4ローム少含。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/6ローム少含。周溝。
4. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム、10YR4/2少含。

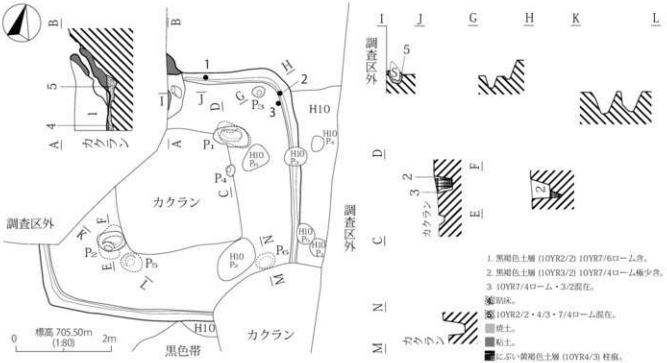
第 21 図　H 19 号住居址



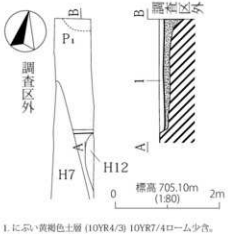
第 13 図　H 11 号住居址



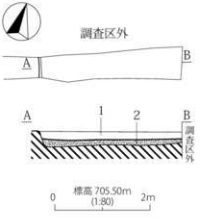
第 14 図　H 12 号住居址



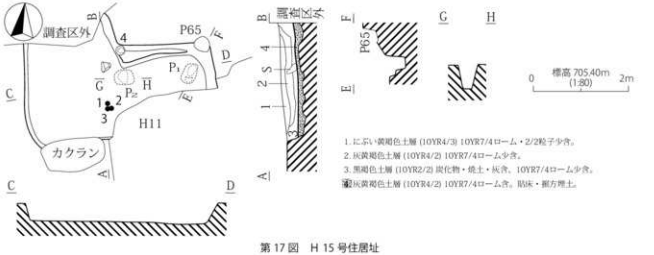
第 15 図　H 13 号住居址



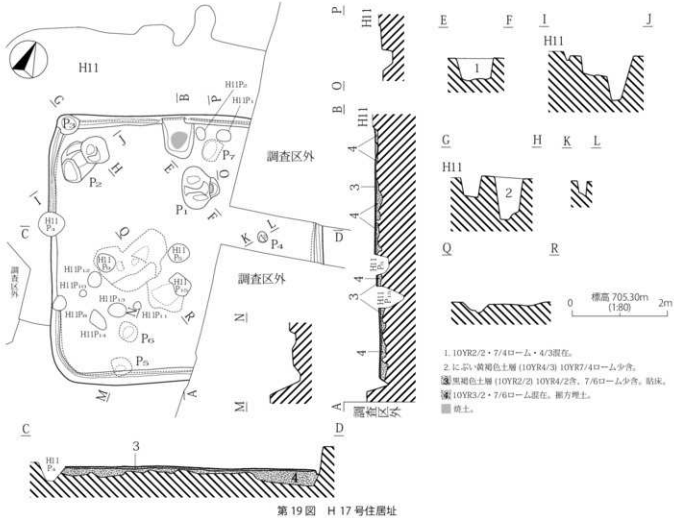
第 16 図　H 14 号住居址



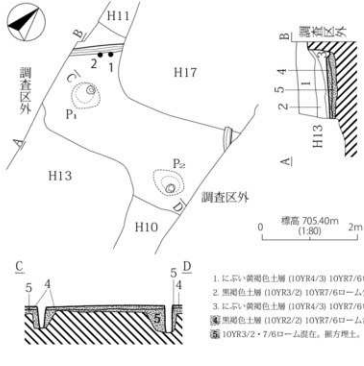
第 18 図　H 16 号住居址



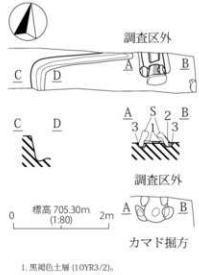
第 17 図　H 15 号住居址



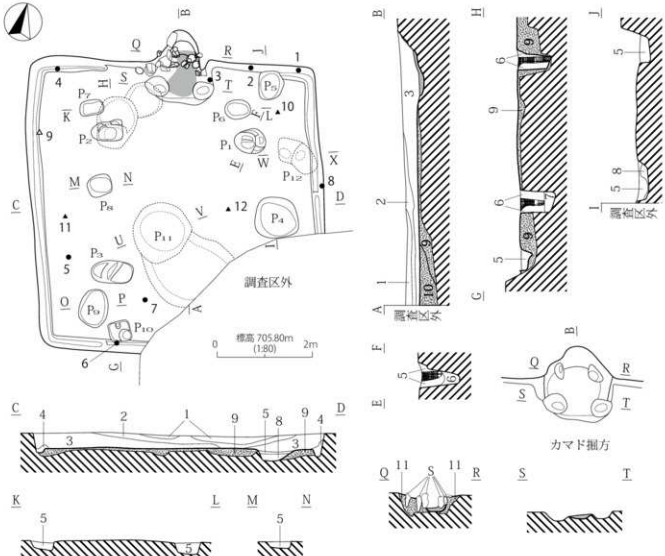
第 19 図　H 17 号住居址



第 22 図　H 20 号住居址

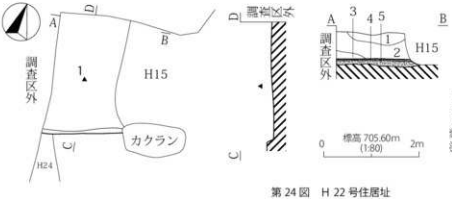


第 23 図　H 21 号住居址



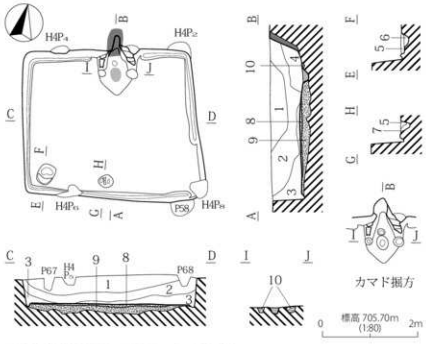
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/6ロム・2/2含。
2. 灰黄褐色土層 (10YR5/2) シルト質。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/6ロム・2/2少含。
4. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ロム主体、10YR3/2少含。
5. にぶい黄橙色土層 (10YR7/3) 10YR3/1・2/2含。
6. にぶい黄橙色土層 (10YR7/3) 10YR3/1・2/2少含。
7. にぶい黄橙色土層 (10YR7/3) 10YR2/2粒子極少含。
8. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ロム、10YR3/2少含。
9. 10YR2/2・7/6ロム混在。貼床及び掘方埋土。
10. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/6～7/4ロム含。掘方埋土。
11. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 焼土粒子・10YR7/6ロム少含。カマド掘方埋土。
焼土。
黒褐色土層 (10YR3/2) 柱痕。柱痕は板状。

第 20 図 H 18 号住居址



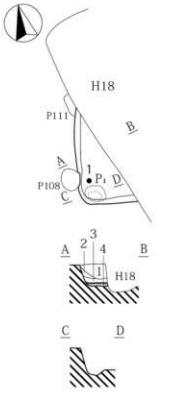
1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/6ロム多含。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/6ロム少含。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/6極少含。
4. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/6少含。貼床。
5. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/6ロム多含。掘方埋土。

第 24 図 H 22 号住居址



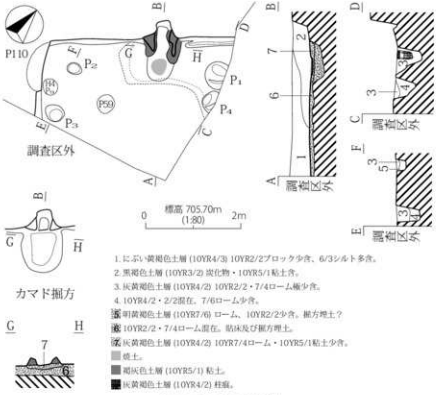
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/6ローム・2/2粒子少含。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・2/2含、掘下層に炭化物含層。
3. 灰黄褐色土層 (10YR5/2) 10YR7/4ローム多含、2/2極少含、床直上に炭化物。
4. 2層中に10YR5/1粘土含。
5. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/6ローム少含。
6. 10YR2/2・7/6ローム混在。掘方埋土？
7. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム含。
8. 10YR2/2・5/3・7/4の混在層。貼床。
9. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR2/2少含。掘方埋土。
10. カマド掘方埋土。
■ 焼土。
■ 暗灰色土層 (10YR5/1) 粘土。

第 25 図　H 23 号住居址



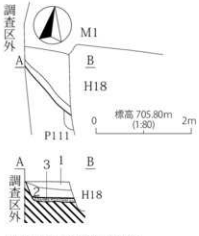
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム極少含。
2. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム含。
4. 掘方。

第 29 図　H 27 号住居址



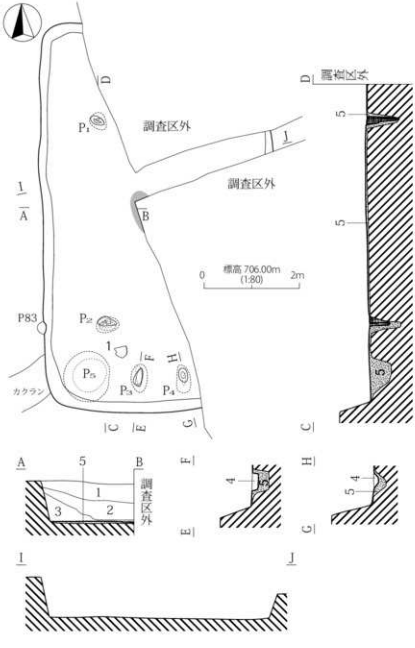
1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR2/2ブロック少含、6/3シルト多含。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 炭化物・10YR5/1粘土含。
3. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR2/2・7/4ローム極少含。
4. 10YR4/2・2/2混在、7/6ローム少含。
5. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム、10YR2/2少含。掘方埋土？
6. 10YR2/2・7/4ローム混在。貼床及び掘方埋土。
7. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・10YR5/1粘土少含。
■ 焼土。
■ 暗灰色土層 (10YR5/1) 粘土。
■ 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 柱痕。

第 27 図　H 25 号住居址

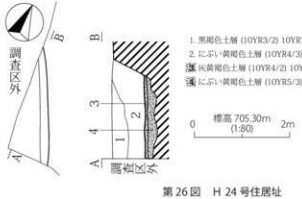


1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR4/2含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。
3. 掘方埋土。

第 30 図　H 28 号住居址



第 28 図　H 26 号住居址



第 26 図　H 24 号住居址

● H29 号住居址（第 31 図）

調査区北端付近で検出された。H30 号住居址を切る。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高 0.35 m の規模である。検出範囲にはカマド・炉・周溝・ピットは存在しない。

出土遺物が皆無のため本址の時期は不明である。

● H30 号住居址（第 32・66 図）

調査区北端付近で検出された。H29 号住居址、M2 号溝址に切られる。北、西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高 0.71 m の規模である。床面の中央には地焼炉が構築されている。床面上で検出された P1 は主柱穴と思われる。東壁下の一部分には周溝が認められた。

遺物は後期堀之内 1 式を主体とする縄文土器と、弥生時代後期箱清水期の鉢・甕・壺。鞴の羽口。砥石・打製石斧が出土した。

以上の出土遺物から本址は弥生時代後期箱清水式期の所産と考えられる。

● H31 号住居址（第 33・65 図）

調査区北端で検出された。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高 0.42 m の規模である。壁下には周溝が巡る。検出部分にはカマド、ピットは存在しなかった。

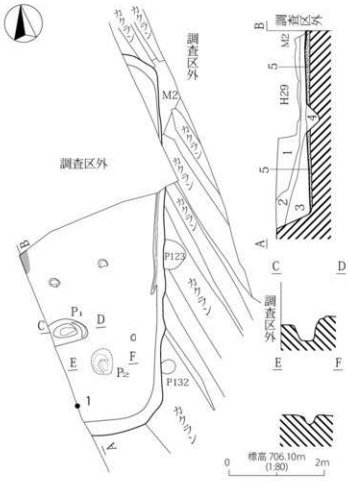
遺物は須恵器有台坏の底部片と磨石が出土した。

本址の時期は不明である。

第 2 節　掘立柱建物址

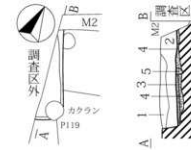
● F1 号掘立柱建物址（第 34・66 図）

調査区南端中央付近で検出され



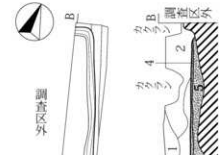
1. 10YR2/2・4/3・7/4～7/6ローム混在。人為埋土又は人為埋土の二次堆積。
2. にぶい黄褐色土層（10YR5/3）10YR2/2・7/6ローム含。人為埋土又は人為埋土の二次堆積。
3. 黒褐色土層（10YR2/2）10YR4/2・7/6ローム少含。人為埋土又は人為埋土の二次堆積。
4. にぶい黄褐色土層（10YR5/3）10YR2/2含。柱穴。
5 にぶい黄橙色土層（10YR7/4）ローム、10YR5/3含。貼床及び掘方埋土。
■ 砦土。

第 32 図　H 30 号住居址



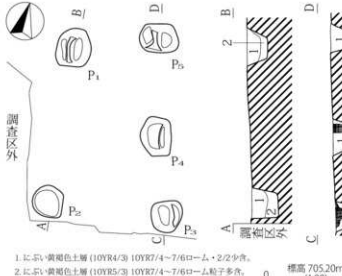
1. 黒褐色土層（10YR3/2）10YR7/4ローム粒子少含。
2. 黒褐色土層（10YR2/2）10YR7/4ローム少含。
3 にぶい黄褐色土層（10YR5/3）10YR7/4ローム少含。貼床。
4 にぶい黄橙色土層（10YR7/4）ローム、10YR5/3少含。掘方埋土。
5 灰黄褐色土層（10YR4/2）10YR7/4ローム多含。

第 31 図　H 29 号住居址



1. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）10YR7/4～7/6ローム多含、2/2少含。
2. 灰黄褐色土層（10YR4/2）10YR7/4～7/6少含。
3. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）10YR7/4～7/6ローム少含、2/2極少含。
4 にぶい黄橙色土層（10YR7/4）ローム主体、10YR5/3少含。貼床。
5 10YR7/4～7/6ローム主体、2/2・4/3少含。掘方埋土。

第 33 図　H 31 号住居址



1. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）10YR7/4～7/6ローム・2/2少含。
2. にぶい黄褐色土層（10YR5/3）10YR7/4～7/6ローム粒子多含。
■ 黒褐色土層（10YR3/2）柱痕。

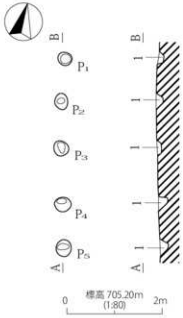
第 34 図　F1 号掘立柱建物址

た。OT1・2 を切る。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。桁行 3.64 m、深度 0.56 m の規模で、φ 18㎝大の柱痕が確認された。2 ×？間の側柱の形態である。

遺物は須恵器有台坏片と弥生時代後期の壺片が各 1 点出土しているが、本址の時期を確定できるものではない。

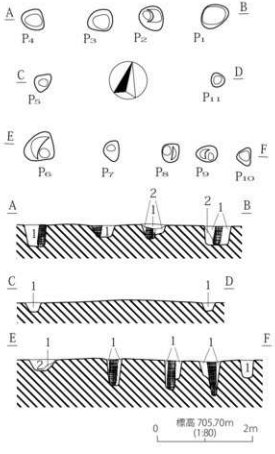
● F2 号掘立柱建物址（第 35 図）

調査区南端中央付近で、5 基の柱穴で構成される柱列 1 列が検出された。H5 号住居址を切っている。調査区外に延びるため全容は不明である。長さ 3.98 m、深度 0.20 m の



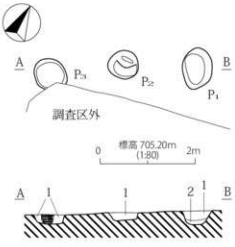
1. にぶい黄褐色土層（10YR5/3）10YR7/6～7/4ローム粒子多含。

第 35 図　F2 号掘立柱建物址



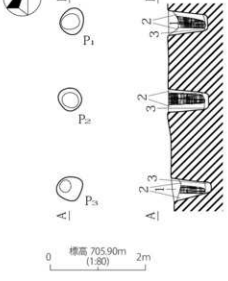
1. 黒褐色土層（10YR3/2）10YR7/4ローム・シルト質(6)・砂粒少含。
2. 黒褐色土層（10YR2/2）10YR7/6ローム少含。
■にぶい黄褐色土層（10YR4/3）柱痕。

第 37 図　F4 号掘立柱建物址



1. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）10YR7/6ローム少含。
2. にぶい黄橙色土層（10YR7/4）ローム主体、10YR4/2含。
■黒褐色土層（10YR3/2）柱痕。

第 36 図　F3 号掘立柱建物址



1. 灰黄褐色土層（10YR6/2）10YR7/6ローム少含。
2. 灰黄褐色土層（10YR6/2）10YR7/6ローム・2/2少含。
3. 明黄褐色土層（10YR7/6）ローム・10YR2/2少含。
■にぶい黄褐色土層（10YR5/3）柱痕。

第 38 図　F5 号掘立柱建物址

規模である。柱痕は確認されなかった。

出土遺物が皆無のため、本址の時期は不明である。

● F3 号掘立柱建物址（第 36 図）

調査区南端中央付近で、3 基の柱穴で構成される柱列 1 列が検出された。H5 号住居址を切っている。調査区外に延びるため全容は不明である。長さ 3.07 m、深度 0.28 mの規模で、φ 26 ㎝大の柱痕が確認された。

出土遺物が皆無のため、本址の時期は不明である。

● F4 号掘立柱建物址（第 37 図）

調査区東端中央付近で検出された。H23 号住居址を切っている。N－103°－W に主軸をとる。桁行長 3.76 ～ 4.26 m、梁間長 2.96 m、深度 0.75 m、面積 10.8 ㎡の規模である。φ 16㎝大の柱痕が確認されている。2 × 3 間の側柱の形態であるが、南側の桁行のみ柱穴が 1 基多く、4 間である。

出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明である。

● F5 号掘立柱建物址（第 38・66 図）

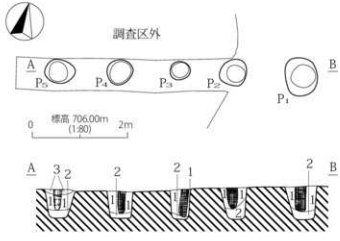
調査区東端北寄りで、3 基の柱穴で構成される柱列 1 列が検出された。H26 号住居址を切っている。長さ 3.53 m、深度 0.85 m の規模である。φ 21㎝大の柱痕が確認されている。東方向に調査区外に延びるため全容は不明である。

出土遺物は打製石斧の破片が1点出土しているが、本址の時期を比定できるものではない。

● F6 号掘立柱建物址（第 39・66 図）

調査区東端北寄りで、5 基の柱穴で構成される柱列 1 列が検出された。検出範囲では、他遺構との重複関係は有さない。長さ 5.14 m、深度 0.72 m の規模である。φ 21cm大の柱痕が確認されている。調査区外に延びるため全容は不明である。

須恵器の坏片が1点出土しているが、本址の時期を比定できるものではない。



1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/6ローム少含。
2. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム、10YR2/2少含。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/6ローム少含。
■ 黒褐色土層 (10YR3/2) 柱痕。

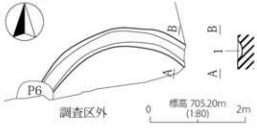
第 39 図　F6 号掘立柱建物址

第 3 節　土坑

● D1 号土坑（第 40・66 図）

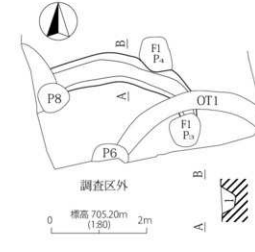
調査区南端中央付近で検出された。平面楕円、断面逆梯形の形態を呈する。H6 号住居址を切る。N − 48° − E に長軸方位をとり、長軸長 2.02 m、短軸長 1.39 m、深度 0.16 m、面積 1.85 ㎡の規模である。

遺物は土師器の皿片が 1 点出土しているが、本址の時期を比定出来るものではない。



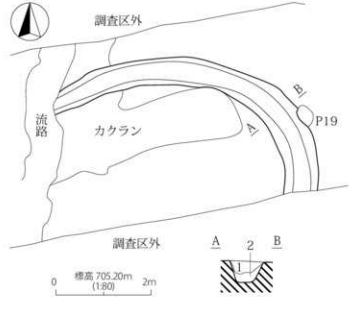
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム少含。

OT1号周溝墓



1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/6ローム・4/3少含。

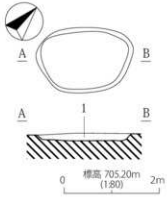
OT2号周溝墓



1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含。そうじっ部分に人頭大の角礫有。
2. 10YR7/6〜7/4ローム。二次堆積。

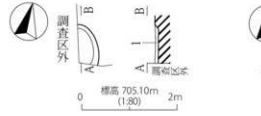
OT3号周溝墓

第 41 図　周溝墓



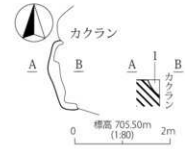
1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR2/2・7/4ローム粒子含。

D1号土坑



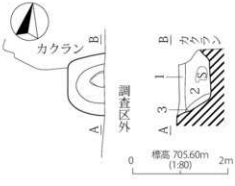
1. 褐色土層 (10YR4/6) 砂質土。

D2号土坑



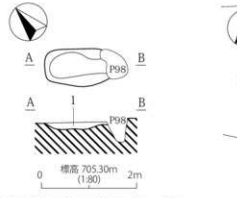
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム含。

D3号土坑



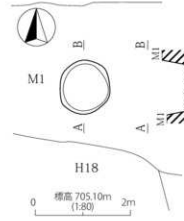
1. にぶい黄橙色土層 (10YR6/4) 10YR7/4ローム・パミス極少含。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR6/4少含。
3. にぶい黄橙色土層 (10YR6/4) 10YR7/6ローム含。

D4号土坑

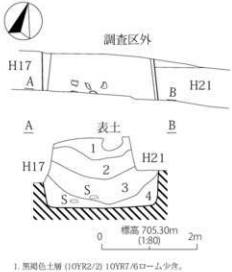


1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR5/3・7/4ローム少含。

D5号土坑

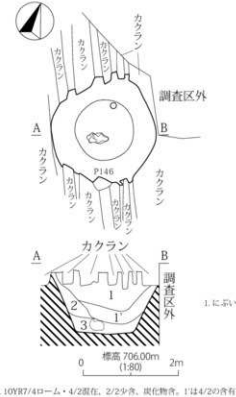


D7号土坑



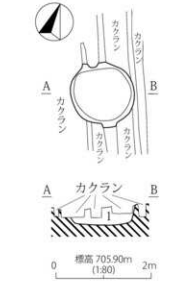
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/6ローム少含。
2. にぶい黄橙色土層 (10YR6/4) 10YR7/6主体、4/2含。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/6ローム・Φ20cm大礫含。
4. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/6ローム多含。

D6号土坑



1. 10YR7/4ローム・4/2混在、2/2少含、炭化物含。1'は4/2の含有率が高い。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR2/2含、7/4ローム少含。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 砂質、10YR7/4ローム極少含。

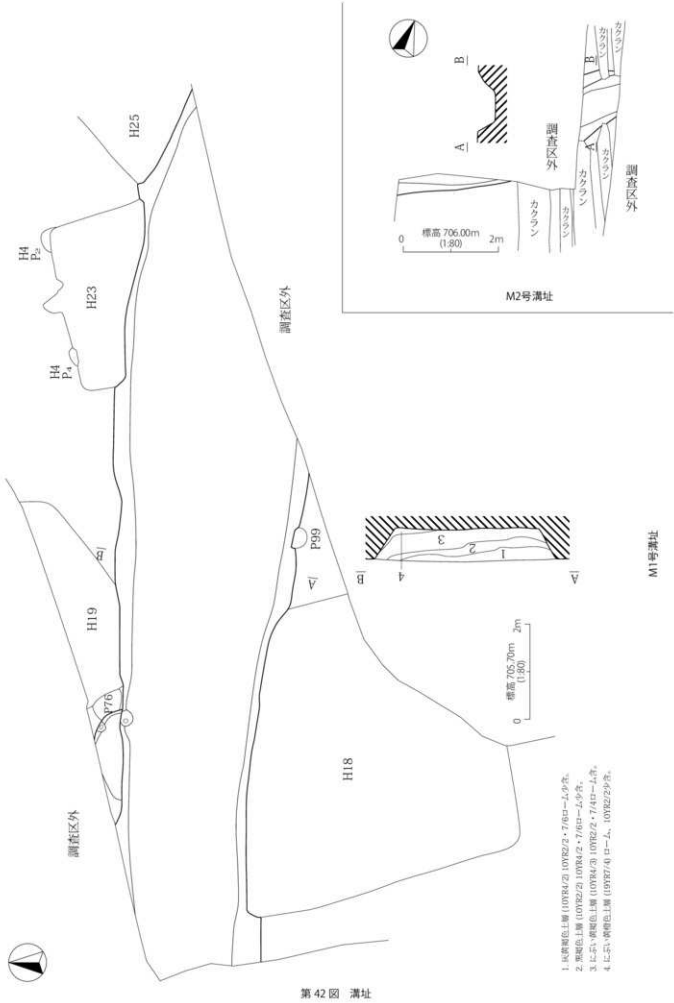
D8号土坑



1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR2/2・7/6ローム含。

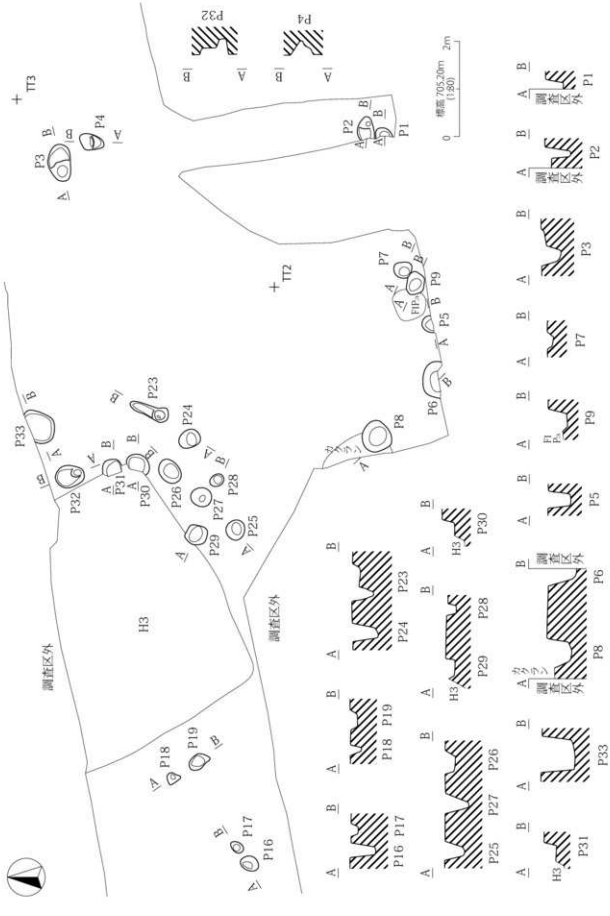
D9号土坑

第 40 図　土坑



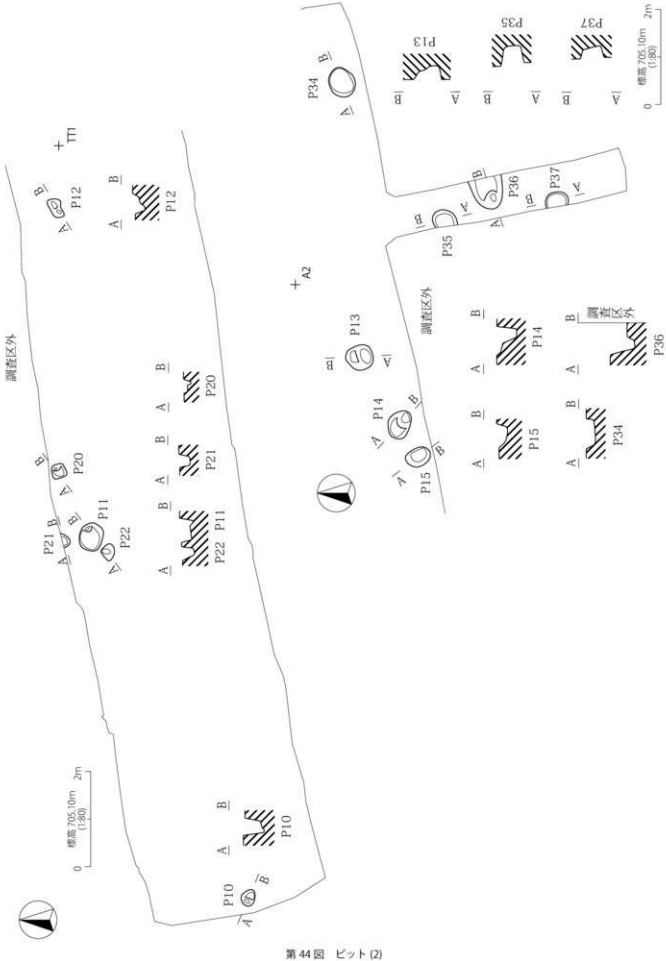
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR2/2・7/6ローム少々。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR4/2・7/6ローム少々。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR2/2・7/4ローム小々。
4. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム、10YR2/2少々。

第42図　溝址



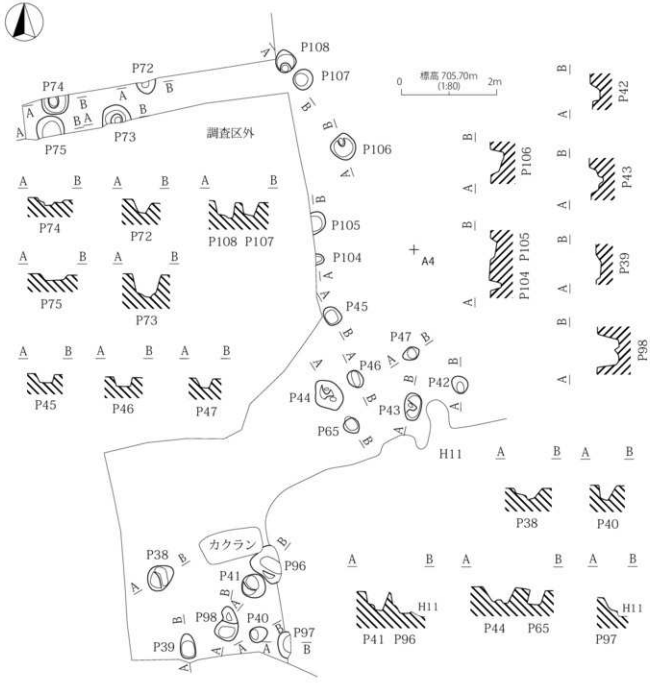
第43図　ピット(1)

(P1・2・3・4・5・6・7・8・9・16・17・18・19・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33)



第 44 図　ピット (2)

（P10・11・12・13・14・15・20・21・22・34・35・36・37 号ピット）



第 45 図　ピット (3)

(P38 ～ 47・65・72 ～ 75・96 ～ 98・104 ～ 108 号ピット)

● D2 号土坑（第 40 図）

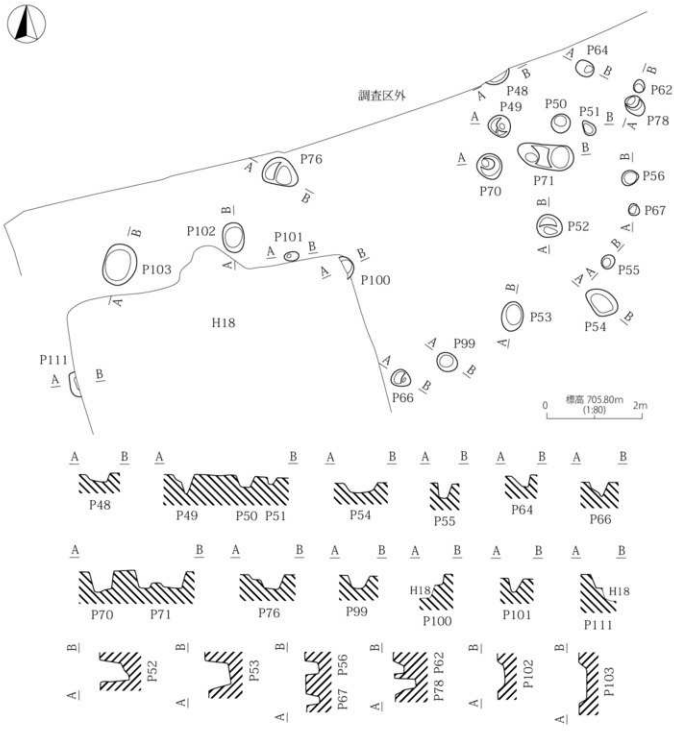
調査区東南端で検出された。調査区外に延びるため全容は不明である。断面逆梯形の形態を呈する。検出範囲においては他遺構との重複関係は有さない。深度 0.07 m の規模である。

遺物は須恵器甕片、弥生後期の壺片・打製石斧・磨・敲石が各 1 点出土しているが、本址の時期を比定出来るものではない。

● D3 号土坑（第 40 図）

調査区中央付近で検出された。カクランに破壊され全容は不明である。断面逆梯形の形態を呈する。深度 0.32 m の規模である。

出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明である。



第 46 図　ピット (4)

(P48 ～ 56・62・64・66・67・70・71・76・78・99 ～ 103・111 号ピット)

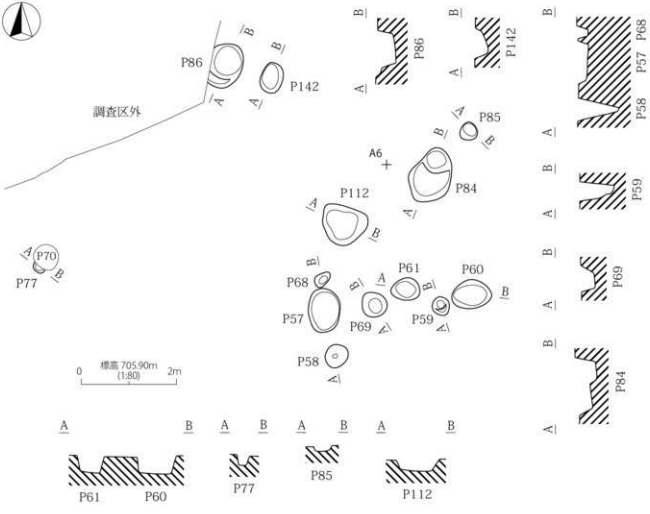
● D4 号土坑（第 40 図）

調査区中央付近で検出された。調査区外に延びるため全容は不明である。断面逆梯形の形態を呈する。短軸長 1.32 m、深度 0.70 mの規模である。

1 の土師器坏以外は、縄文時代後期堀之内 1 式の土器片が主体的に出土している。よって本址は堀之内 1 式期の所産と思われる。

● D5 号土坑（第 40・66 図）

調査区中央付近で検出された。P98 に切られる。N － 130°－ E に長軸方位をとる。断面逆梯形の形態を呈し、短軸長 0.80 m、深度 0.16 mの規模である。



第 47 図　ピット (5)

（P57 ～ 61・68・69・77・84 ～ 86・112・142 号ピット）

縄文土器の深鉢片を利用した土器片円盤が 1 点出土しているが、本址の時期を比定出来るものではない。

● D6 号土坑（第 40・66・67 図）

調査区中央付近で検出された。H21 号住居址に切られ、調査区外に延びるため全容は不明である。断面逆梯形の形態を呈し、短軸長 2.39 m、深度 1.48 m の規模である。

縄文時代後期堀之内 1 式から 2 式の土器片、土偶片、土器片円盤、石器などが出土している。主体となるのは堀之内 2 式の土器であり、本址は該期の所産と思われる。

● D7 号土坑（第 40 図）

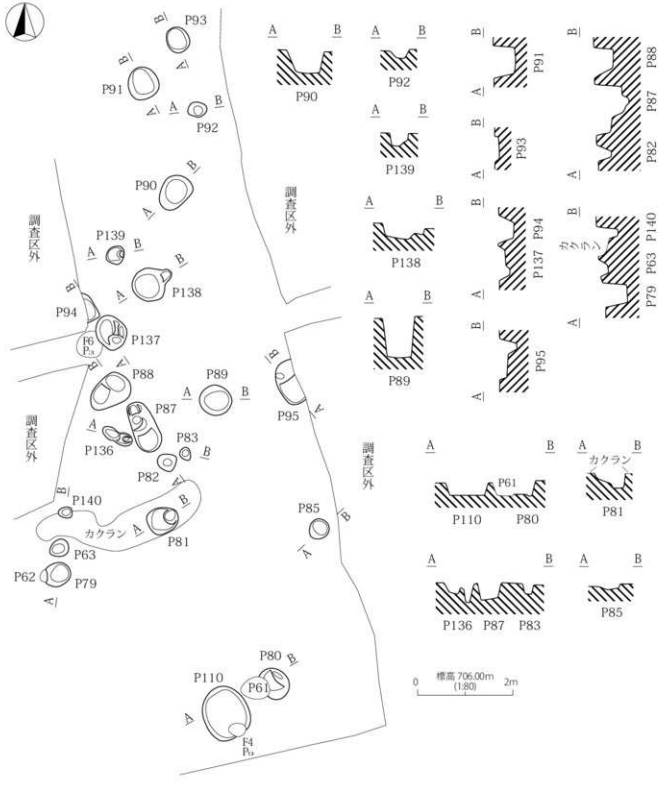
調査区中央付近で検出された。M1 号溝址に切られる。ほぼ真北に長軸方位をとり、平面楕円、断面逆梯形の形態である。長軸長 1.16 m、短軸長 1.05 m、深度 0.52 m、面積 0.73㎡の規模である。

出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明である。

● D8 号土坑（第 40・67 図）

調査区北端付近で検出された。カクランによる破壊を受ける。N － 20°－ W に長軸方位をとる。平面円、断面逆梯形の形態で、長軸長 2.41 m、短軸長 2.22 m、深度 1.31 m の規模である。

土師器坏・高坏・ロクロ甕、須恵器坏・有台坏・坏蓋、軽石製品、磨・敲石などが出土している。須恵器坏 4 は特異な底部形態であり、削出高台の有台坏と捉えるべきかもしれない。



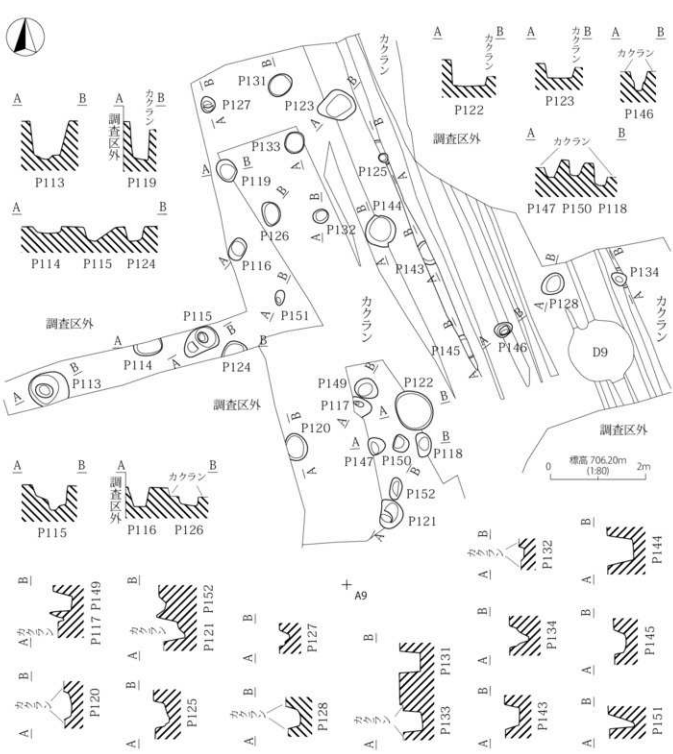
第 48 図　ピット (6)

（P63・79 ～ 85・87 ～ 95・110・136 ～ 140 号ピット）

出土遺物の特徴から、本址は聖原編年の奈良・平安時代Ⅱ期に比定され、８世紀第Ⅱ四半期の実年代が想定される。

● D9 号土坑（第 40・67 図）

調査区北端付近で検出された。カクランによる破壊を受ける。N － 20° － W に長軸方位をとる。平面円、断面逆梯形の形態で、長軸長 1.39 m、短軸長 1.36 m、深度 0.40 mの規模である。



第 49 図　ピット (7)

(P113 ～ 128・131 ～ 134・143 ～ 147・149 ～ 152 号ピット)

縄文時代後期堀之内式深鉢の底部片が 1 点出土しているが、本址の時期を比定出来るものではない。

第 4 節　周溝墓

●OT1 号周溝墓（第 41・67 図）

調査区南端中央付近で検出された。OT2 を切る。調査区外に延びるため全容は不明である。平面円、断面逆梯形の形態で、溝の最大幅 0.34 m、深度 0.08 m の規模である。

赤彩される壺の口縁部片が 1 点出土している。本址は弥生時代後期の所産と思われる。

● OT2 号周溝墓（第 41・67 図）

調査区南端中央付近で検出された。OT1 に切られる。調査区外に延びるため全容は不明である。平面円、断面逆梯形の形態で、溝の最大幅 0.65 m、深度 0.32 mの規模である。

ヘラ描の矢羽状文が施される壺の頸部片が 1 点出土している。本址は弥生時代後期の所産と思われる。

● OT3 号周溝墓（第 41・67・68 図）

調査区南端中央付近で検出された。流路による破壊を受ける。調査区外に延びるため全容は不明である。平面円、断面逆梯形の形態で、溝の最大幅 0.75 m、深度 0.45 mの規模である。

縄文時代後期堀之内式の土器片や、須恵器なども出土しているが、高坏・甕・壺などの弥生時代後期の土器群が本址に伴うものであり、本址は弥生時代後期の所産と思われる。

第 5 節　溝址

● M1 号溝址（第 42・68・69 図）

調査区南端中央付近を西から東に走る。H18・19・23・25・28 号住居址、F4 号掘立柱建物址に切られる。調査区外に延びるため全容は不明であるが、長野県埋蔵文化財センター調査分の西近津遺跡群の弥生環濠、佐久市調査分の西近津遺跡Ⅶの溝址に連結するものと推測される。断面逆梯形の形態で底面は平坦で広い。溝の最大幅 4.15 m、深度 0.72 mの規模である。

縄文時代後期堀之内式の土器片や土器片円盤、石器などが出土しているが、位置的には中部横断自動車道で調査された、西近津遺跡群の弥生時代後期の環濠とされる溝と同一の遺構と考えられる。

● M2 号溝址（第 42・69 図）

調査区北端を西から東に走る。H30 号住居址址を切る。調査区外に延びるため全容は不明である。断面逆梯形の形態である。溝の最大幅 1.05 m、深度 0.37 mの規模である。

須恵器坏・有台坏片が各 1 点出土しているが、本址の所産期は不明である。

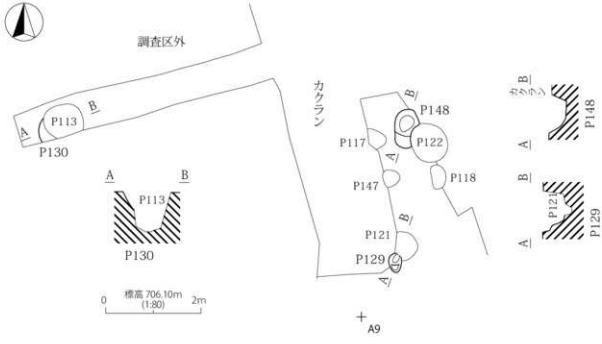
第 6 節　ピット

● P1 ～ P152（第 43 図～ 50 図・69）

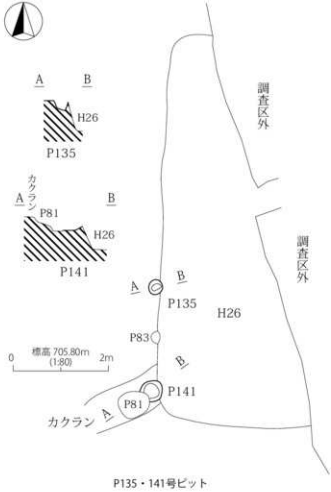
152 基検出された。検出位置、規模等については計測表、実測図を参照願いたい。多くのものは出土遺物はなく時期・性格共に不明である。

第 7 節　遺構外出土遺物（第 69・70 図）

本来は各遺構に伴っていたものであろうが、重機による表土除去作業中に遺構から切り離されたものである。よって、本遺跡に認められる各時期の遺物が出土しているが、量的には縄文土器片が多い。



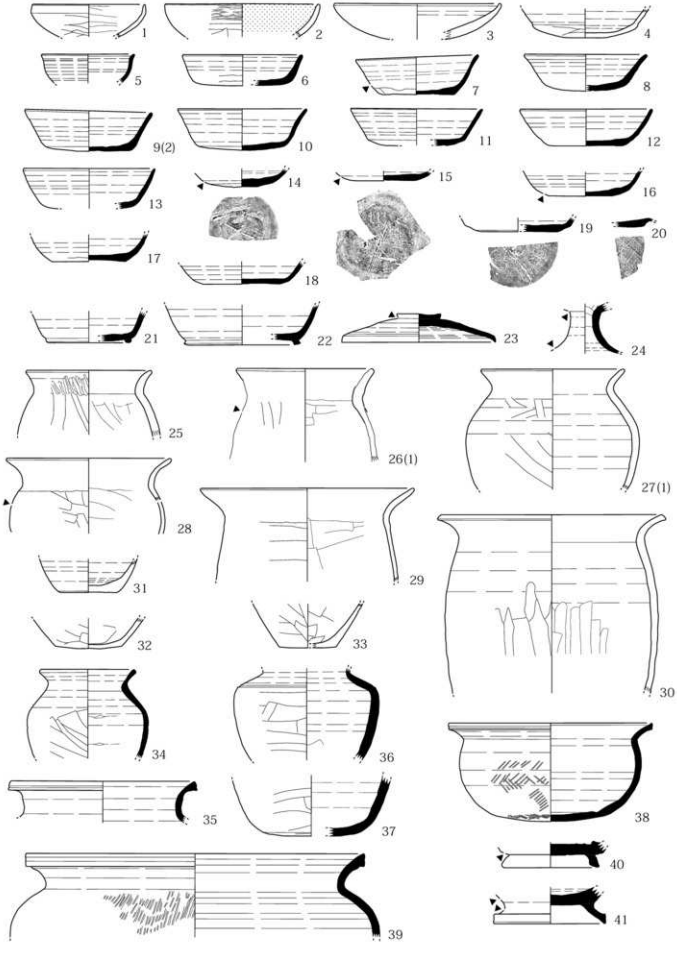
P129・130・148号ピット



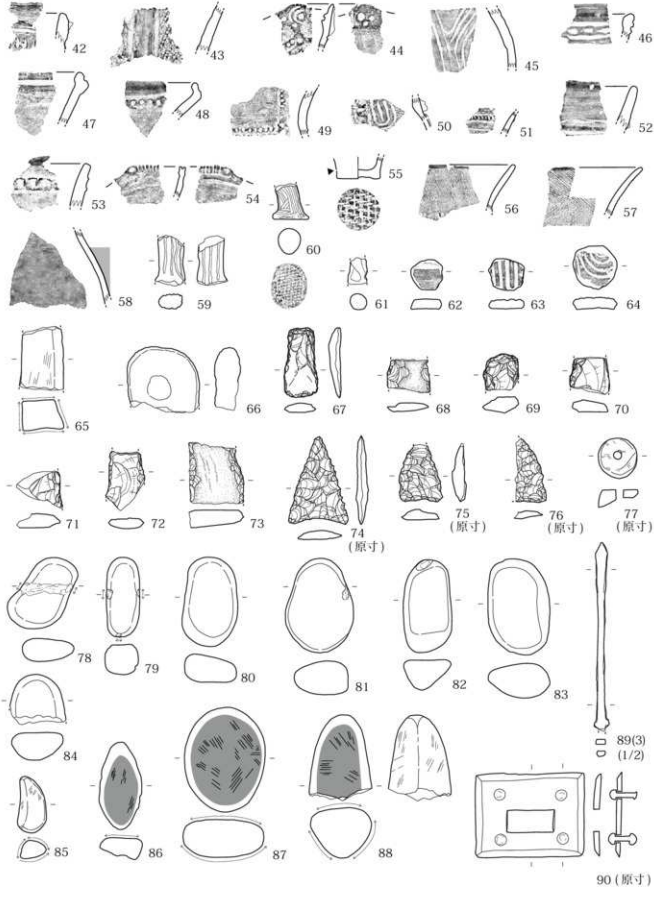
P135・141号ピット

第 50 図　ピット (8)

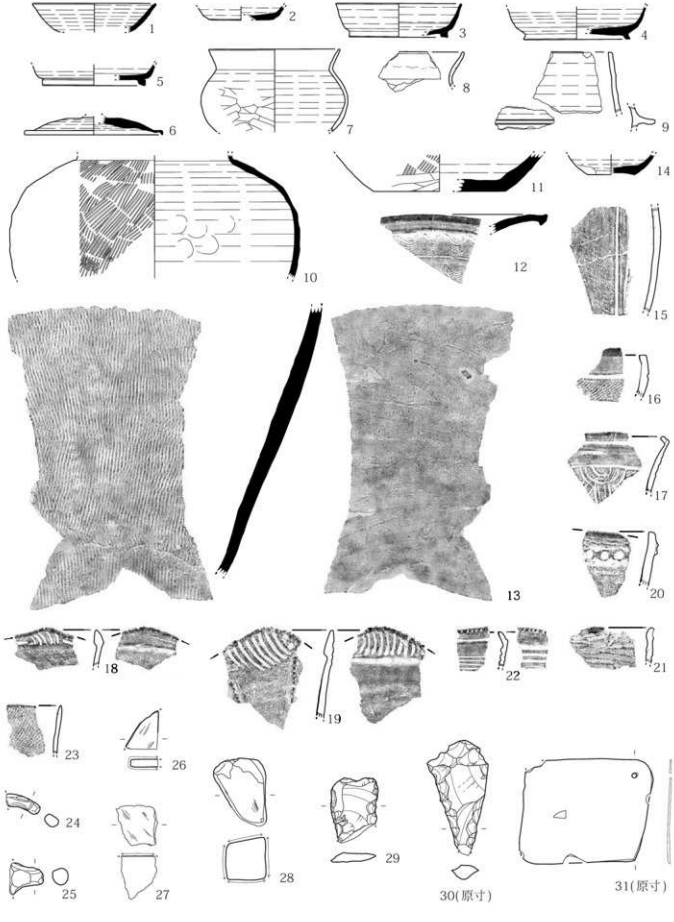
(P129・130・148・P135・141 号ピット)



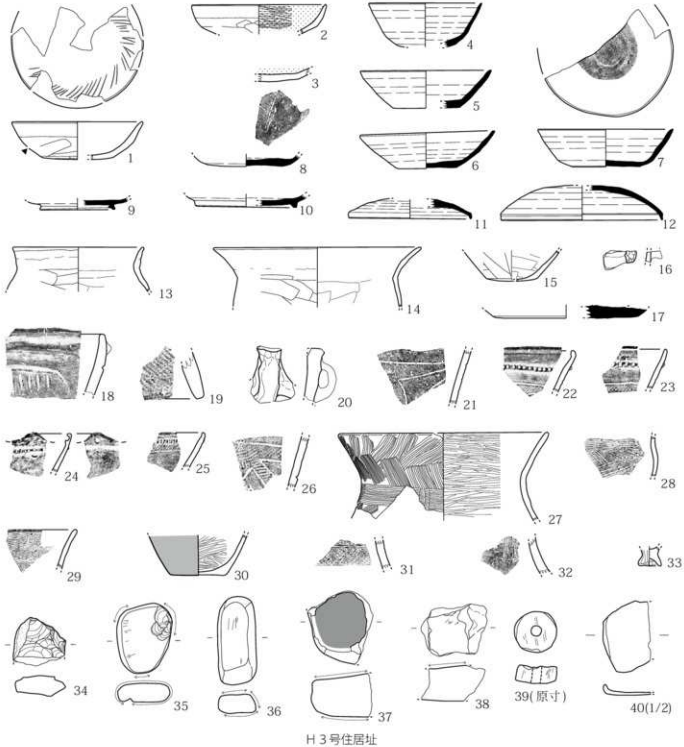
第51図　H1号住居址出土遺物(1)



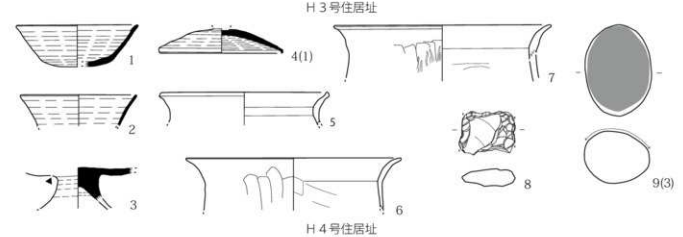
第 52 図　H 1 号住居址出土遺物 (2)



第53図　H2号住居址出土遺物

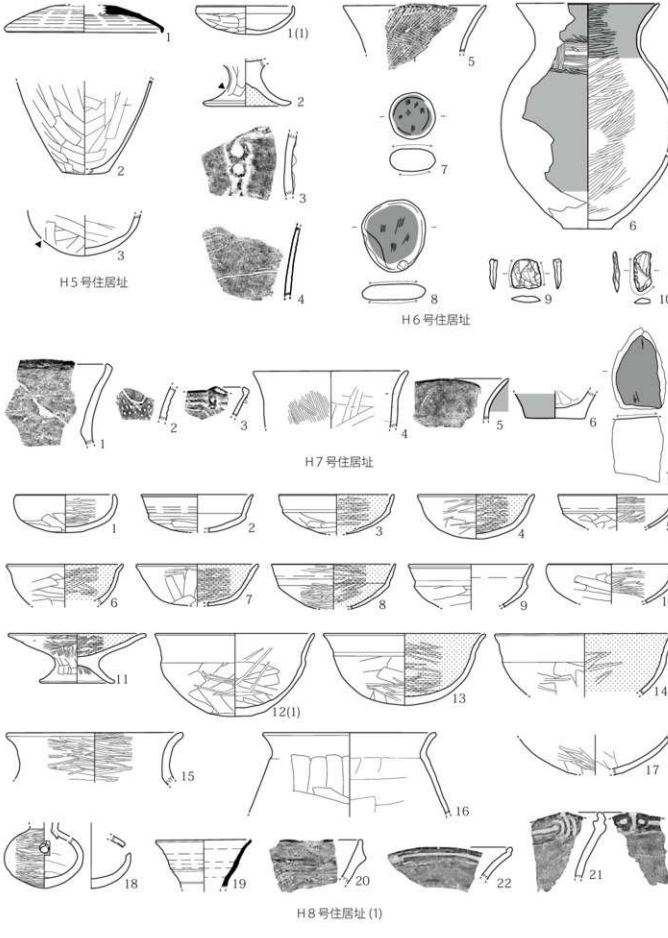


H３号住居址

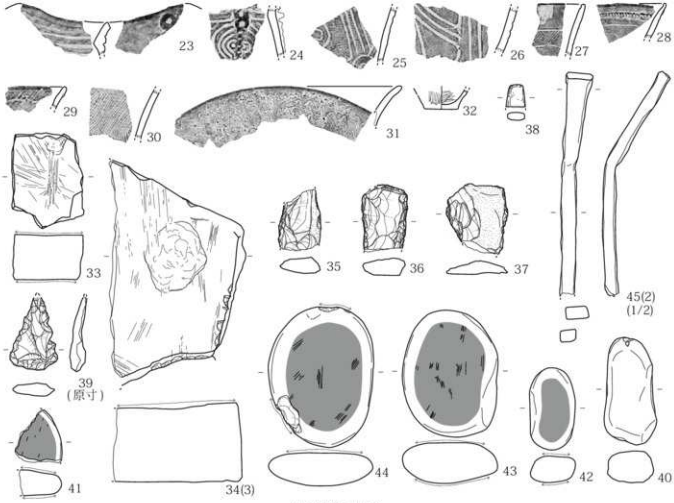


H４号住居址

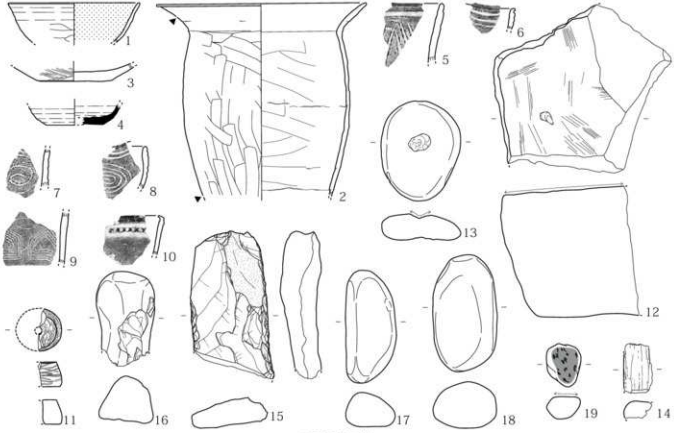
第54図　H３・４号住居址出土遺物



第 55 図　H 5 号住居址～H 8 号住居址 (1) 出土遺物

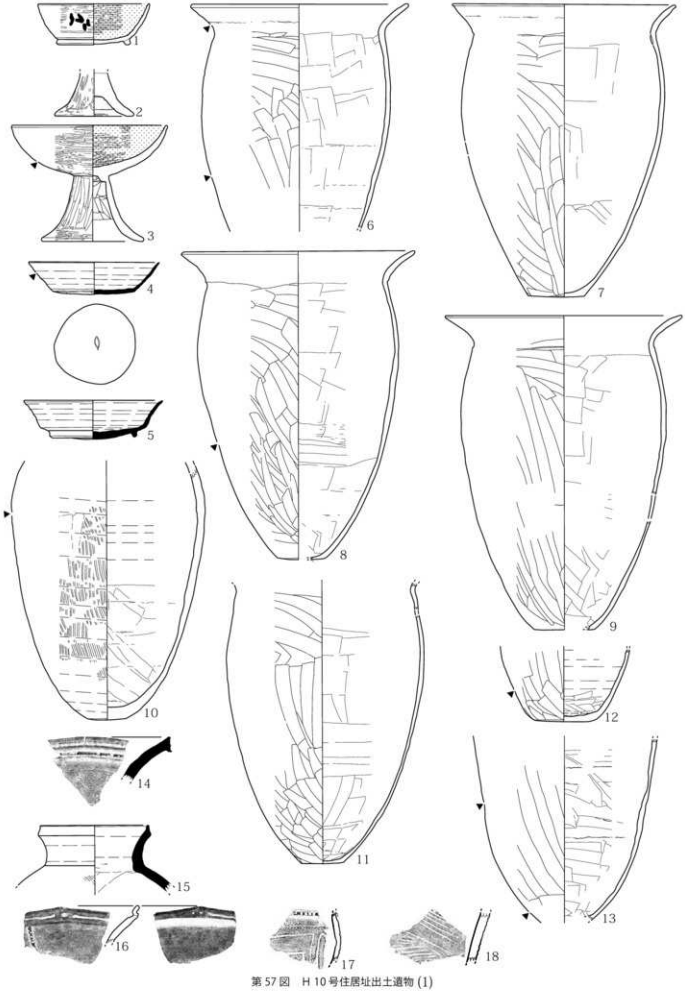


Ｈ８号住居址 (2)

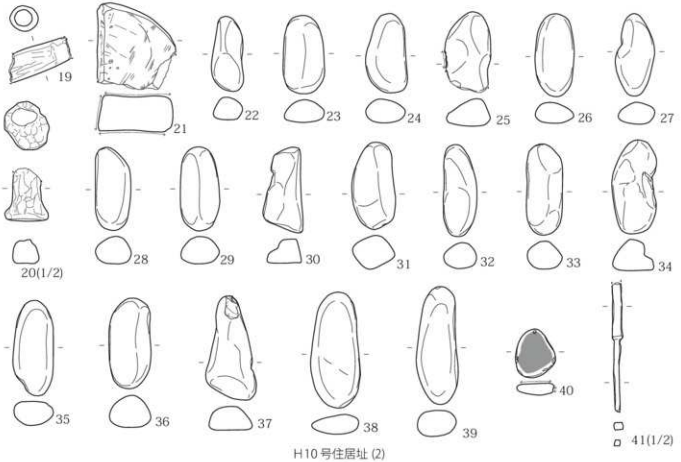


Ｈ９号住居址

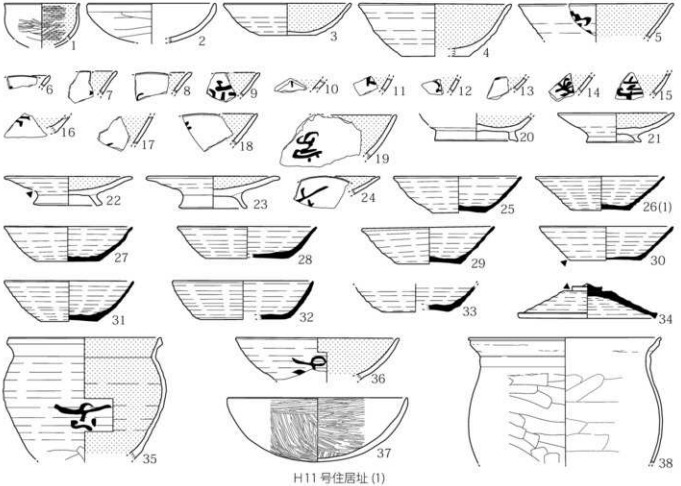
第 56 図　Ｈ８号住居址 (2)・Ｈ９号住居址出土遺物



第57図　H 10号住居址出土遺物 (1)

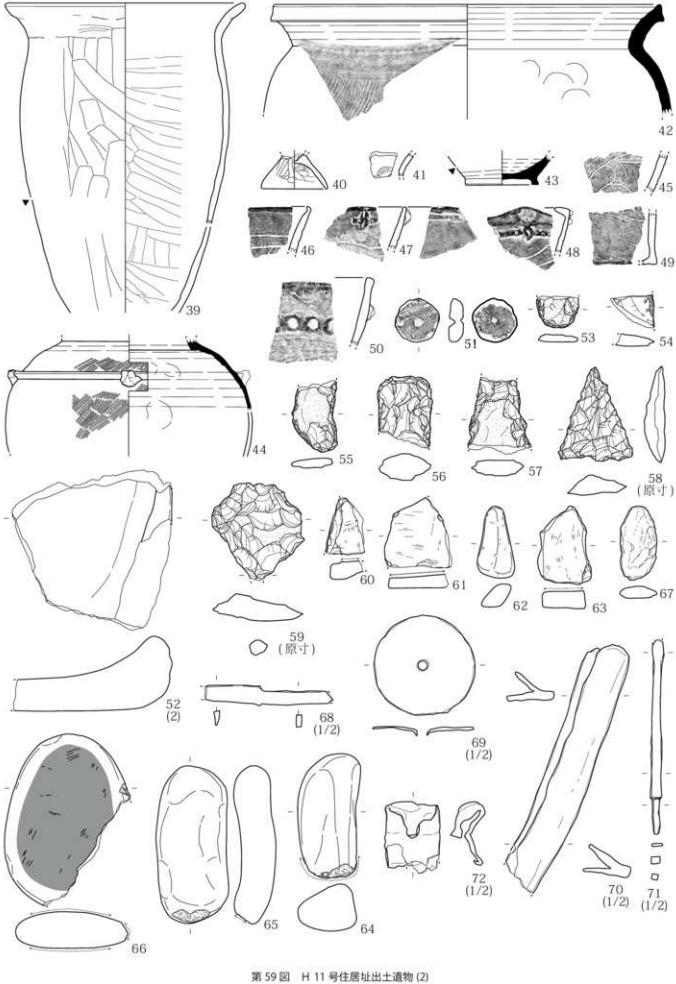


H10 号住居址 (2)

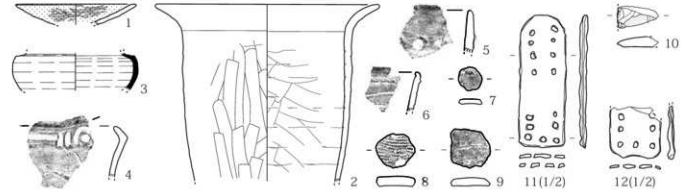


H11 号住居址 (1)

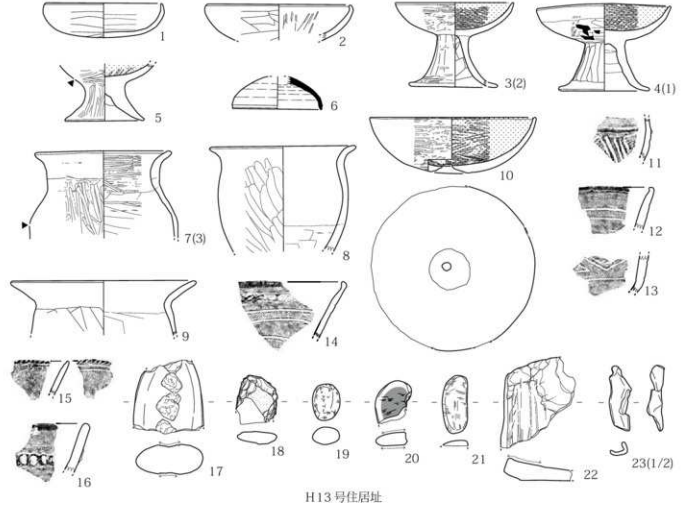
第 58 図　H 10 号住居址 (2)・H 11 号住居址出土遺物 (1)



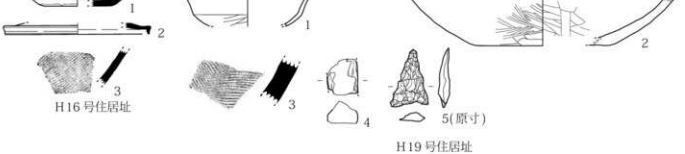
第 59 図　H 11 号住居址出土遺物 (2)



H12 号住居址



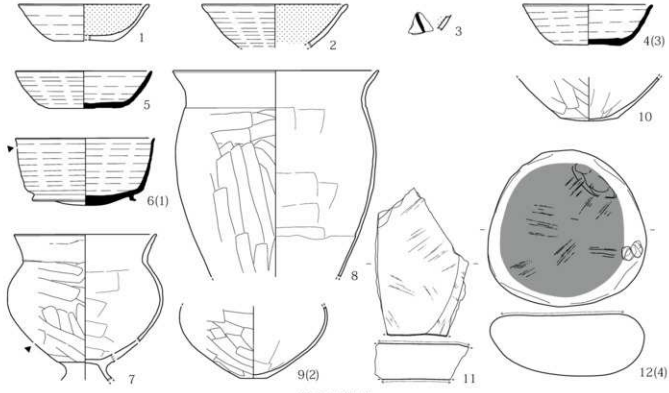
H13 号住居址



H16 号住居址

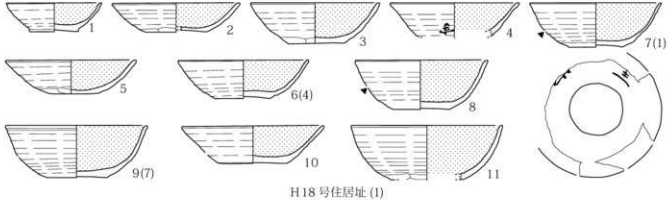
H19 号住居址

第 60 図　H 12・13・16・19 号住居址出土遺物



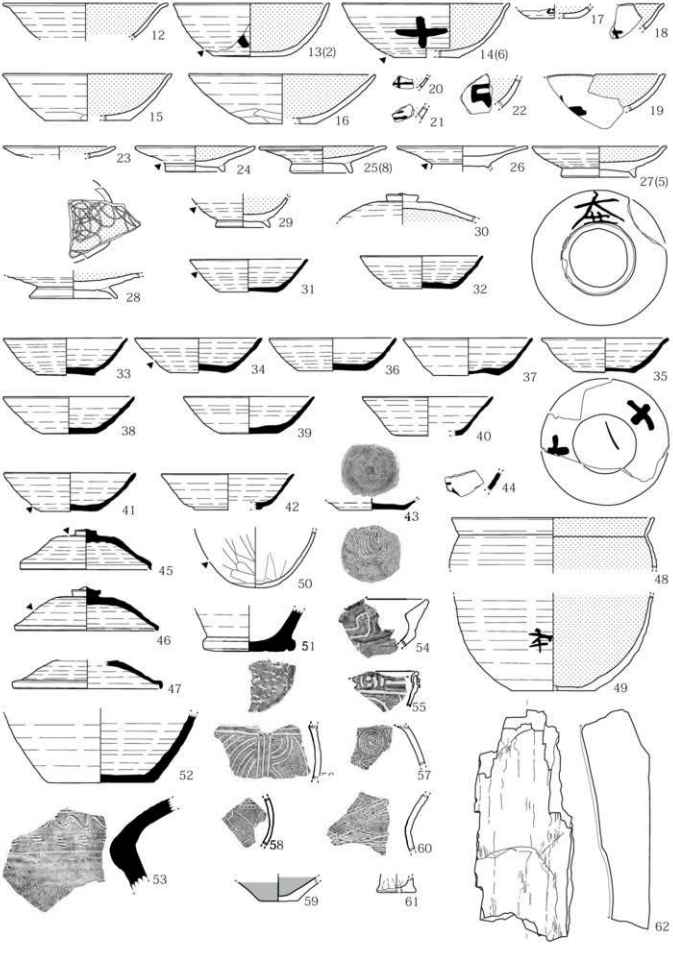
H15 号住居址

H17 号住居址

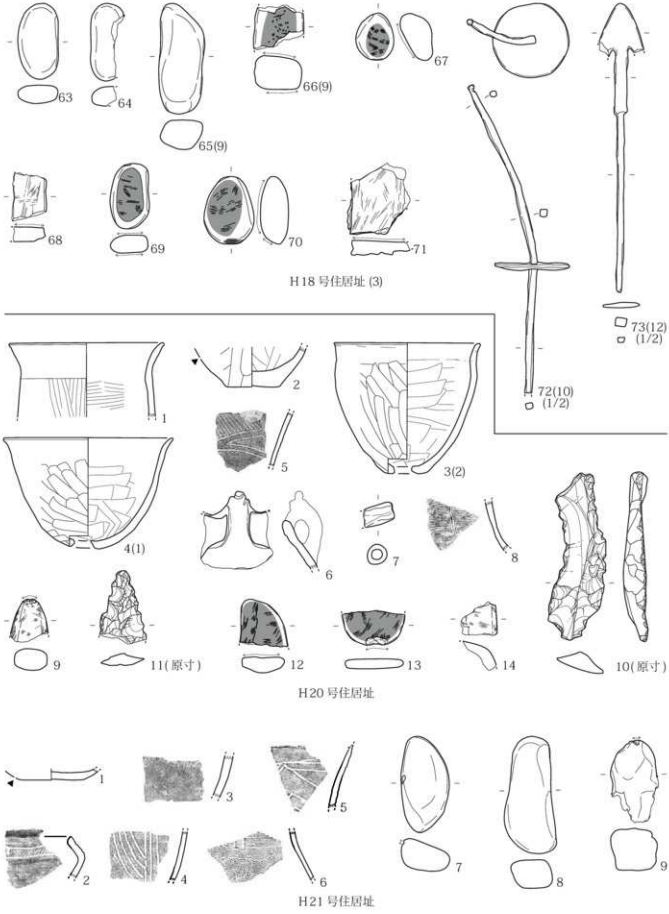


H18 号住居址 (1)

第 61 図　H 15・17・18 号住居址 (1) 出土遺物

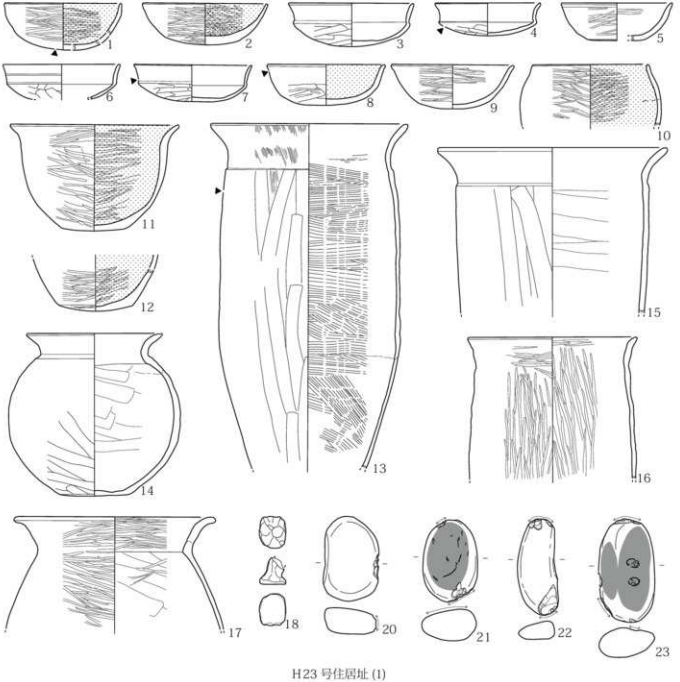


第 62 図　H 18 号住居址 (2) 出土遺物



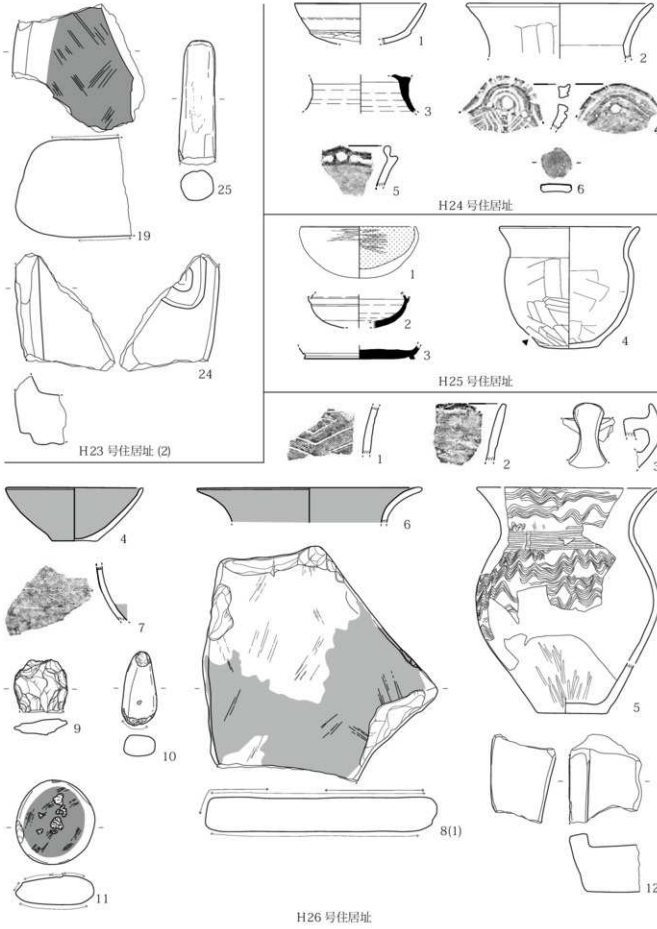
第 63 図　H 18 号住居址 (3)・H20 号住居址・H21 号住居址出土遺物

H22 号住居址

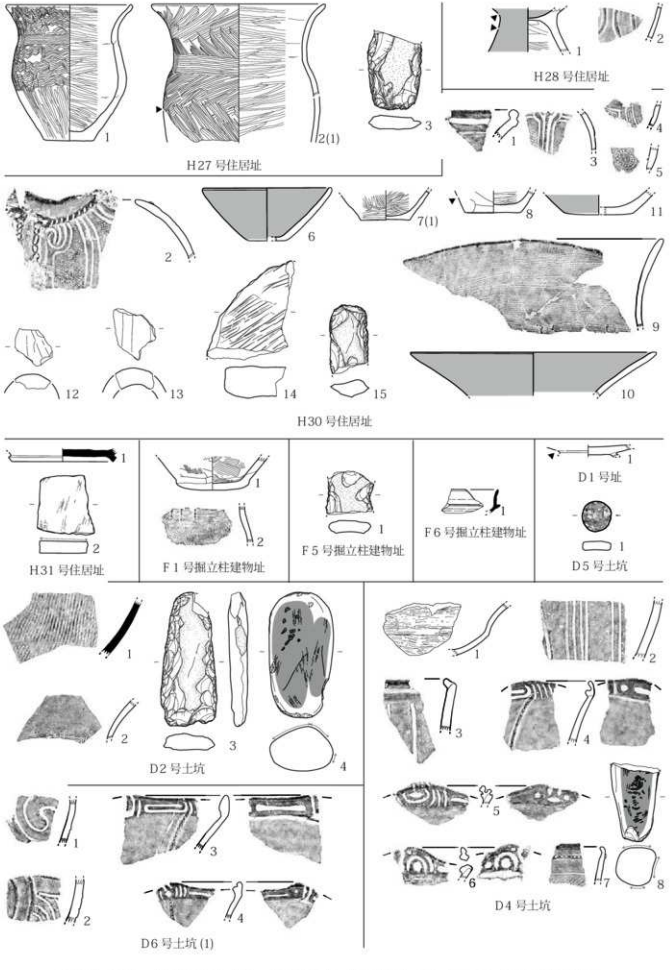


H23 号住居址 (1)

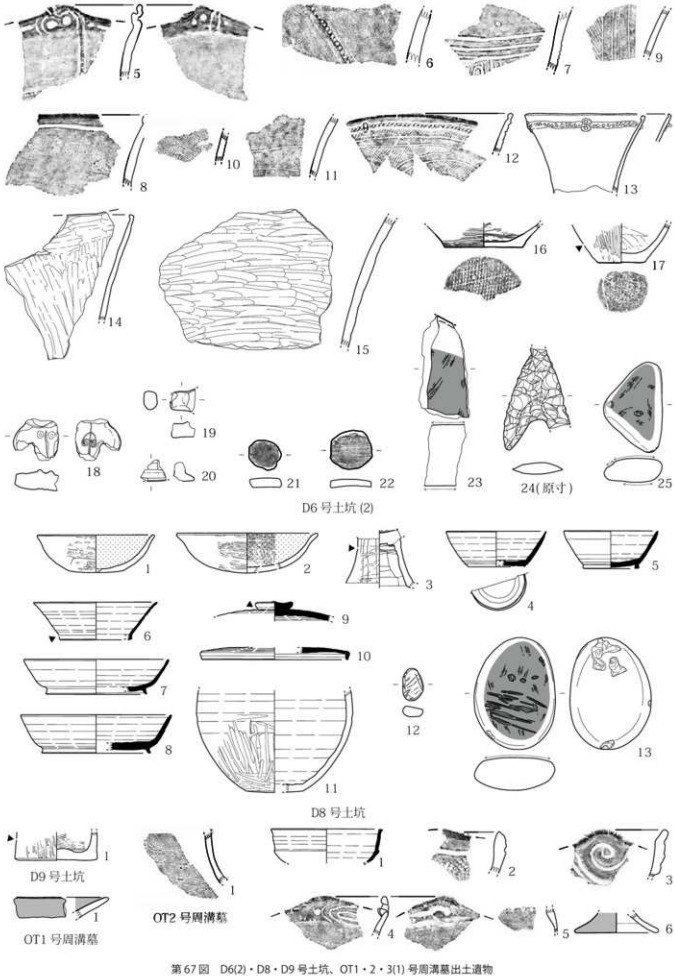
第 64 図　H 22 号住居址・H23 号住居址 (1) 出土遺物



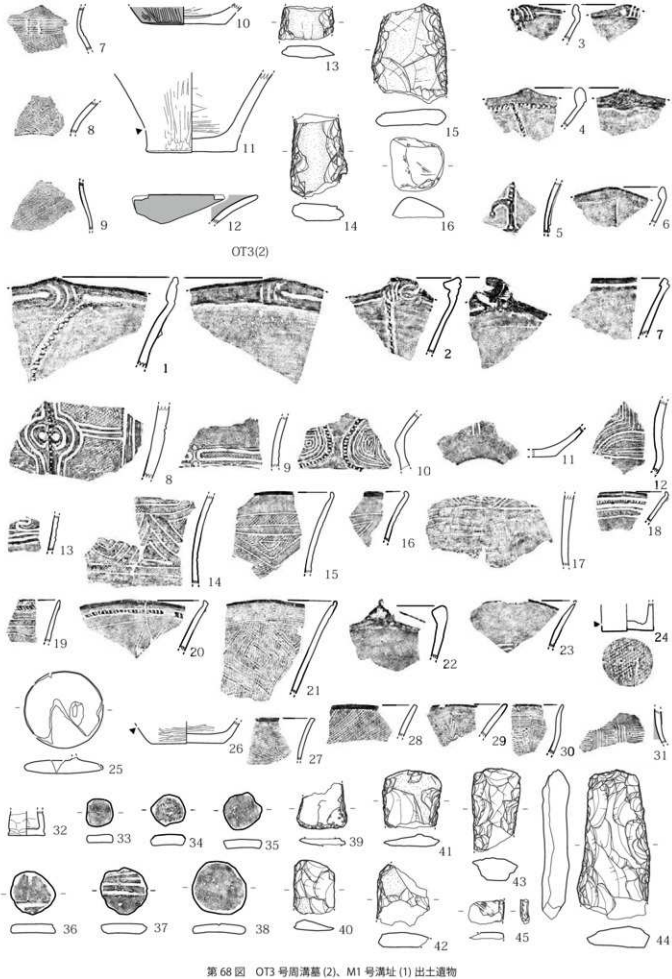
第 65 図　H 23 号住居址 (2)・H24 号住居址・H25 号住居址・H26 号住居址出土遺物



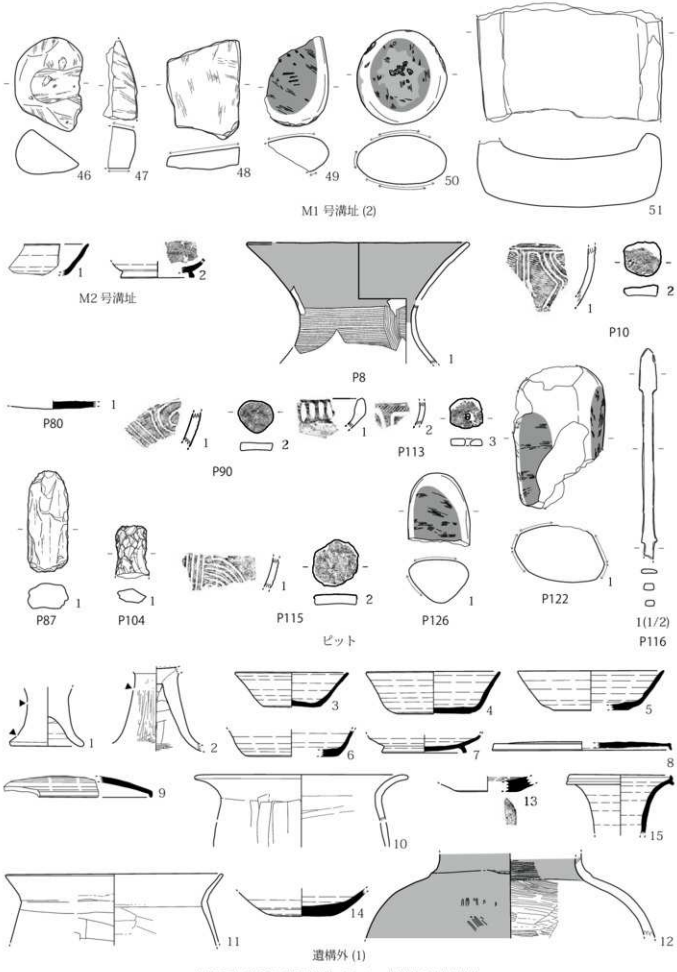
第 66 図　H 27 ～・H28 号住居址、H30 ～ H31 号住居址、掘立柱建物址、D 1・2・4・5・6(1) 号土坑出土遺物



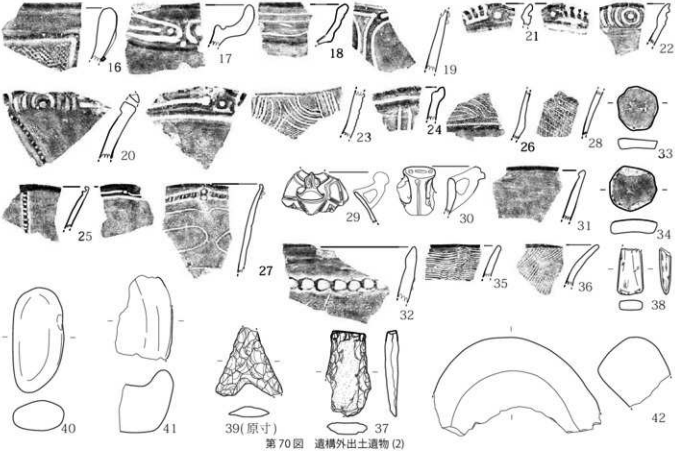
第 67 図　D6(2)・D8・D9 号土坑、OT1・2・3(1) 号周溝墓出土遺物



第 68 図　OT3 号周溝墓 (2)、M1 号溝址 (1) 出土遺物



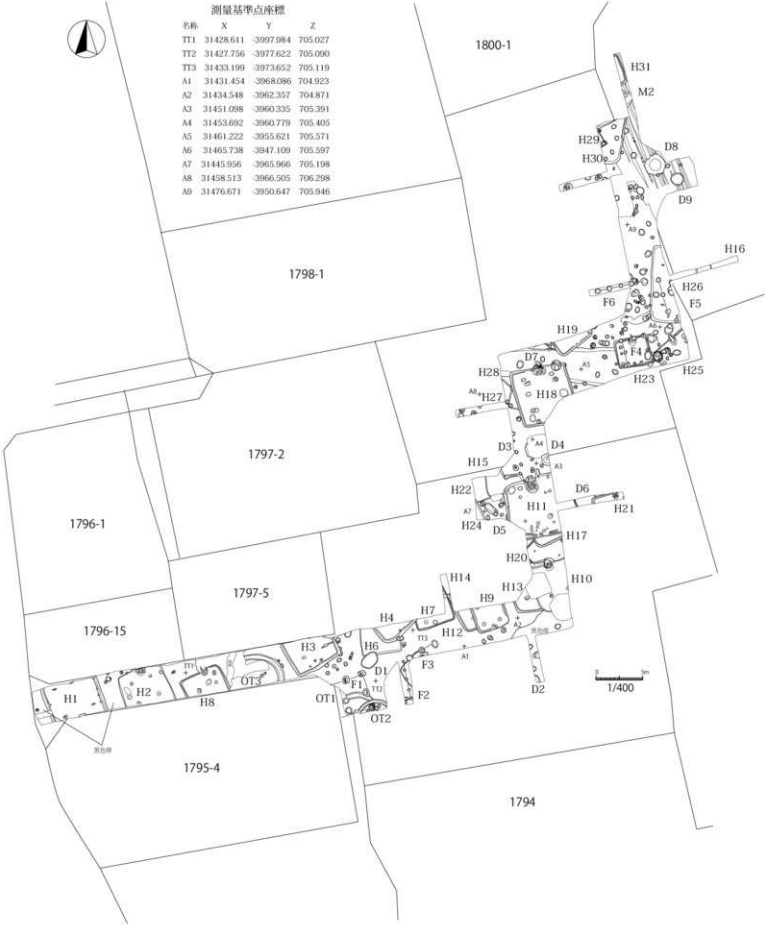
第 69 図　M1(1)・M2 号溝址、ピット、遺構外 (1) 出土遺物



第70図　遺構外出土遺物(2)

第71図　調査区南東黒色帯出土遺物

第72図　調査区西端黒色帯出土遺物



測量基準点座標

名称	X	Y	Z
TT1	31428.611	-3997.984	705.027
TT2	31427.756	-3977.622	705.090
TT3	31433.199	-3973.652	705.119
A1	31431.454	-3968.086	704.923
A2	31434.548	-3962.357	704.871
A3	31451.098	-3960.335	705.391
A4	31453.692	-3960.779	705.405
A5	31461.222	-3955.621	705.571
A6	31465.738	-3947.109	705.597
A7	31445.956	-3965.966	705.198
A8	31458.513	-3966.505	706.298
A9	31476.671	-3950.647	705.946

第51図　全体図

住居址計測表

遺構名	重複関係	主軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	ピット	付属施設	備　　考	時　期
H 1	—	—	—	6.18	0.52	—	(13)	周溝	—	
H 2	—	—	—	5.16	0.21	—	(7)	カマド	—	
H 3	—	—	—	5.44	0.37	—	(6)	周溝、間仕切溝	—	
H 4	H6・7 を切る	—	—	—	0.52	—	(2)	周溝	—	
H 5	F2・3 に切られる	—	3.29	—	0.28	—	(1)	カマド（北東隅）	—	
H 6	H4 に切られる	—	—	4.33	0.49	—	(2)	—	—	
H 7	H4 に切られる	—	—	4.29	0.40	—	(3)	周溝、間仕切溝	—	
H 8	流路に切られる	—	—	4.74	0.59	—	(5)	カマド、周溝	—	
H 9	H12 を切る	—	—	3.57	0.24	—	(5)	周溝	—	
H 10	H13・20 を切る	—	5.04	—	0.21	—	(6)	カマド	—	
H 11	H15・17 を切る	—	6.62	—	0.37	—	(18)	カマド、周溝	建て替え	
H 12	H9 に切られる	—	—	5.08	0.45	—	(3)	周溝、間仕切溝	—	
H 13	H10 に切られる	—	5.50	5.26	0.66	—	(6)	カマド、周溝	建て替え	
H 14	—	—	—	—	0.11	—	(1)	—	—	
H 15	H11 に切られ、H22 を切る	—	4.03	2.02	0.45	—	(2)	カマド	—	
H 16	—	—	—	—	0.20	—	—	—	—	
H 17	H11 に切られ、H20 を切る	—	5.70	5.76	0.47	—	(7)	カマド、周溝	—	
H 18	H27・28、M1 を切る	—	6.24	6.18	0.34	—	(12)	カマド、周溝	—	
H 19	M1 を切る	—	—	—	0.45	—	(1)	周溝	—	
H 20	H10・11・13・17 に切られる	—	—	—	0.39	—	(2)	周溝	—	
H 21	—	—	—	—	0.46	—	—	カマド、周溝	—	
H 22	H15・24 に切られる	—	—	—	0.56	—	—	—	—	
H 23	F4 に切られる	N − 13° − W	3.84	3.25	0.65	9.37	(2)	カマド、周溝	—	
H 24	H22 を切る	—	—	—	0.71	—	—	—	—	
H 25	—	—	—	—	0.42	—	(4)	カマド、周溝	—	
H 26	—	N − 4° − E	8.24	4.89	0.83	—	(4)	炉	—	
H 27	H18 に切られる	—	—	—	0.40	—	(1)	—	—	
H 28	H18、M1 に切られる	—	—	—	0.33	—	—	—	—	
H 29	H30 を切る	—	—	—	0.35	—	—	—	—	
H 30	M2 に切られる	—	—	—	0.71	—	(2)	炉、周溝	—	
H 31	—	—	—	—	0.42	—	—	周溝	—	

掘立柱建物址計測表

遺構名	重複関係	長軸方位	桁行長	梁間長	面積	柱痕径	桁行柱間寸法	梁間柱間寸法	備　　考
F 1	OT1・2 を切る	—	3.64	—	—	0.18	—	1.64 ～ 2.05	—
F 2	H5 を切る	—	3.98	—	—	—	0.9 ～ 1.10	—	—
F 3	H5 を切る	—	3.07	—	—	0.26	1.38 ～ 1.69	—	—
F 4	H23 を切る	N － 103° － W	3.76	2.96	10.8	0.16	0.95 ～ 1.41	1.35 ～ 1.51	—
F 5	H26 を切る	—	—	3.53	—	0.21	—	1.63 ～ 1.90	—
F 6	—	—	5.14	—	—	0.21	0.99 ～ 1.45	—	—

土坑計測表

遺構名	重複関係	平面形態	長軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	備　　考
D 1	H6 を切る	楕円形	N － 48° － E	2.02	1.39	0.16	1.85	—
D 2	—	—	—	—	—	0.07	—	—
D 3	—	—	—	—	—	0.32	—	—
D 4	—	—	—	—	1.32	0.70	—	—
D 5	P98 に切られる	—	N － 130° － E	—	0.80	0.16	—	—
D 6	H21 に切られる	—	—	—	2.39	1.48	—	—
D 7	M1 に切られる	楕円形	N － 0° － E	1.16	1.05	0.52	0.73	—
D 8	—	円形	N － 20° － W	2.41	2.22	1.31	1.25	—
D 9	—	円形	N － 20° － W	1.39	1.36	0.40	1.08	—

ピット計測表 (1)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	土　　色
P 1	—	—	—	0.35	0.38	10YR4/2、10YR7/4 ローム少含。
P 2	—	—	—	0.36	0.55	10YR4/2、10YR7/4 ローム少含。
P 3	H4・6 を切る	楕円形	0.78	0.47	0.41	1.10YR4/3、2.10YR5/5、ローム含。
P 4	—	楕円形	0.51	0.33	0.30	10YR4/3、10YR7/6 ローム少含。
P 5	—	—	—	0.35	0.49	10YR4/2、10YR7/6ローム・10YR2/2 少含。
P 6	—	楕円形	0.77	—	0.59	10YR4/3、10YR7/4ローム・10YR2/2 少含。
P 7	P9 を切る	円形	0.41	0.38	0.16	10YR4/2、10YR7/6ローム・10YR2/2 少含。
P 8	—	円形	0.66	0.62	0.52	10YR2/2、10YR7/6 ローム少含。

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	土　　色
P 9	P7 に切られる	楕円形	0.48	0.41	0.38	10YR2/2、10YR7/6 ローム少含。
P 10	—	楕円形	0.38	0.26	0.44	10YR7/6 ローム主体、10YR2/2 少含。
P 11	—	—	—	—	0.28	10YR7/6 ローム主体、10YR2/2 少含。
P 12	—	楕円形	0.38	0.23	0.27	10YR2/2、灰含。
P 13	—	円形	0.55	0.52	0.29	10YR2/2、10YR7/6 ローム少含。
P 14	—	楕円形	0.61	0.39	0.42	10YR2/2、10YR7/6 ローム少含。
P 15	—	楕円形	0.48	0.36	0.23	10YR2/2、10YR7/6 ローム少含。
P 16	—	楕円形	0.39	0.30	0.57	10YR4/3、10YR7/4 ローム・10YR2/2 少含。

ピット計測表 (2)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	土　　色
P 17	—	楕円形	0.28	0.20	0.16	10YR4/3、10YR7/4ローム・10YR2/2少含。
P 18	—	楕円形	0.28	0.24	0.23	10YR4/3、10YR7/4ローム・10YR2/2少含。
P 19	—	楕円形	0.41	0.25	0.17	10YR4/3、10YR7/4ローム・10YR2/2少含。
P 20	—	方形	0.29	0.28	0.16	10YR3/2、10YR7/6ローム少含。
P 21	—	—	—	—	0.24	10YR3/2、10YR7/6ローム少含。
P 22	—	楕円形	0.36	0.28	0.27	10YR3/2、10YR7/6ローム少含。
P 23	—	楕円形	0.79	0.31	0.46	10YR3/2、10YR7/6ローム少含。
P 24	—	楕円形	0.47	0.34	0.54	10YR3/2、10YR7/6ローム少含。
P 25	—	円形	0.40	0.39	0.42	10YR3/2、10YR7/6ローム少含。
P 26	—	楕円形	0.52	0.41	0.22	10YR4/2、10YR7/4ローム少含。
P 27	—	円形	0.42	0.38	0.50	10YR4/2、10YR7/4ローム少含。
P 28	—	楕円形	0.32	0.24	0.21	10YR4/2、10YR7/4ローム少含。
P 29	—	円形	0.41	0.39	0.19	10YR3/2、10YR7/4ローム少含。
P 30	—	—	0.42	—	0.27	10YR2/2、10YR7/4ローム少含。
P 31	—	—	—	—	0.27	10YR2/2、10YR7/6ローム少含。
P 32	—	楕円形	0.55	0.46	0.33	10YR2/2、10YR7/6ローム少含。
P 33	—	楕円形	—	0.58	0.72	10YR4/3・10YR2/2・10YR7/6ローム混在。
P 34	—	楕円形	0.61	0.50	0.20	10YR6/4 シルト。
P 35	—	—	—	0.43	0.44	10YR2/2、10YR7/6ローム少含。
P 36	—	—	—	0.66	0.51	10YR2/2、10YR7/6ローム少含。
P 37	—	—	—	0.48	0.26	10YR2/2、10YR7/6ローム少含。
P 38	—	楕円形	0.64	0.47	0.24	10YR3/2、10YR7/6ローム少含。
P 39	—	楕円形	0.52	0.32	0.13	10YR3/2、10YR7/6ローム少含。
P 40	—	楕円形	0.36	0.28	0.34	10YR3/2、10YR7/6ローム少含。
P 41	—	円形	0.46	0.46	0.42	10YR3/2、10YR7/6ローム少含。
P 42	—	円形	0.36	0.35	0.21	10YR2/2、10YR7/6ローム少含。
P 43	—	楕円形	0.57	0.36	0.30	10YR2/2、10YR7/6ローム少含。
P 44	—	楕円形	0.66	0.58	0.37	10YR2/2、10YR7/6ローム少含。

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	土　　色
P 45	—	円形	0.35	0.32	0.21	10YR2/2、10YR7/6ローム少含。
P 46	—	楕円形	0.34	0.29	0.22	10YR2/2、10YR7/6ローム少含。
P 47	—	楕円形	0.39	0.30	0.22	10YR2/2、10YR7/6ローム少含。
P 48	—	—	—	—	0.20	10YR2/2、10YR7/4ローム少含。
P 49	—	円形	0.46	0.44	0.40	10YR2/2、10YR7/4ローム少含。
P 50	—	楕円形	0.44	0.37	0.27	10YR5/3、10YR7/4ローム少含。
P 51	—	楕円形	0.36	0.21	0.16	10YR5/3、10YR7/4ローム少含。
P 52	—	円形	0.53	0.48	0.62	10YR5/3、10YR7/4ローム少含。
P 53	—	楕円形	0.62	0.45	0.51	10YR5/3、10YR7/4ローム少含。
P 54	—	楕円形	0.69	0.51	0.21	10YR6/4 シルト。
P 55	—	楕円形	0.29	0.26	0.32	10YR6/4 シルト。
P 56	—	楕円形	0.35	0.30	0.29	10YR6/4 シルト。
P 57	—	楕円形	0.92	0.67	0.19	10YR6/4 シルト。10YR7/4ローム・2/2 含。
P 58	—	楕円形	0.52	0.45	0.85	10YR6/4 シルト。10YR6/6 粒子少含。
P 59	—	楕円形	0.41	0.34	0.72	10YR6/4 シルト。10YR6/6 粒子少含。
P 60	—	楕円形	0.84	0.61	0.36	10YR6/4 シルト。10YR6/6 粒子少含。
P 61	—	楕円形	0.59	0.47	0.35	10YR6/4 シルト。
P 62	—	楕円形	0.27	0.24	0.24	10YR4/3。
P 63	—	楕円形	0.42	0.35	—	10YR2/2、10YR7/6ローム含。
P 64	—	楕円形	0.42	0.30	0.26	10YR2/2、10YR7/6ローム含。
P 65	—	円形	0.33	0.30	0.33	10YR3/2、10YR7/4ローム含。
P 66	—	楕円形	0.41	0.33	0.31	10YR4/2、10YR7/6ローム少含。
P 67	—	円形	0.24	0.22	0.29	10YR4/2、10YR7/6ローム少含。
P 68	—	楕円形	0.38	0.25	0.26	10YR4/2、10YR7/6ローム少含。
P 69	—	楕円形	0.54	0.49	0.30	10YR4/2、10YR7/6ローム少含。
P 70	—	円形	0.51	0.46	0.43	10YR2/2、10YR7/6ローム少含。
P 71	—	楕円形	1.17	0.53	0.38	10YR2/2、10YR7/6ローム少含。
P 72	—	—	—	0.38	0.29	10YR2/2、10YR7/6ローム・4/2 含。

ピット計測表 (3)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	土　　色
P 73	—	—	—	0.60	0.49	10YR4/2、10YR7/6 ヨーム・2/2 少含。
P 74	—	—	—	0.56	0.21	10YR4/3、10YR7/6 ヨーム・2/2 少含。
P 75	—	—	—	0.57	0.15	10YR4/3、10YR7/6 ヨーム・2/2 少含。
P 76	—	楕円形	0.75	0.55	0.31	10YR4/3、10YR7/6 ヨーム少含。
P 77	—	—	—	—	0.21	10YR2/2、10YR7/6 ヨーム少含。
P 78	—	楕円形	0.39	0.31	0.44	10YR3/2、10YR7/6 ヨーム・4/3 含。
P 79	—	楕円形	—	0.49	0.51	10YR3/2、10YR7/6 ヨーム・4/3 含。
P 80	—	楕円形	0.70	0.56	0.33	10YR4/2、10YR6/6 ﾗﾑ含。
P 81	—	楕円形	0.66	0.56	0.33	10YR3/2、10YR7/6 ヨーム含。
P 82	—	円形	0.37	0.34	0.32	10YR4/2、10YR7/6 ヨーム・2/2 含。
P 83	—	楕円形	0.27	0.22	0.22	10YR4/2、10YR7/6 ヨーム・2/2 含。
P 84	—	楕円形	1.12	0.82	0.46	10YR4/3、10YR7/4 ヨーム含。
P 85	—	円形	0.39	0.37	0.11	10YR3/2、10YR7/6 ヨーム含。
P 86	—	楕円形	0.98	—	0.41	10YR4/3、10YR8/4 ヨーム多含。
P 87	—	楕円形	1.11	0.55	0.74	10YR4/2・10YR7/6 ヨーム少含。
P 88	—	楕円形	0.94	0.64	0.43	10YR4/2、10YR8/4 ヨーム少含。
P 89	—	円形	0.68	0.64	0.85	10YR4/2、10YR8/4 ヨーム・2/2 含。
P 90	—	楕円形	0.79	0.60	0.51	10YR4/2、10YR8/4 ヨーム・2/2 含。
P 91	—	円形	0.68	0.65	0.50	10YR4/2、10YR7/4 ヨーム・2/2 含。
P 92	—	楕円形	0.42	0.32	0.17	10YR4/2、10YR7/4 ヨーム・2/2 含。
P 93	—	楕円形	054	0.47	0.12	10YR4/2、10YR7/4 ヨーム・2/2 含。
P 94	—	—	—	—	0.33	10YR3/2、10YR7/4 ヨーム含。
P 95	—	楕円形	0.92	—	0.37	10YR3/2、10YR7/4 ヨーム含。
P 96	—	—	0.74	—	0.46	10YR2/2、10YR7/6 ヨーム少含。
P 97	—	—	0.56	—	0.31	10YR2/2、10YR7/6 ヨーム少含。
P 98	—	—	0.72	0.43	0.46	10YR3/2、10YR7/6 ヨーム少含。
P 99	—	楕円形	0.47	0.38	0.28	10YR5/3、10YR7/4 ヨーム・2/2 極少含。
P 100	—	—	—	0.44	0.22	10YR5/3、10YR7/4 ヨーム・2/2 極少含。

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	土　　色
P 101	—	楕円形	0.31	0.19	0.29	10YR5/3、10YR2/2 含。
P 102	—	楕円形	0.63	0.45	0.17	10YR5/3、10YR7/4 ヨーム・2/2 少含。
P 103	—	楕円形	0.84	0.68	0.18	10YR5/3、10YR7/4 ヨーム・2/2 少含。
P 104	—	—	—	0.23	0.26	10YR2/2、10YR7/6 ヨーム少含。
P 105	—	—	—	0.44	0.16	10YR5/3、10YR7/4 ヨーム・2/2 少含。
P 106	—	円形	0.50	0.45	0.28	10YR2/2、10YR7/6 ヨーム少含。
P 107	—	円形	0.43	0.41	0.29	10YR2/2、10YR7/6 ヨーム少含。
P 108	—	円形	0.47	0.43	0.40	10YR4/3、10YR7/4 ヨーム・2/2 少含。
P 109	—	—	—	—	—	—
P 110	—	楕円形	1.11	0.97	0.29	10YR5/3。
P 111	—	—	0.51	—	0.30	10YR4/3、10YR7/4 ヨーム多含。
P 112	—	楕円形	0.96	0.77	0.25	10YR4/2、下層に 10YR7/6 帯状堆積。
P 113	—	楕円形	0.85	—	0.80	10YR3/2、10YR7/4 ヨーム多含。
P 114	—	楕円形	0.57	—	0.16	10YR2/2、10YR7/6 ヨーム含。
P 115	—	楕円形	0.79	0.51	0.55	10YR2/2、10YR7/6 ヨーム含。
P 116	—	楕円形	0.47	0.34	0.40	10YR2/2、10YR7/6 ヨーム少含。
P 117	—	—	—	—	0.28	10YR2/2、10YR7/6 ヨーム少含。
P 118	—	楕円形	0.49	0.30	0.52	10YR4/2、10YR7/6 ヨーム多含。
P 119	—	楕円形	0.51	0.39	0.81	10YR2/2、10YR7/4 ヨーム少含。
P 120	—	楕円形	0.56	—	0.19	10YR2/2、10YR7/4 ヨーム含。
P 121	—	楕円形	0.58	—	0.59	10YR4/2、10YR7/4 ヨーム含。
P 122	—	楕円形	0.90	0.76	0.56	10YR4/2、10YR2/2 含。
P 123	—	楕円形	0.81	0.67	0.29	10YR4/2、10YR2/2 含。
P 124	—	楕円形	—	0.42	0.29	10YR4/2、10YR2/2 含。
P 125	—	—	0.56	—	0.32	10YR3/2・10YR2/2 混在、7/4 ヨーム含。
P 126	—	楕円形	0.50	0.37	0.38	10YR2/2、10YR7/4 ヨーム少含。
P 127	—	楕円形	0.33	0.29	0.24	10YR2/2、10YR7/4 ヨーム少含。
P 128	—	楕円形	0.52	0.41	0.35	10YR2/2、10YR7/6 ヨーム少含。

ピット計測表 (4)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	土　　色
P 129	P121 に切られる	楕円形	0.41	0.27	0.45	10YR4/3、10YR7/6ヨーム少含。
P 130	P113 に切られる	―	―	―	0.85	10YR4/2、10YR7/6ヨーム・2/2 含。
P 131	―	楕円形	0.54	0.43	0.44	10YR4/2、10YR7/6ヨーム・2/2 含。
P 132	―	楕円形	0.33	0.29	0.11	10YR2/2、10YR4/2 含。
P 133	―	円形	0.44	0.40	0.48	10YR2/2・10YR4/2 混在。
P 134	―	楕円形	0.33	0.25	0.41	10YR4/3、10YR7/6ヨーム多含。
P 135	H26 に切られる	楕円形	0.31	0.27	0.23	10YR2/2、10YR7/6ヨーム含。
P 136	―	楕円形	0.67	0.27	0.43	10YR2/2、10YR7/6ヨーム含。
P 137	―	楕円形	0.73	0.62	0.24	10YR4/3、10YR7/6ヨーム含。
P 138	―	楕円形	0.88	0.70	0.31	10YR4/3、10YR7/6ヨーム含。
P 139	―	円形	0.38	0.37	0.29	10YR4/3、10YR7/6ヨーム含。
P 140	―	楕円形	0.31	0.23	0.45	10YR4/2、10YR7/6ヨーム含。

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	土　　色
P 141	H26・P81 に切られる	楕円形	―	0.48	0.11	10YR4/2、10YR7/6ヨーム少含。
P 142	―	楕円形	0.59	0.43	0.29	10YR4/2、10YR7/6ヨーム少含。
P 143	―	―	0.53	―	0.31	10YR2/2、10YR7/4ヨーム少含。
P 144	―	円形	0.70	0.66	0.55	10YR4/2、10YR7/4ヨーム・2/2 含。
P 145	―	―	0.51	―	0.28	10YR2/2、10YR7/6ヨーム少含。
P 146	―	楕円形	0.38	0.29	0.39	10YR2/2、10YR7/6ヨーム少含。
P 147	―	円形	0.35	0.34	0.36	10YR2/2、10YR7/6ヨーム少含。
P 148	P122 に切られる	楕円形	0.80	―	0.37	10YR2/2、10YR7/6ヨーム少含。
P 149	―	楕円形	0.51	0.43	0.44	10YR4/3、10YR7/4ヨーム・2/2 少含。
P 150	―	楕円形	0.36	0.34	0.31	10YR4/3、10YR7/4ヨーム・2/2 含。
P 151	―	楕円形	0.32	0.20	0.51	10YR2/2、10YR7/4ヨーム・4/2 少含。
P 152	―	楕円形	0.47	0.24	0.20	10YR2/2、10YR7/4ヨーム・4/2 少含。

H 1 号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器　種	器　形	法　量				成　形・調　整		備　考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内　面	外　面		
1	土師器	北武蔵型坏	(12.0)	―	<3.5>	―	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
2	土師器	坏	(16.4)	―	<3.5>	―	ヘラミガキ→黒色処理	口縁ミガキ→ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区
3	土師器	北武蔵型坏	(17.8)	―	<3.8>	―	ヘラミガキ？	ヘラケズリ？	回転実測	Ⅱ区ホリ・Ⅲ区
4	土師器	北武蔵型坏	―	(11.0)	<3.1>	―	ロクロナデ	底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区ホリ
5	須恵器	坏	(9.6)	―	<3.1>	―	ロクロナデ自然釉	ロクロナデ	回転実測	ケン
6	須恵器	坏	(12.8)	(10.5)	(3.3)	―	ロクロナデ	底部・周縁ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
7	須恵器	坏	(13.0)	(8.0)	4.0	―	ロクロナデ	回転ヘラ切り→底部・周縁ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ・Ⅱ区
8	須恵器	坏	(13.0)	(9.1)	(3.9)	―	ロクロナデ	底部ヘラ切り→ケズリ？	回転実測	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ区
9	須恵器	坏	13.5	8.8	4.3	―	ロクロナデ	底部ヘラ切り→ケズリ	完全実測	No2
10	須恵器	坏	13.6	9	4.4	―	ロクロナデ	底部ヘラ切り→ケズリ	完全実測	Ⅰ・Ⅱ区
11	須恵器	坏	(13.8)	(10.3)	(3.9)	―	ロクロナデ	底部ヘラ切り	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区
12	須恵器	坏	14.0	8.2	3.9	―	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	Ⅰ区・北カベ
13	須恵器	坏	(14.0)	(9.6)	(4.3)	―	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅰ区・ケン
14	須恵器	坏	―	6.7	<1.9>	―	ロクロナデ	底部ヘラ切り→ケズリ・ヘラ記号「―」	完全実測・拓本	ケン
15	須恵器	坏	―	7.2	<1.1>	―	ロクロナデ	底部ヘラ切り→ケズリ・ヘラ記号「―」	完全実測・拓本	Ⅰ区
16	須恵器	坏	―	7.2	<2.6>	―	ロクロナデ	底部ヘラ切り→ケズリ	完全実測	Ⅰ・Ⅱ区
17	須恵器	坏	―	7.8	<2.9>	―	ロクロナデ	底部・周縁ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ・Ⅱ区
18	須恵器	坏	―	(8.0)	<2.4>	―	ロクロナデ	底部ヘラ切り→ケズリ	回転実測	Ⅲ・Ⅳ区
19	須恵器	坏	―	(9.0)	<1.5>	―	ロクロナデ	底部ヘラ切り→ケズリ・ヘラ記号「―」	回転実測・拓本	Ⅰ・Ⅳ区
20	須恵器	坏	―	―	―	―	―	底部ヘラケズリ→ヘラ記号「×」	破片実測・拓本	Ⅱ区

H１号住居址出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
21	須恵器	有台坏	—	(9.0)	(3.4)	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	Ⅱ区
22	須恵器	有台坏	—	(12.4)	(4.3)	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台・自然釉	回転実測	Ⅳ区・ケン
23	須恵器	坏蓋	(15.6)	—	3.0	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→つまみ貼付	完全実測	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区
24	須恵器	高坏	—	—	<5.3>	—	ロクロナデ→ヘラナデ	ロクロナデ	完全実測	Ⅲ区
25	土師器	甕	(13.2)	—	<7.9>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	北カベ
26	土師器	甕	(14.6)	—	<9.9>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	No1
27	土師器	ロクロ甕	(15.2)	—	<12.8>	—	ロクロナデ	ロクロナデ→ヘラケズリ	回転実測	No1
28	土師器	武蔵甕	(17.4)	—	<8.0>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ・Ⅲ区
29	土師器	武蔵甕	(22.6)	—	<9.9>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区・ケン
30	土師器	ロクロ甕	(24.0)	—	<18.9>	—	ロクロナデ→ヘラナデ	ロクロナデ→ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区
31	土師器	ロクロ甕	—	(6.0)	<4.7>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
32	土師器	武蔵甕	—	(6.4)	<3.6>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅲ区
33	土師器	武蔵甕	—	(7.0)	<3.2>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
34	須恵器	甕	(9.8)	—	<9.5>	—	ロクロナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
35	須恵器	甕	(19.4)	—	<4.4>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区・ケン
36	須恵器	甕	(21.4)	—	10.5	—	ロクロナデ	胴・底部叩目	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区
37	須恵器	甕	(35.8)	—	<8.9>	—	ロクロナデ	叩目	回転実測	Ⅰ区
38	須恵器	甕	—	(10.0)	(6.5)	—	ロクロナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
39	須恵器	甕	—	—	<9.8>	—	ロクロナデ→ヘラナデ	ロクロナデ→ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区
40	須恵器	壺	—	10.3	<2.7>	—	ヘラナデ→自然釉	ロクロナデ→自然釉・付高台	完全実測	Ⅳ区
41	須恵器	壺	—	(11.9)	<3.9>	—	ロクロナデ→自然釉	ロクロナデ→自然釉・付高台	完全実測	Ⅱ区
42	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	中期後半、隆帯・沈線・列点文		破片実測・拓本	Ⅱ区
43	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	中期後半加曾利ＥⅣ式、微隆起線・縄文		破片実測・拓本	Ⅱ区
44	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、鎖状隆帯・沈潜文・円孔		破片実測・拓本	Ⅱ区
45	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線文		破片実測・拓本	Ⅲ区ホリ
46	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期、沈線間に刺突列		破片実測・拓本	Ⅱ区ホリ
47	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線		破片実測・拓本	Ⅰ区
48	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、鎖状隆帯		破片実測・拓本	Ⅱ区
49	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、鎖状隆帯		破片実測・拓本	Ⅲ区ケン
50	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、「8」字状貼付文・沈線文・縄文		破片実測・拓本	Ⅱ区ホリ
51	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、鎖状隆帯・沈線・縄文		破片実測・拓本	Ⅰ区
52	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期、隆帯		破片実測・拓本	Ⅲ区
53	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期、凸帯文		破片実測・拓本	Ⅱ区
54	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内式、口唇部に円孔と刻目		破片実測・拓本	Ⅰ区
55	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内式、底部に網代痕		破片実測・拓本	Ⅱ区
56	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヨコナデ→ミガキ	櫛描波状文・櫛描簾状文	破片実測・拓本	Ⅰ区
57	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	櫛描斜走文	破片実測・拓本	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ区
58	弥生土器	壺	—	—	—	—	ハケ目	ミガキ→赤彩	破片実測・拓本	Ⅱ区
59	土製品	土偶の足	5.5	3.3	1.6	—	沈線文（縦）		完全実測	Ⅲ区
60	土製品	土偶の足	3.9	3.9	2.8	—	全体ミガキ・底部網代痕		完全実測	Ⅲ区
61	土製品	土偶の足	2.9	2.1	17.0	—	無文		完全実測	Ⅰ区
62	土製品	土器片円盤	—	—	—	—	縄文時代後期、無文		完全実測・拓本	Ⅱ区

H 1 号住居址出土遺物観察表 (3)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
63	土製品	土器片円盤	—	—	—	—	縄文時代後期堀之内 1 式の深鉢片を加工		完全実測・拓本	Ⅳ区
64	土製品	土器片円盤	—	—	—	—	縄文時代後期堀之内 1 式の深鉢片を加工		完全実測・拓本	Ⅳ区
65	石器	砥石	<7.0>	<4.8>	<3.4>	<192.0>	砥面 4、線状の擦痕		完全実測	Ⅰ区
66	石器	凹石	<7.2>	<7.8>	<2.8>	<109.0>	凹、表面 1 、裏面 1		完全実測	Ⅰ区
67	石器	打製石斧	7.6	3.7	1.1	37	自然面残る		完全実測	Ⅲ区
68	石器	打製石斧	<3.7>	<4.7>	<1.0>	<28.0>	上下欠損		完全実測	Ⅱ区
69	石器	打製石斧	<3.9>	<3.9>	<1.7>	<31.2>	基部残存		完全実測	Ⅳ区ホリ
70	石器	打製石斧	<4.0>	<4.4>	<1.3>	<33.0>	上下欠損		完全実測	Ⅰ区
71	石器	打製石斧	<4.0>	<5.1>	<1.6>	<31.0>	上下欠損		完全実測	Ⅰ区
72	石器	打製石斧	<6.5>	<4.1>	<1.1>	<44.9>	上下欠損		完全実測	Ⅱ区
73	石器	打製石斧	<6.7>	<6.0>	<1.9>	<133.0>	三辺欠損		完全実測	Ⅱ区ホリ
74	石器	石鏃	2.4	1.6	0.25	0.75	黒曜石		完全実測	Ⅳ区ホリ
75	石器	石鏃	<1.60>	1.15	0.3	<0.57>	黒曜石、先端欠損		完全実測	Ⅰ区
76	石器	石鏃	<1.75>	<0.90>	<0.25>	<0.35>	黒曜石、1 /2 欠損		完全実測	Ⅱ区ホリ
77	石製品	臼玉	1.1	1.1	0.5	0.7	φ 0.20		完全実測	Ⅰ区
78	石器	編物石	7.7	7.7	2.5	206.5	表裏帯状に使用痕有り		完全実測	Ⅳ区
79	石器	編物石	8.7	3.6	3.3	167.4	使用痕有り		完全実測	Ⅱ区
80	石器	編物石	9.8	6.1	3.1	275.0	—		完全実測	Ⅰ区
81	石器	編物石	10.1	5.3	3.3	279.0	上部使用痕有り		完全実測	Ⅱ区
82	石器	編物石	10.3	7.4	3.7	399.0	使用痕有り		完全実測	Ⅱ区
83	石器	編物石	10.4	6.8	3.8	360.0	—		完全実測	Ⅲ区ホリ
84	石器	編物石	<5.4>	<6.1>	<3.0>	<139.0>	—		完全実測	ケン
85	石器	磨石	6.1	3.6	2.0	49.0	磨全面		完全実測	Ⅱ区
86	石器	磨石	9.5	4.6	2.4	159.0	磨面 1、線状の擦痕		完全実測	Ⅱ区
87	石器	磨石	11.4	8.7	4.1	612.0	磨面 2、線状の擦痕		完全実測	Ⅱ区
88	石器	磨石	<9.4>	<6.8>	<5.5>	<439.0>	磨面 3、線状の擦痕		完全実測	Ⅰ区
89	鉄器	長頭鏃	<10.3>	0.8	<0.4>	<8.79>	基部欠損		完全実測	No3
90	銅製品	帯金具巡方	3.0	2.3	<0.7>	<6.48>	表側のみ残存、銅の厚さ <0.7>、板の厚さ 0.15		完全実測	Ⅱ区

H 2 号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	須恵器	坏	(13.2)	—	<3.1>	—	火襷	火襷	回転実測	Ⅰ．Ⅳ区ホリ
2	須恵器	坏	—	(7.0)	<1.5>	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転実測	Ⅱ．Ⅲ区
3	須恵器	有台坏	(13.4)	(10.4)	3.6	—	火襷	付高台	回転実測	Ⅱ区
4	須恵器	有台坏	—	(11.2)	<5.3>	—	ロクロナデ	底部ヘラケズリ→付高台	回転実測	Ⅲ区
5	須恵器	有台坏	—	(10.8)	<2.3>	—	ロクロナデ	底部ヘラケズリ→付高台	回転実測	Ⅰ区
6	須恵器	坏蓋	(14.0)	—	<2.0>	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区ホリ
7	土師器	ロクロ甕	(14.0)	—	<8.8>	—	ロクロナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区
8	土師器	武蔵甕	—	—	—	—	ナデ	ヘラケズリ	破片実測	P1
9	土師器	羽釜	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	Ⅳ区・Ⅳ区ホリ

H 2 号住居址出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
10	須恵器	甕	—	—	<13.1>	—	当具痕	平行叩目	回転実測	Ⅲ区
11	須恵器	甕	—	(14.0)	<4.0>	—	ロクロナデ	平行叩目・底部・周縁ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区ホリ
12	須恵器	甕	—	—	—	—	自然釉付着	櫛描波状文	破片実測・拓本	Ⅰ区
13	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕	平行叩目	破片実測・拓本	カマド
14	須恵器	壺	—	(5.0)	<2.2>	—	ロクロナデ	回転糸切→底部・周縁ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区ホリ
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	中期後半？、沈線・縄文		破片実測・拓本	Ⅲ区・Ⅲ区ホリ
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期、沈線・縄文		破片実測・拓本	Ⅳ区ホリ
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、沈線文・縄文		破片実測・拓本	Ⅳ区
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、波状口縁・沈線文		破片実測・拓本	Ⅳ区
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、波状口縁・沈線文		破片実測・拓本	Ⅰ区
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期、波状口縁・凸帯文		破片実測・拓本	Ⅲ区
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期加曽利Ｂ１式、口唇部刻目・沈線		破片実測・拓本	Ⅰ区ホリ
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期、無文粗製土器		破片実測・拓本	Ⅳ区
23	弥生土器	甕	—	—	—	—	ナデ	縄文	破片実測・拓本	Ⅳ区
24	土製品	土偶腕	<2.2>	<3.6>	<1.4>	—	沈線による手首の表現		完全実測	Ⅳ区
25	土製品	土偶腕	<3.4>	<3.6>	<1.8>	—	無文		完全実測	Ⅲ区
26	石製品	砥石	<4.1>	<4.5>	<0.9>	18.3	—		完全実測	Ⅰ区
27	石製品	砥石	<4.3>	<4.4>	<4.6>	100.4	—		完全実測	Ⅳ区ホリ
28	石製品	砥石	<7.4>	<5.6>	4.5	236	砥面数 4、下部欠損		完全実測	Ⅰ区
29	石器	打製石斧	<7.0>	5.1	1.0	49.6	—		完全実測	Ⅰ区
30	石器	錐	<3.0>	1.6	0.4	2.36	—		完全実測	Ⅲ区
31	銅製品	帯金具巡方	3.6	2.8	0.05	<2.40>	孔径 0.1、わずかに欠損、裏面部分のみ残存		完全実測	Ⅲ区

H 3 号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	畿内系暗文坏	14.0	(8.0)	(4.0)	—	ナデ→暗文	ヘラケズリ	完全実測	Ⅲ・Ⅳ区・ケン
2	土師器	坏	(14.4)	(12.4)	<3.1>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区
3	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→ヘラ記号「×」	破片実測・拓本	周溝
4	須恵器	坏	(12.0)	(6.4)	<4.7>	—	ロクロナデ	ヘラ切り	回転実測	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ区
5	須恵器	坏	(14.0)	(7.2)	(4.0)	—	火襷	ヘラ切り・火襷	回転実測	Ⅳ区・ケン
6	須恵器	坏	14.3	6.3	3.8	—	火襷	右回転糸切・火襷	完全実測	ケン
7	須恵器	坏	(14.4)	(7.2)	4.0	—	見込みヘラ記号「×」	ヘラ切り→ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区
8	須恵器	坏	—	9.2	<1.3>	—	ロクロナデ	ヘラ切り→ヘラケズリ	完全実測	Ⅲ区
9	須恵器	有台坏	—	(8.0)	<1.3>	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	Ⅳ区
10	須恵器	有台坏	—	(10.8)	<1.4>	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	Ⅱ区ホリ
11	須恵器	坏蓋	(12.4)	—	<2.1>	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ・Ⅳ区
12	須恵器	坏蓋	(16.4)	—	<3.7>	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
13	土師器	武蔵甕	(14.0)	—	<4.7>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
14	土師器	武蔵甕	(22.0)	—	<6.4>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区
15	土師器	武蔵甕	—	(5.4)	<3.3>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区

H 3 号住居址出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
16	土師器	突帯付四耳壺	—	—	—	—	ナデ	ナデ	破片実測	Ⅲ区
17	須恵器	甕	—	(15.4)	<1.4>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	周溝
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	中期後半郷土式、隆帯・沈線		破片実測・拓本	Ⅲ区
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	中期後半、器台ヲ・縄文		破片実測・拓本	Ⅰ区
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期、突起		破片実測・拓本	ケン
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、沈線・縄文		破片実測・拓本	Ⅲ区
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、鎖状隆帯・沈線・縄文		破片実測・拓本	Ⅰ区ホリ
23	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、鎖状隆帯・沈線・縄文		破片実測・拓本	Ⅳ区
24	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、鎖状隆帯・円孔・波状口縁		破片実測・拓本	Ⅳ区
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、鎖状隆帯・沈線・縄文		破片実測・拓本	Ⅲ区
26	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、沈線・縄文		破片実測・拓本	Ⅱ区
27	弥生土器	甕	(22.2)	—	<9.4>	—	ヘラミガキ	櫛描波状文・櫛描簾状文	回転実測	ケン
28	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描斜走文・櫛描簾状文	破片実測・拓本	Ⅳ区
29	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描波状文	破片実測・拓本	Ⅱ区
30	弥生土器	壺	—	(6.0)	<4.3>	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	ケン
31	弥生土器	壺	—	—	—	—	器面荒れ	ヘラ描沈線間にヘラ描斜走文	破片実測・拓本	Ⅰ区
32	弥生土器	壺	—	—	—	—	ハケ目	櫛描「T」字文	破片実測・拓本	Ⅱ区
33	弥生土器	ミニチュア	—	2.5	<2.1>	—	ナデ	ナデ	完全実測	Ⅰ区
34	石器	打製石斧	<5.2>	<5.6>	<2.1>	57.5	—		完全実測	ケン
35	石器	磨・敲石	7.5	5.9	2.0	143.1	全面磨面		完全実測	ケン
36	石器	磨石	9.4	4.1	2.5	168.4	磨面３		完全実測	Ⅱ区
37	石器	磨石	<7.8>	<6.9>	<5.1>	<355.5>	磨面２		完全実測	ケン
38	石製品	石皿	<5.6>	<7.0>	<3.8>	<154.9>	—		完全実測	Ⅱ区
39	石製品	臼玉	1.1	1.1	0.5	0.9	—		完全実測	Ⅱ区
40	鉄器	鎌	<2.6>	<3.8>	<0.3>	<8.7>	—		完全実測	Ⅱ区ホリ

H 4 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面°		
1	須恵器	坏	(13.0)	(7.8)	(4.4)	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転実測	Ⅲ区
2	須恵器	有台坏	(12.4)	—	<3.3>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区
3	須恵器	高盤	—	—	<4.4>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	Ⅳ区
4	須恵器	坏蓋	(12.4)	—	<2.6>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	No1
5	土師器	甕	(17.6)	—	<3.5>	—	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅳ区
6	土師器	甕	(22.8)	—	<5.6>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
7	土師器	甕	(23.0)	—	<6.0>	—	ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区Ⅲ区
8	石器	打製石斧	<4.7>	5.9	1.9	75.0	上下端欠損		完全実測	Ⅱ区
9	石器	磨石	9.1	7.1	5.5	504	磨面１		完全実測	No3

H 5 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	須恵器	坏蓋	(16.2)	—	<2.9>	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転実測	覆土
2	土師器	武蔵甕	—	(4.8)	<9.9>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	覆土
3	土師器	甕	—	—	<4.3>	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	覆土

H 6 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	北武蔵型坏	10.3	10.5	3.0	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	No1
2	土師器	高坏	—	9.3	<4.9>	—	坏部ヘラミガキ→黒色処理、脚部ナデ→黒色処理	ヘラケズリ	完全実測	ケン
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、鎖状隆帯		破片実測・拓本	E 区
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、沈線・縄文		破片実測・拓本	W 区
5	弥生土器	甕	(15.2)	—	<5.0>	—	ヘラミガキ	櫛描斜走文	回転実測・拓本	W 区
6	弥生土器	壺	(15.0)	(5.0)	(24.0)	—	ヘラミガキ、口縁赤彩	櫛描横線文・櫛描垂下文、ヘラミガキ→赤彩	回転実測	E･W 区･H4 Ⅲ区
7	石器	磨石	4.9	4.8	2.4	83.3	正裏に使用痕		完全実測	E 区ホリ
8	石器	磨石	7.7	6.8	1.7	119.2	正裏に使用痕		完全実測	E 区
9	石器	使用痕のある剥片	3.2	3.1	0.7	9.7	—		完全実測	E 区
10	石器	使用痕のある剥片	4.3	1.9	0.6	5.8	—		完全実測	W 区

H 7 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式		破片実測・拓本	E 区
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期、沈線・刺突		破片実測・拓本	E 区
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、鎖状隆帯・「8」字状貼付文・沈線文・縄文		破片実測・拓本	E 区
4	土師器	甕	(16.4)	—	<6.1>	—	ヘラナデ	ハケ目	回転実測	P2・E 区
5	弥生土器	壺	—	—	—	—	ヘラナデ	ヘラミガキ→赤彩、頸部櫛描横線文	破片実測・拓本	E 区
6	弥生土器	壺	—	(6.4)	<3.0>	83.3	ヘラナデ	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	E 区
7	石器	磨石	<8.7>	<5.7>	<7.0>	<518.0>	上面使用面		完全実測	P2

H 8 号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(10.4)	(9.4)	<5.1>	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
2	土師器	北武蔵型坏	(11.8)	(10.4)	<4.0>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
3	土師器	坏	(12.2)	(11.4)	<4.2>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
4	土師器	坏	(12.4)	(11.0)	4.7	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅳ区
5	土師器	坏	(12.4)	(11.4)	<3.6>	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
6	土師器	坏	(12.4)	—	<4.3>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区

H 8 号住居址出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
7	土師器	坏	(13.0)	—	<4.4>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅳ区
8	土師器	坏	(13.2)	(11.8)	<4.8>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	回転実測	Ⅳ区
9	土師器	北武蔵型坏	(13.2)	(12.0)	<4.6>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区
10	土師器	坏	(13.4)	—	<4.2>	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
11	土師器	高坏	(14.6)	(8.0)	5.3	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ・Ⅳ区
12	土師器	鉢	16.9	6.0	8.8	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No1
13	土師器	鉢	(17.2)	—	7.6	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区
14	土師器	鉢	19.0	—	<6.5>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ区
15	土師器	甕	(18.4)	—	<8.7>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ・Ⅳ区
16	土師器	壺	—	(5.8)	<4.1>	—	ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅳ区
17	土師器	壺	(18.8)	—	<5.6>	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区
18	土師器	甑	—	—	<6.6>	—	ナデ	ヘラミガキ	完全実測	Ⅰ・Ⅳ区
19	須恵器	甑	(10.2)	—	<5.1>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅰ区
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期、隆帯・縄文		破片実測・拓本	Ⅱ区
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線文		破片実測・拓本	Ⅳ区
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線文		破片実測・拓本	Ⅳ区
23	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、波状口縁、沈線文、内面に円形貼付文		破片実測・拓本	Ⅱ区
24	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、「8」字鎖状隆帯、沈線による懸垂文、縄文		破片実測・拓本	Ⅳ区
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線による懸垂文、縄文		破片実測・拓本	ケン
26	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線による懸垂文		破片実測・拓本	Ⅱ区
27	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、沈線間に縄文		破片実測・拓本	Ⅳ区
28	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、鎖状隆帯、沈線間に縄文		破片実測・拓本	カマド掘方
29	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描斜走文	破片実測・拓本	Ⅱ区
30	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描斜走文	破片実測・拓本	Ⅰ区
31	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描波状文	破片実測・拓本	Ⅳ区ホリ
32	弥生土器	壺	—	3.6	<2.2>	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	Ⅰ区
33	石器	砥石	10.2	7.7	4.9	749.0	砥面数２		完全実測	Ⅳ区
34	石器	台石	<23.1>	<14.5>	<8.4>	<4500.0>	使用面１（敲打痕、擦痕有）、側辺欠損		完全実測	No3
35	石器	打製石斧	<6.5>	<4.6>	<1.8>	<58.1>	上下欠損		完全実測	Ⅲ区
36	石器	打製石斧	<7.2>	<4.9>	<1.9>	<400.8>	刃部欠損		完全実測	Ⅱ区
37	石器	打製石斧	<7.5>	<6.6>	<1.5>	<81.6>	基部残存		完全実測	Ⅱ区
38	石器	磨製石斧	<2.45>	<2.1>	<0.85>	<8.02>	刃部欠損		完全実測	Ⅰ区
39	石器	石鏃	<2.0>	1.3	0.35	<0.77>	先端欠損、チャート製		完全実測	Ⅱ区
40	石器	編物石	11.5	5.6	3.6	395.5	—		完全実測	Ⅱ区
41	石器	磨石	<5.7>	<5.0>	<2.7>	<95.4>	磨面２		完全実測	Ⅱ区
42	石器	磨石	8.8	4.9	2.9	207.5	磨面２		完全実測	Ⅳ区
43	石器	磨石	13.5	10.3	4.3	952.0	磨面２		完全実測	Ⅰ区
44	石器	磨・敲石	14.9	11.2	3.7	848.0	磨面１、縁辺に敲打痕		完全実測	Ⅱ区
45	鉄製品	不明	<11.9>	<1.4>	<0.7>	<37.1>	鏃？		完全実測	No2

H 9 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(14.0)	—	<4.2>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	Ⅰ区ホリ
2	土師器	武蔵甕	22.2	—	<20.6>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	W 区
3	土師器	壺	—	(8.0)	<1.9>	—	ナデ	ヘラミガキ	回転実測	W 区
4	須恵器	壺	—	(6.0)	<2.3>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	W 区
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 1 式、沈線文		破片実測・拓本	ケン
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 1 式、沈線文		破片実測・拓本	E 区
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 1 式、沈線文		破片実測・拓本	Ⅰ区ホリ
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 1 式、沈線文、縄文		破片実測・拓本	E 区
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期、沈線文		破片実測・拓本	W 区
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 2 式、鎖状隆帯		破片実測・拓本	Ⅰ区ホリ
11	土製品	紡錘車	<2.5>	<1.9>	<2.6>	—	ヘラミガキ		完全実測	Ⅱ区ホリ
12	石器	台石	<17.9>	<18.9>	<14.5>	<5900>	右～下側欠損、使用面 1		完全実測	覆土
13	石器	凹石	10.7	8.4	2.8	306.5	正裏に凹有		完全実測	Ⅰ区ホリ
14	石製品	石棒	<5.3>	<3.0>	<1.8>	<40.2>	右側～正面を残し欠損		完全実測	E 区
15	石器	打製石斧	<15.7>	<8.9>	<3.8>	<638.0>	刃部欠損、自然面残る		完全実測	ケン
16	石器	編物石	<10.1>	<6.2>	<5.0>	<420.0>	下部欠損、使用痕有		完全実測	W 区ホリ
17	石器	編物石	11.9	5.4	3.8	365.0		—	完全実測	W 区
18	石器	編物石	12.4	6.9	4.90	547.0		—	完全実測	Ⅰ区ホリ
19	石器	磨石	4.6	3.7	2.4	52.0	磨面 1		完全実測	Ⅰ区ホリ

H 10 号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	碗	(11.8)	(7.8)	4.4	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ、底部ヘラケズリ→付高台、墨書「？」	回転実測	カマド
2	土師器	高坏	—	8.4	<4.6>	—	ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	Ⅰ区ホリ
3	土師器	高坏	(16.5)	9.8	12.3	—	坏部ヘラミガキ→黒色処理、脚部ヘラケズリ、ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	Ⅰ区ホリ
4	須恵器	坏	(13.3)	8.5	3.4	—	ロクロナデ	ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ区ホリ
5	須恵器	有台坏	(14.8)	(9.2)	4.2	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台、底部にヘラ記号	回転実測	Ⅰ区ケン
6	土師器	武蔵甕	(23.1)	—	<23.7>	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	カマド・ケン
7	土師器	武蔵甕	23.6	5.9	30.1	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ区・カマド
8	土師器	武蔵甕	24.6	(5.1)	32.8	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	カマド
9	土師器	武蔵甕	(25.0)	(6.4)	33.4	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区・カマド
10	土師器	ロクロ甕	—	4.0	<26.9>	—	ヘラケズリ→ナデ	叩目→ナデ	完全実測	カマド・ケン
11	土師器	武蔵甕	—	4.4	<29.8>	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	カマド・ケン
12	土師器	ロクロ甕	—	6.6	<7.8>	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ区・ケン
13	土師器	武蔵甕	—	—	<9.2>	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	カマド・ケン
14	須恵器	甕	—	—	—	—	ナデ	櫛描波状文	破片実測・拓本	Ⅰ区ホリ
15	須恵器	横瓶	(11.8)	—	<7.1>	—	ナデ	叩目	回転実測	Ⅰ区
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 1 式、鎖状隆帯、沈線		破片実測・拓本	Ⅱ区・カマド
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 1 式、鎖状隆帯、沈線、縄文		破片実測・拓本	Ⅰ区ホリ
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 1 式、沈線		破片実測・拓本	Ⅰ区

H 10 号住居址出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
19	縄文土器	注口	<7.0>	3.0	0.5	—	後期、注口部分、無文		完全実測	Ⅲ区
20	土製品	土偶	<2.8>	<2.4>	—	—	後期、足部分		完全実測	Ⅱ区ホリ
21	石器	砥石	<9.7>	<8.3>	<4.0>	<481.5>	下部欠損、砥面数３		完全実測	Ⅲ区
22	石器	編物石	8.0	3.4	2.30	86.6	—		完全実測	Ⅲ区
23	石器	編物石	8.3	4.4	2.4	146.3	—		完全実測	Ⅲ区
24	石器	編物石	8.5	4.4	2.7	151.4	—		完全実測	Ⅲ区
25	石器	編物石	<8.6>	<4.9>	<3.0>	<169.3>	下部欠損、左側に挟り？		完全実測	Ⅲ区
26	石器	編物石	8.8	4.1	2.2	124.4	—		完全実測	Ⅲ区
27	石器	編物石	8.8	4.2	2.3	111.4	—		完全実測	Ⅲ区
28	石器	編物石	8.9	3.8	3.1	151.3	—		完全実測	Ⅲ区
29	石器	編物石	8.9	4.2	3.0	163.5	—		完全実測	Ⅲ区
30	石器	編物石	9.1	4.3	2.7	141.6	—		完全実測	Ⅲ区
31	石器	編物石	9.3	4.6	3.6	194.0	—		完全実測	Ⅲ区
32	石器	編物石	9.7	3.6	2.8	139.1	—		完全実測	Ⅲ区
33	石器	編物石	9.7	3.9	3.2	162.0	—		完全実測	Ⅲ区
34	石器	編物石	10.0	4.8	3.3	174.1	—		完全実測	Ⅲ区
35	石器	編物石	10.1	4.4	2.6	178.5	—		完全実測	Ⅲ区
36	石器	編物石	10.3	4.5	3.4	227.0	—		完全実測	Ⅲ区
37	石器	編物石	11.1	5.3	2.7	174.6	使用痕有		完全実測	Ⅲ区
38	石器	編物石	12.3	5.3	2.3	176.0	—		完全実測	Ⅲ区
39	石器	編物石	12.5	4.4	3.1	275.0	—		完全実測	Ⅲ区
40	石器	磨・敲石	5.2	4.2	1.3	39.2	磨面１、縁辺に敲打痕		完全実測	Ⅱ区ホリ
41	鉄器	長頸鏃	<6.9>	<0.6>	<0.4>	<4.44>	先端欠損		完全実測	Ⅲ区

H 11 号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(18.0)	—	<4.8>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区ホリ
2	土師器	北武蔵型坏	(13.4)	(13.6)	<4.2>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区ホリ
3	土師器	坏	(13.6)	(6.0)	3.4	—	ヘラミガキ→黒色処理	回転糸切	回転実測	Ⅰ・Ⅳ区
4	土師器	坏	(16.2)	(7.2)	(5.6)	—	ヘラミガキ→黒色処理	回転糸切→底部周縁ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区ホリ・Ⅳ区・P7
5	土師器	坏	(16.4)	—	<3.7>	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「？」	回転実測	Ⅳ区
6	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「？」	破片実測	Ⅰ区
7	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「？」	破片実測	覆土
8	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「？」	破片実測	ケン
9	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「？」	破片実測	Ⅳ区
10	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「？」	破片実測	Ⅳ区
11	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「？」	破片実測	Ⅱ区
12	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「？」	破片実測	Ⅱ区
13	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「？」	破片実測	Ⅳ区
14	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「？」	破片実測	Ⅱ区

H 11 号住居址出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
15	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「字」?	破片実測	Ⅰ区
16	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「?」	破片実測	Ⅱ区
17	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「?」	破片実測	Ⅰ区
18	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「?」	破片実測	Ⅲ区
19	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「字」?	破片実測	Ⅱ区ホリ
20	土師器	碗	—	8.8	<2.4>	—	ヘラミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	Ⅲ区ホリ
21	土師器	皿	12.3	5.8	3.00	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理、付高台	完全実測	Ⅱ区
22	土師器	皿	(13.6)	7.3	3.10	—	ヘラミガキ→黒色処理	回転ヘラケズリ→付高台	完全実測	Ⅰ・Ⅳ区
23	土師器	皿	14.2	7.2	3.4	—	ヘラミガキ→黒色処理	回転ヘラケズリ→付高台	完全実測	カマド
24	土師器	皿	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「?」	破片実測	Ⅰ区
25	須恵器	坏	13.6	5.6	3.9	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	カマド
26	須恵器	坏	13.7	6.0	3.9	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No1
27	須恵器	坏	13.7	6.6	3.7	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	カマド
28	須恵器	坏	(13.8)	(6.0)	4.3	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	P7
29	須恵器	坏	14.1	6.6	3.9	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	Ⅱ区・Ⅱ区ホリ
30	須恵器	坏	(14.2)	7.5	3.6	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	Ⅰ・Ⅳ区
31	須恵器	坏	(14.8)	(8.8)	3.4	—	ロクロナデ	右回転糸切	回転実測	Ⅱ区
32	須恵器	坏	(15.0)	(10.0)	4.1	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区
33	須恵器	坏	—	(6.8)	<2.9>	—	ロクロナデ、火襷	右回転糸切、火襷	回転実測	P7
34	須恵器	坏蓋	(12.4)	3.2	3.7	—	ロクロナデ	つまみ貼付	回転実測	Ⅱ区・Ⅱ区ホリ
35	土師器	鉢	(16.4)	—	<13.0>	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「字」?	回転実測	ケン
36	土師器	鉢	(17.4)	—	<4.4>	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「字」?	回転実測	Ⅱ区ホリ
37	土師器	鉢	(19.2)	—	6.8	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ区ホリ
38	土師器	武蔵甕	(20.4)	—	<13.4>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
39	土師器	甕	(25.4)	—	<33.0>	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ区ホリ・ケン
40	土師器	台付甕	—	(7.0)	<3.8>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
41	土師器	武蔵甕	—	—	—	—	ナデ	刻書「?」	破片実測	Ⅳ区
42	須恵器	甕	(40.8)	—	<11.9>	—	当具痕	平行叩目	回転実測	カマド
43	須恵器	壺	—	7.6	<3.3>	—	ロクロナデ	回転糸切→付高台	完全実測	Ⅰ・Ⅳ区
44	須恵器	壺	—	—	<12.1>	—	当具痕	平行叩目	回転実測	Ⅲ区
45	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、沈線間に縄文		破片実測・拓本	Ⅰ区ホリ
46	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、沈線間に縄文		破片実測・拓本	ケン
47	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、「8」字状貼付文、鎖状隆帯、内面に２本の平行沈線		破片実測・拓本	Ⅱ区ホリ
48	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、「8」字状貼付文、鎖状隆帯、沈線間に縄文		破片実測・拓本	カマド
49	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、沈線文		破片実測・拓本	Ⅳ区
50	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期、凸帯文		破片実測・拓本	Ⅱ区
51	土製品	土器片円盤	4.6	4.7	1.5	—	中央に円孔	中央に円孔	完全実測	覆土
52	石製品	石皿	<17>	<16.9>	<7.0>	<2080.0>	左側以外欠損		完全実測	No2
53	石器	打製石斧	<3.4>	<4.5>	<0.9>	<18.7>	刃部のみ残存		完全実測	Ⅰ区
54	石器	打製石斧	<3.6>	<4.7>	<1.3>	<22.6>	側縁のみ残存、磨滅有		完全実測	Ⅲ区
55	石器	打製石斧	<7.6>	<4.9>	<1.1>	<56.9>	基部欠損、磨滅有		完全実測	Ⅲ区
56	石器	打製石斧	<7.6>	<5.8>	< 2.9>	<158.7>	刃部欠損		完全実測	Ⅳ区

H 11 号住居址出土遺物観察表 (3)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
57	石器	打製石斧	<8.2>	< 6.7 >	<1.8>	<119.3>	両端欠損		完全実測	Ⅲ区ホリ
58	石器	石鏃	2.50	1.95	0.55	2.22	チャート		完全実測	Ⅳ区
59	石器	石錐	2.60	<2.45>	<0.70>	<3.97>	先端欠損		完全実測	Ⅲ区ホリ
60	石器	磨石	<6.0>	<4.2>	<1.9>	<68.3>	磨面 1、左側以外欠損		完全実測	Ⅳ区ホリ
61	石器	磨石	<7.5>	<7.1>	<1.7>	<124.5>	磨面 2、右～下側欠損		完全実測	Ⅰ区ホリ
62	石器	磨石	7.60	4.00	2.50	90.40	全体に磨り		完全実測	ケン
63	石器	磨石	8.30	5.70	2.00	150.00	磨面 1		完全実測	Ⅱ区
64	石器	敲石	13.20	6.60	5.10	638.00	端部に敲痕		完全実測	Ⅰ区
65	石器	敲石	16.80	7.60	4.10	803.00	端部に敲痕		完全実測	Ⅱ区
66	石器	磨・敲石	<18.2>	<13.4>	<4.3>	<1334.0>	磨面 2、縁辺に敲き		完全実測	Ⅰ区
67	石製品	素材	7.90	3.90	1.40	48.10		—	完全実測	Ⅱ区ホリ
68	鉄器	刀子	<6.8>	1.0	<0.4>	<6.5>	両端欠損		完全実測	Ⅱ区ホリ
69	鉄製品	紡錘者	5.4	5.3	0.2	21.4	円盤部のみ、孔径 5 ミリ		完全実測	Ⅱ区
70	鉄器	鋤先	<13.8>	<2.5>	<1.6>	<76.5>	先端、左側欠損		完全実測	Ⅳ区
71	鉄器	長頸鏃	<10.3>	<0.6>	<0.5>	<11.3>	刃部欠損		完全実測	Ⅳ区
72	鉄製品	不明	<3.8>	<2.9>	<1.0>	<19.1>	折畳まれている		完全実測	Ⅱ区
73	鉄滓	—	—	—	—	—	未図化		—	Ⅱ区

H 12 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	皿	(12.8)	—	<2.2>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	回転実測	覆土ホリ
2	土師器	甕	(23.8)	—	<18.8>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	覆土
3	須恵器	壺	—	—	<4.0>	—	ロクロナデ	ロクロナデ、自然釉付着	回転実測	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 1 式、沈線		破片実測・拓本	覆土ホリ
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期、凸帯文		破片実測・拓本	覆土ホリ
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 2 式、隆帯に刻目、沈線		破片実測・拓本	覆土
7	土製品	土器片円盤	2.5	2.5	0.6	—		—	破片実測・拓本	覆土ホリ
8	土製品	土器片円盤	3.7	4.2	1.1	—	縄文時代後期深鉢片を加工		破片実測・拓本	覆土ホリ
9	土製品	土器片円盤	4.3	4.2	0.9	—		—	破片実測・拓本	覆土
10	石器	打製石斧	<2.4>	<4.4>	<1.2>	<16.4>	左側以外欠損		完全実測	覆土ホリ
11	鉄製品	鎧の小札	7.1	2.6	0.1	12.96	孔径 0.20 ～ 0.35、完形		完全実測	覆土
12	鉄製品	鎧の小札	<2.8>	<2.7>	<0.1>	<3.38>	孔径 <0.25 ～ 0.30>、上部欠損		完全実測	覆土

H 13 号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	北武蔵型坏	(12.5)	—	(3.7)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	P3
2	土師器	北武蔵型坏	(15.4)	—	<3.8>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区
3	土師器	高坏	12.6	(9.4)	9.0	—	ミガキ→黒色処理、剥離、脚部ヘラケズリ	ヘラケズリ→ミガキ	完全実測	№ 2
4	土師器	高坏	14.2	9.7	9.2	—	ミガキ→黒色処理、脚部ナデ	ヘラケズリ→ミガキ、墨書「?」	完全実測	№ 1

H 13 号住居址出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
5	土師器	高坏	—	8.4	<6.1>	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	完全実測	Ⅲ区
6	須恵器	坏蓋	(9.3)	—	<3.5>	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区・カクラン
7	土師器	甕	14.5	—	<9.3>	—	ヘラナデ、口縁ミガキ	体部ミガキ	完全実測	№3
8	土師器	甕	(15.6)	—	<11.2>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ	回転実測	Ⅲ区
9	土師器	武蔵甕	(19.6)	—	<5.9>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
10	土師器	甑	(17.6)	—	<5.9>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	完全実測、高坏の二次利用	ｶﾏﾄﾞ
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、隆帯・沈線・縄文		破片実測・拓本	Ⅲ区
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、沈線・縄文		破片実測・拓本	Ⅰ区
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、沈線・縄文		破片実測・拓本	刈
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、隆帯に刻目・沈線・縄文		破片実測・拓本	刈
15	縄文土器	ｱ鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、口唇部刻目・沈線		破片実測・拓本	Ⅲ区
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期、凸帯文		破片実測・拓本	刈
17	石器	凹石	<7.9>	<7.4>	<3.1>	<241>	両端欠損、正裏に凹		完全実測	刈
18	石器	打製石斧	<5.2>	<4.4>	<1.3>	<39.5>	基部のみ		完全実測	Ⅲ区
19	石器	磨石	3.9	2.9	1.8	29.6	全体に磨り		完全実測	Ⅲ区
20	石器	磨石	<4.6>	<3.69>	<1.4>	<32.3>	下部欠損、磨り面２		完全実測	Ⅲ区
21	石器	磨石	<6.2>	<2.8>	<0.6>	<16.1>	全周欠損、全体磨り		完全実測	Ⅲ区
22	石器	磨石	<9.7>	<7.9>	<2.5>	<187>	右～下側欠損、磨り面１		完全実測	Ⅲ区
23	鉄製品	不明	3.4	1.1	0.2	3.2	捻れている		完全実測	Ⅲ区

H 15 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(14.0)	(6.6)	(3.9)		ヘラミガキ→黒色処理	底部回転糸切	回転実測	E区
2	土師器	坏	(15.6)	—	<4.6>		ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	E区
3	土師器	坏	—	—	—		ヘラミガキ→黒色処理	墨書	破片実測	E区
4	須恵器	坏	13.9	7.1	4.4		ロクロナデ・火襷	右回転糸切・火襷	完全実測	No3
5	須恵器	坏	(14.6)	(8.4)	4.0		ロクロナデ・火襷	回転ヘラ切・ヘラ記号「？」・火襷	回転実測	W区
6	須恵器	有台坏	(14.9)	11.1	7.2		ロクロナデ	回転ヘラケズリ→高台貼付	完全実測	No1
7	土師器	武蔵甕	(15.2)	—	<15.8>		ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	EW区・H22
8	土師器	武蔵甕	(22.0)	—	<22.1>		ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	EW区
9	土師器	武蔵甕	—	(3.0)	<7.7>		ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	No2・E区
10	土師器	武蔵甕	—	(6.2)	<4.7>		ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	W区・I区ホリ
11	石器	台石	<15.9>	<10.0>	<3.8>	<1029.0>	下側以外欠損、使用面２		完全実測	W区
12	石器	磨石	16.8	16.9	6.7	2390.0	磨面１		完全実測	No4

H 16 号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	須恵器	坏	—	(8.2)	<1.3>		ロクロナデ	右回転糸切→底部周縁手持ヘラケズリ	回転実測	ケン

H 16 号住居址出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
2	須恵器	蓋	(14.6)	—	<1.2>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	ケン
3	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕	平行叩目	破片実測・拓本	ケン

H 17 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(11.6)	—	(3.0)	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	覆土
2	土師器	高坏	—	—	<4.8>	—	ナデ	ヘラミガキ	完全実測	覆土
3	須恵器	壺	6.8	—	<6.1>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	中期後半加曾利E式、微隆起線・縄文		破片実測・拓本	Ⅰ区
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、鎖状隆帯・沈線		破片実測・拓本	Ⅲ区
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線		破片実測・拓本	Ⅰ区
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線		破片実測・拓本	Ⅱ区
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線・縄文		破片実測・拓本	覆土
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線		破片実測・拓本	Ⅲ区
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線・縄文		破片実測・拓本	Ⅲ区
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、無文		破片実測・拓本	Ⅰ区
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期、凸帯文土器		破片実測・拓本	Ⅳ区剥
13	石器	打製石斧	<9.3>	<5.2>	<1.1>	<76.3>	刃部欠損		完全実測	Ⅰ区
14	石器	石鏃	<1.4>	<0.9>	<0.25>	<0.29>	チャート、脚部欠損		完全実測	覆土
15	石器	磨石	5.9	4.2	2.2	80.2	全体に擦り		完全実測	Ⅳ区剥
16	石器	磨石	7.8	5.9	1.9	120.4	磨り面１		完全実測	Ⅰ区
17	石器	磨石・敲石	11.3	7.5	3.7	521.0	磨り面２、辺縁と正面に敲打痕		完全実測	覆土
18	石器	磨石	13.6	6.1	4.4	595.0	磨り面２		完全実測	覆土

H 18 号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	10.2	5.2	3.1	—	ヘラミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	Ⅰ区
2	土師器	坏	(13.6)	(6.4)	(3.1)	—	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	ケン
3	土師器	坏	13.8	6.1	4.4	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	完全実測	カマド、Ⅰ区
4	土師器	坏	(13.8)	—	<3.6>	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「字」	回転実測	Ⅲ区
5	土師器	坏	14.0	5.5	3.6	—	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	完全実測	Ⅲ区、ケン
6	土師器	坏	14.0	6.1	4.1	—	ヘラミガキ→黒色処理	右回転糸切	破片実測	No4、Ⅱ区
7	土師器	坏	(14.1)	5.7	4.8	—	ヘラミガキ→黒色処理	回転ヘラケズリ	完全実測	No1、Ⅰ区カマド
8	土師器	坏	14.2	6.0	5.3	—	ヘラミガキ→黒色処理	回転ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ区
9	土師器	坏	(15.2)	6.5	5.6	—	ヘラミガキ→黒色処理	回転ヘラケズリ	完全実測	No7、Ⅰ・Ⅲ区
10	土師器	坏	(15.2)	7.4	4.0	—	ヘラミガキ→黒色処理	回転糸切→周縁部ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ区ホリ
11	土師器	坏	(16.2)	(7.8)	(5.8)	—	ヘラミガキ→黒色処理	底部周縁ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
12	土師器	坏	(17.6)	—	<3.7>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	Ⅲ区
13	土師器	坏	(16.7)	7.8	5.7	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ、墨書「？」	完全実測	No2

H 18 号住居址出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
14	土師器	坏	17.9	(7.0)	(5.8)	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ、墨書「十」	完全実測	No6、Ⅲ区
15	土師器	坏	(18.0)	(9.2)	(5.0)	—	ヘラミガキ→黒色処理	底部・周縁ヘラケズリ	回転実測	カマド
16	土師器	坏	(20.0)	(7.2)	(5.3)	—	ヘラミガキ→黒色処理	底部・周縁ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区、ケン
17	土師器	坏	—	(5.2)	<1.2>	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「?」	回転実測	Ⅱ区
18	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「?」	破片実測	Ⅰ区
19	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「?」	破片実測	Ⅱ区
20	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「?」	破片実測	Ⅳ区
21	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「?」	破片実測	Ⅱ区
22	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「?」	破片実測	Ⅱ区
23	土師器	皿	12	—	<1.2>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	完全実測	Ⅱ・Ⅲ区、Ⅲ区ホリ
24	土師器	皿	(12.8)	6.4	2.7	—	ヘラミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	Ⅱ区
25	土師器	皿	13.6	6.7	3.0	—	ヘラミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	No8
26	土師器	皿	(14.0)	—	<2.4>	—	ヘラミガキ	回転糸切→付高台	完全実測	Ⅲ区、カマド
27	土師器	皿	14.4	8.0	3.3	—	ヘラミガキ→黒色処理	右回転糸切→付高台、墨書「大井」	完全実測	No5
28	土師器	皿	—	(9.4)	<2.7>	—	暗文→黒色処理	回転糸切→付高台	回転実測	ケン、Ⅱ区
29	土師器	椀	—	5.8	<3.2>	—	ヘラミガキ→黒色処理	回転ヘラケズリ→付高台	完全実測	Ⅱ区
30	土師器	坏蓋	—	—	<3.0>	—	ロクロナデ	ヘラミガキ→黒色処理	完全実測	カマド
31	須恵器	坏	(12.6)	6.0	3.5	—	ロクロナデ	右回転糸切、火襷	完全実測	No3、Ⅰ区
32	須恵器	坏	13.1	6.3	3.5	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	Ⅰ・Ⅱ区、カマド、ケン
33	須恵器	坏	13.3	6.3	4.0	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	Ⅰ・Ⅱ区
34	須恵器	坏	(13.6)	6.3	3.7	—	ロクロナデ、火襷	右回転糸切、火襷	完全実測	Ⅰ区、カマド
35	須恵器	坏	13.6	6.7	3.7	—	ロクロナデ、火襷	右回転糸切、火襷、墨書「十・一」	完全実測	ケン
36	須恵器	坏	13.6	7.2	3.5	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	Ⅰ・Ⅱ区、ケン
37	須恵器	坏	13.8	6.4	4.0	—	ロクロナデ	回転糸切	完全実測	Ⅱ区
38	須恵器	坏	(14.0)	(6.2)	4.0	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	Ⅲ区、ケン
39	須恵器	坏	(14.0)	(6.2)	4.0	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	Ⅲ区、ケン
40	須恵器	坏	(14.0)	(7.2)	(4.2)	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	Ⅱ区
41	須恵器	坏	(14.1)	6.3	4.2	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	Ⅱ区
42	須恵器	坏	(14.2)	(7.0)	(3.8)	—	ロクロナデ	右回転糸切	回転実測	Ⅱ・Ⅳ区
43	須恵器	坏	—	6.9	<1.2>	—	ロクロナデ、刻書「魔除け記号」	右回転糸切	完全実測	Ⅲ区
44	須恵器	坏	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ、墨書「?」	破片実測	Ⅱ区
45	須恵器	坏蓋	(13.2)	—	4.3	—	ロクロナデ、火襷	回転ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ区ホリ、Ⅱ区
46	須恵器	坏蓋	(14.6)	—	4.6	—	ロクロナデ、火襷	回転ヘラケズリ	完全実測	カマド
47	須恵器	坏蓋	15.3	—	3.1	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	完全実測	Ⅱ区
48	土師器	鉢	(21.6)	—	<15.4>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区
49	土師器	鉢	—	(9.0)	(10.2)	—	ヘラミガキ→黒色処理	底部・周縁回転ヘラケズリ、墨書「大十 or 本」	回転実測	Ⅱ区
50	土師器	ロクロ甕	—	5.0	<6.1>	—	ナデ	ヘラケズリ	破片実測・拓本	Ⅱ区
51	須恵器	擂鉢	—	(9.8)	<4.6>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区
52	須恵器	甕	—	(11.4)	<7.4>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	カマド
53	須恵器	甕	—	—	—	—	ロクロナデ	平行叩目、櫛描波状文	破片実測	Ⅰ区
54	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、隆帯・沈線・縄文・波状口縁		破片実測・拓本	Ⅰ区
55	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線文		破片実測・拓本	Ⅲ区

H 18 号住居址出土遺物観察表 (3)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
56	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 1 式、沈線文・縄文		破片実測・拓本	I 区
57	縄文土器	注口土器	—	—	—	—	後期堀之内式、沈線文		破片実測・拓本	ケン
58	縄文土器	注口土器	—	—	—	—	後期加曽利 B 式、沈線文		破片実測・拓本	II 区
59	弥生土器	鉢	—	(4.2)	<2.6>	—	赤彩	赤彩	回転実測	III 区
60	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描斜走文	破片実測・拓本	ケン
61	ミニュチア土器		—	(4.2)	<1.6>	—	ナデ	ナデ	回転実測	II 区
62	石器	台石	24.80	10.60	6.50	2,360.00	使用面 1、欠損状況不明		完全実測	カマド
63	石器	編物石	8.10	4.40	2.30	111.10		—	完全実測	III 区
64	石器	編物石	<8.3>	<3.6>	<2.1>	<69.2>	約 1/2 欠損		完全実測	III 区
65	石器	編物石	11.90	4.90	3.50	338.00		—	完全実測	No9
66	石器	磨・敲石	<4.9>	<5.4>	<3.6>	<142.1>	両端欠損、磨面 2、表・裏に敲打痕		完全実測	No9
67	石器	磨石	5.00	4.00	3.10	85.40	磨面 1		完全実測	P3
68	石器	磨石	<5.2>	<3.7>	<1.6>	<56.8>	左側以外欠損、磨面 1		完全実測	IV 区
69	石器	磨石	7.1	4.2	1.9	98.8	磨面 2		完全実測	II 区ホリ
70	石器	磨石	7.2	5.4	3.0	170.4	磨面 2		完全実測	I 区ホリ
71	石器	磨石	<7.6>	<6.6>	<1.8>	<109.8>	上部欠損、磨面 1		完全実測	II 区ホリ
72	鉄製品	紡錘者	<16.5>	<10.5>	<0.5>	<22.5>	軸欠損		完全実測	No10
73	鉄器	長頸鏃	15.5	<3.4>	0.6	<18.9>	鏃身部欠損		完全実測	No12

H 19 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	北武蔵型坏	(13.2)	(11.4)	<3.4>	—	ナデ	底部ヘラケズリ	回転実測	E 区
2	土師器	壺	—	(14.6)	<5.2>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	E 区
3	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕	タタキ	破片実測・拓本	ケン
4	石製品	石棒	<3.8>	<3.3>	<2.3>	<38.9>	両端、裏面欠損		完全実測	W 区
5	石器	石鏃	1.6	1.0	0.25	0.35	チャート、完形		完全実測	I 区

H 20 号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	甕	(16.6)	—	<8.0>	—	ハケ目	ハケ目	回転実測	覆土
2	土師器	甕	—	5.9	<4.3>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	覆土
3	土師器	甑	15.7	4.8	14.0	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No2
4	土師器	甑	18.2	2.6	11.9	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No1
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 2 式、沈線・縄文		破片実測・拓本	覆土
6	縄文土器	注口土器	—	—	—	—	後期		破片実測	覆土
7	縄文土器	注口土器	—	—	—	—	後期		破片実測	覆土
8	弥生土器	壺	—	—	—	—	剥落	櫛描『T』字文	破片実測・拓本	覆土
9	石器	磨製石斧	<4.7>	<4.0>	<2.6>	<57.9>	刃部欠損、高打痕有		完全実測	覆土

H 20 号住居址出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
10	石器	スクレイパー	4.5	1.5	0.5	2.85	黒曜石		完全実測	覆土
11	石器	石鏃	<2.00>	<1.25>	<0.35>	<0.68>	脚部欠損		完全実測	ホリ
12	石器	磨石	<5.2>	<5.2>	<1.6>	<51.3>	下部欠損、磨り面 1		完全実測	覆土
13	石器	磨・敲石	<3.8>	<6.7>	<1.1>	<38.8>	上部欠損、磨り面 2		完全実測	覆土

H 21 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	—	(7.2)	<1.2>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	ケン
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 1 式、沈線・縄文		破片実測・拓本	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期?、櫛状工具による曲水文		破片実測・拓本	ホリ
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 1 式、沈線		破片実測・拓本	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 2 式、沈線・縄文		破片実測・拓本	覆土
6	弥生土器	甕	—	—	—	—	後期、櫛描波状文・簾状文		破片実測・拓本	覆土
7	石器	編物石	10.3	5.2	4.0	277.0	使用痕有		完全実測	カマド
8	石器	編物石	12.6	5.6	3.5	326.5	—		完全実測	カマド
9	石器	編物石	<8.9>	<5.2>	<4.7>	<239.5>	下部欠損、使用痕有		完全実測	カマド

H 22 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	須恵器	坏	—	(6.2)	<1.1>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土
2	須恵器	有台坏	—	(11.6)	<1.4>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土
3	須恵器	蓋	—	—	<2.3>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	ケン
4	土師器	武蔵甕	—	5.2	<17.5>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	覆土・H I II区・P7
5	須恵器	壺	—	(11.0)	<2.6>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 1 式、波状口縁・鎖状隆帯・沈線・口唇部に刻目		破片実測・拓本	ケン
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 2 式、沈線		破片実測・拓本	覆土
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 1 式、沈線・縄文		破片実測・拓本	覆土
9	石器	石錐	2.15	1.25	0.65	1.33	チャート		完全実測	覆土
10	石器	磨・敲石	11.0	5.2	3.8	319.0	磨面 1、端部に敲打痕、赤色顔料付着か?		完全実測	覆土
11	鉄器	長頸鏃	<4.8>	<0.6>	<0.3>	<3.5>	両端欠損		完全実測	No1

H 23 号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	12.5	—	5.0	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測	I・II・IV区、F4P2
2	土師器	坏	13.3	7.9	4.4	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測	カマド
3	土師器	北武蔵型坏	13.3	12.4	4.6	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	IV区
4	土師器	北武蔵型坏	(11.2)	(10.4)	3.5	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	I区

H 23 号住居址出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
5	土師器	坏	(11.8)	(6.2)	(4.0)	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区
6	土師器	北武蔵型坏	(12.4)	(11.6)	<3.7>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
7	土師器	北武蔵型坏	(12.5)	11.5	3.9	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ区
8	土師器	坏	(12.6)	11.3	4.3	—	黒色処理	ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ・Ⅱ区
9	土師器	坏	(13.0)	—	4.7	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ区
10	土師器	鉢	(12.4)	—	<6.5>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区
11	土師器	鉢	(18.0)	(6.8)	11.3	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ・Ⅳ区、F2P2・3・4
12	土師器	鉢	—	7.8	<5.6>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測	Ⅱ区
13	土師器	甕	20.9	—	<36.6>	—	ハケ目	ハケ目→ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区
14	土師器	甕	(14.4)	(7.4)	(17.3)	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区
15	土師器	甕	(24.4)	—	<17.6>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区
16	土師器	甑	(18.0)	—	<15.0>	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ区
17	土師器	壺	(21.6)	—	<12.0>	—	ナデ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ区
18	土製品	土偶	<2.8>	<2.8>	—	—	左足		完全実測	Ⅰ区
19	石器	台石	<14.0>	<14.3>	<10.9>	<2830.0>	左側以外欠損、使用面 2		完全実測	カマド
20	石器	編物石	9.0	5.8	2.8	229.0	抉り有り		完全実測	Ⅰ区
21	石器	磨・敲石	8.8	5.8	3.6	248.0	磨面 1、端部に敲打痕		完全実測	Ⅰ区
22	石器	敲石	10.2	4.4	1.9	134.0	端部に敲打痕		完全実測	Ⅰ区
23	石器	磨・敲・凹石	<10.9>	<6.0>	3.4	<296.0>	磨面 2、正面に凹、縁辺に敲打痕、一部欠損		完全実測	Ⅱ区
24	石器	石皿	<12.8>	<10.7>	<8.1>	<711.0>	左側以外欠損、脚有		完全実測	Ⅱ区
25	石製品	石棒	<13.4>	<4.0>	<3.7>	<317.0>	下部欠損		完全実測	Ⅱ区

H 24 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	有段口縁坏	(14.2)	(11.0)	(4.4)	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	E区
2	土師器	甕	(20.2)	—	<6.0>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	覆土
3	須恵器	壺	—	—	<4.2>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	E区
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、円孔・沈線・波状口縁		完全実測	E・W区
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、円孔・沈線		破片実測・拓本	覆土
6	土製品	土器片円盤	3.5	3.3	0.8	—	縄文土器深鉢片を加工		破片実測・拓本	覆土

H 25 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	12.3	—	5.6	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測	E区
2	須恵器	坏	—	(10.3)	<3.6>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土
3	須恵器	有台坏	—	(12.0)	<1.5>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	E区
4	土師器	甕	(15.2)	6.4	13.3	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	E・W区

H 26 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、沈線・縄文		破片実測・拓本	S 区
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期無文粗製土器		破片実測・拓本	S 区
3	縄文土器	柱口土器	—	—	—	—	後期		破片実測	N 区
4	弥生土器	鉢	14.9	4.9	5.8	—	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	S 区
5	弥生土器	甕	(19.6)	7.6	24.5	—	ヘラミガキ	櫛描波状文・簾状文	完全実測	P2・３・S 区
6	弥生土器	壺	(24.4)	—	<3.8>	—	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	S 区
7	弥生土器	壺	—	—	—	—	剥落	ヘラ描斜走文・赤彩	破片実測・拓本	N 区
8	石器	台石	<24.5>	25.4	<4.0>	<4000>	下部欠損、正面～側面赤化（赤色顔料？）		完全実測	No 1
9	石器	打製石斧	<5.8>	<5.8>	<1.6>	<72.3>	下部欠損、磨滅有り		完全実測	N 区
10	石器	磨・敲石	8.0	3.8	2.4	110.1	全体磨り、端部に敲打痕		完全実測	S 区
11	石器	磨・敲石	9.2	8.5	3.2	354.5	磨り面２縁辺と正面敲打痕		完全実測	N 区
12	石器	石皿	<9.6>	<7.9>	<6.8>	<439.5>	左側以外欠損		完全実測	N 区

H 27 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	弥生土器	甕	13.7	5.3	14.7	—	ヘラミガキ	櫛描波状文・簾状文	完全実測	M1W 区
2	弥生土器	甕	18.7	—	<14.9>	—	ヘラミガキ	櫛描斜走文・簾状文	完全実測	No1
3	石器	打製石斧	<8.5>	<5.8>	<1.5>	<108.7>	基部欠損、刃部磨滅		完全実測	覆土

H 28 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	弥生土器	高坏	—	—	<4.8>	—	坏部ヘラミガキ→赤彩、脚部ハケ目→ヘラナデ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期、微隆起線文		回転実測・拓本	覆土

H 30 号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線		破片実測・拓本	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、鎖状隆帯・沈線・縄文		破片実測・拓本	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、鎖状隆帯・沈線・縄文		破片実測・拓本	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期、沈線区画内を円形刺突で充填		破片実測・拓本	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期、沈線区画内を円形刺突で充填		破片実測・拓本	覆土
6	弥生土器	鉢	(14.0)	(4.8)	(5.7)	—	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	覆土
7	弥生土器	甕	—	5.4	<3.2>	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	No1
8	弥生土器	甕	—	6.1	<2.4>	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ	完全実測	覆土
9	弥生土器	甕	—	—	—	—	ハケ目	櫛描斜走文・簾状文２連止	破片実測・拓本	覆土
10	弥生土器	壺	(26.6)	—	<4.8>	—	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	覆土
11	弥生土器	壺	—	(7.4)	<2.7>	—	ナデ	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	覆土
12	土製品	羽口	—	—	—	—	外径 (6.0)、ケズリ		完全実測	覆土

H 30 号住居址出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
13	土製品	羽口	－	－	－	－	外径 (7.2) 内径 (5.2)、ケズリ		完全実測	覆土
14	石製品	砥石	<10.8>	<9.5>	<3.6>	<414.5>	2 辺欠損、砥面 1、条痕有		完全実測	覆土
15	石器	打製石斧	<7.4>	<4.2>	<2.2>	<82.5>	刃部欠損		完全実測	覆土

H 31 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	須恵器	有台付	－	(10.8)	<1.4>	－	ロクロナデ	ロクロナデ→回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	－
2	石器	磨石	6.4	6.2	1.3	107.9	磨面 1、欠損状況不明		完全実測	－

掘立柱建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
F 1 － 1	土師器	壺	－	(7.8)	<3.6>	－	ハケ目	ヘラケズリ→ナデ→ハケ目→ミガキ	回転実測	F1P1
F 1 － 2	弥生土器	壺	－	－	－	－	ミガキ	櫛描波状・簾状文	破片実測・拓本	F1P1
F 5 － 1	石器	打製石斧	<4.7>	<5.2>	<1.4>	<50.0>	上下欠損		完全実測	F5P2
F 6 － 1	須恵器	坏	－	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	F6P2

土坑出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
D1 － 1	土師器	皿	－	－	<1.3>	－	ミガキ	ロクロナデ→回転ヘラケズリ→付高台	完全実測	覆土
D2 － 1	須恵器	甕	－	－	－	－	当具痕→ナデ	叩目	破片実測・拓本	覆土
D2 － 2	弥生土器	壺	－	－	－	－	ミガキ	ミガキ→櫛描横走文、櫛描垂下文	破片実測・拓本	覆土
D2 － 3	石器	磨・敲石	13.6	7.0	4.8	660	磨面 2、両端と縁辺に敲打痕		完全実測	覆土
D2 － 4	石器	打製石斧	14.5	6.0	1.9	<228>	一部欠損、刃部に磨滅		完全実測	覆土
D4 － 1	土師器	坏	－	－	－	－	ミガキ	ミガキ	破片実測	覆土
D4 － 2	土師器	坏	－	－	－	－	－	沈線	破片実測・拓本	覆土
D4 － 3	土師器	坏	－	－	－	－	ミガキ	ミガキ	破片実測・拓本	覆土
D4 － 4	土師器	坏	－	－	－	－	ミガキ	ミガキ	破片実測・拓本	覆土
D4 － 5	土師器	深鉢	－	－	－	－	－	波状口縁、沈線、刺突、穿孔	破片実測・拓本	覆土
D4 － 6	土師器	深鉢	－	－	－	－	ミガキ	波状口縁、沈線、刺突、穿孔	破片実測・拓本	覆土
D4 － 7	土師器	深鉢	－	－	－	－	ミガキ？	隆帯、刻み、沈線、縄文	破片実測・拓本	覆土
D4 － 8	石器	磨・敲石	<8.5>	<5.2>	<4.2>	<234>	磨面 3、上部欠損、正面と端部に敲打痕		完全実測	覆土
D5 － 1	縄文土器	土器片円盤	3.1	3.0	1.0	－	－		破片実測・拓本	覆土
D6 － 1	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	後期堀之内 1 式、微隆起線文		破片実測・拓本	覆土
D6 － 2	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	後期堀之内 1 式、微隆起線文・沈線		破片実測・拓本	覆土

土坑出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
D6－3	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	後期堀之内１式、鎖状隆帯・沈線		破片実測・拓本	覆土
D6－4	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	後期堀之内１式、波状口縁・鎖状隆帯・沈線		破片実測・拓本	覆土
D6－5	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	後期堀之内１式、波状口縁・鎖状隆帯・沈線		破片実測・拓本	覆土
D6－6	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	後期堀之内１式、鎖状隆帯		破片実測・拓本	覆土
D6－7	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	後期堀之内１式、沈線		破片実測・拓本	覆土
D6－8	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	後期堀之内１式、鎖状隆帯・沈線		破片実測・拓本	覆土
D6－9	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	後期堀之内１式、沈線・縄文		破片実測・拓本	覆土
D6－10	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	後期堀之内２式、鎖状隆帯・沈線		破片実測・拓本	覆土
D6－11	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	後期堀之内２式、鎖状隆帯・沈線		破片実測・拓本	覆土
D6－12	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	後期堀之内２式、鎖状隆帯・沈線・縄文		破片実測・拓本	覆土
D6－13	縄文土器	深鉢	12.8	－	<8.5>	－	後期堀之内２式、鎖状隆帯・「8」字状貼付文		完全実測	覆土
D6－14	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	後期無文粗製土器		破片実測	覆土
D6－15	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	後期無文粗製土器		破片実測	覆土
D6－16	縄文土器	深鉢	－	(8.4)	<2.6>	－	後期		回転実測・拓本	覆土
D6－17	縄文土器	深鉢	－	4.9	<4.2>	－	後期		完全実測・拓本	覆土
D6－18	土製品	土偶	<4.4>	<4.9>	<2.3>	－	胸部		破片実測	覆土
D6－19	土製品	土偶	<2.5>	<2.5>	<1.7>	－	手		破片実測	覆土
D6－20	土製品	土偶	<2.3>	<2.7>	<1.2>	－	足		破片実測	覆土
D6－21	土製品	土器片円盤	2.7	3.1	1.0	－	ナデ		完全実測・拓本	覆土
D6－22	土製品	土器片円盤	3.7	4.4	0.9	－	ナデ		完全実測・拓本	覆土
D6－23	石器	台石	<11.0>	<5.4>	<6.6>	<551.0>	上側以外欠損、使用面２		完全実測	覆土
D6－24	石器	石鏃	<2.75>	<1.75>	<3.00>	<1.28>	チャート、先端・片脚欠損		完全実測	覆土
D6－25	石器	磨・敲石	9.6	6.2	2.7	210.0	磨面２、端部と正面に敲打痕		完全実測	覆土
D8－1	土師器	坏	(12.4)	(5.6)	4.0		ミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ミガキ	回転実測	N区
D8－2	土師器	坏	(15.0)	(12.5)	4.3		ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転実測	N区・S区
D8－3	土師器	高坏	－	－	<6.1>		坏部ミガキ→黒色処理、脚部ヘラケズリ	脚部ヘラケズリ→ナデ→ミガキ	完全実測	N区
D8－4	須恵器	坏	(10.6)	(10.2)	3.8		ロクロナデ	回転ヘラケズリ→沈線	回転実測	N区
D8－5	須恵器	有台坏	(10.1)	(6.0)	4.0		ロクロナデ	回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測	S区
D8－6	須恵器	有台坏	(13.1)	7.7	4.0		ロクロナデ	回転ヘラケズリ→高台貼付	完全実測	N区・S区
D8－7	須恵器	有台坏	(15.4)	(10.8)	3.7		ロクロナデ	回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測	N区
D8－8	須恵器	有台坏	(16.0)	(11.6)	4.1		ロクロナデ	回転ヘラケズリ→高台貼付、自然釉付着	回転実測	N区
D8－9	須恵器	蓋	－	－	<2.1>		ロクロナデ	つまみφ4.0	完全実測	N区
D8－10	須恵器	蓋	(15.5)	－	<1.3>		ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	N区
D8－11	土師器	ロクロ甕	－	(6.0)	<10.9>		ロクロナデ	回転糸切→ヘラケズリ→胴部ナデ→ミガキ	回転実測	N区
D8－12	石製品	軽石製品	3.4	2.2	1.2	7.0	全体に擦り、正面に条痕		完全実測	S区
D8－13	石器	磨・敲石	11.9	8.6	3.5	450.0	磨面１、正面に条痕、裏面に敲打痕		完全実測	N区
D9－1	縄文土器	深鉢	－	8.9	<3.0>		後期堀之内２式		完全実測	覆土

周溝墓出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
OT1－1	弥生土器	壺	—	—	—	—	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩	破片実測	覆土
OT2－1	弥生土器	壺	—	—	—	—	ヨコナデ	ミガキ→赤彩、ヘラ描斜走文・横走平行線文	破片実測・拓本	W
OT3－1	須恵器	高坏	(11.8)	—	<3.6>	—	ロクロナデ	下半部回転ヘラケズリ	回転実測	ケン
OT3－2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	中期後半加曽利ＥⅣ式、波状口縁・縄文・沈線		破片実測・拓本	ケン
OT3－3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線文		破片実測・拓本	Ｎハン
OT3－4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、波状口縁・隆帯・沈線		破片実測・拓本	Ｓハン
OT3－5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縄文、沈線、竹管文		破片実測・拓本	ケン
OT3－6	弥生土器	高坏	—	(9.0)	<2.1>	—	ナデ→裾部ヨコナデ	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	ケン
OT3－7	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描斜走文、櫛描簾状文９本２連止め	破片実測・拓本	ケン
OT3－8	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描波状文	破片実測・拓本	ケン
OT3－9	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描簾状文、櫛描斜走文	破片実測・拓本	Ｎハン
OT3－10	弥生土器	壺	—	9.0	<1.9>	—	ヘラナデ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	Ｓハン
OT3－11	弥生土器	壺	—	9.8	<8.6>	—	ヘラナデ→ハケ目	ヘラミガキ	完全実測	Ｎハン
OT3－12	弥生土器	壺	—	—	—	—	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	破片実測	ケン
OT3－13	石器	打製石斧	<3.7>	<5.9>	<1.6>	<43.6>	両端欠損		完全実測	Ｎハン
OT3－14	石器	打製石斧	<9.0>	<6.1>	<2.0>	<147.9>	両端欠損		完全実測	ケン
OT3－15	石器	打製石斧	<10.7>	<8.1>	<2.0>	<214.0>	両端欠損		完全実測	ケン
OT3－16	石器	磨石	<5.8>	<5.8>	<2.3>	<104.7>	裏面欠損、全体に磨り		完全実測	ケン

溝址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
M1－1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、波状口縁・鎖状隆帯・沈線		破片実測・拓本	Ｗ区
M1－2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、波状口縁・鎖状隆帯・沈線		破片実測・拓本	Ｗ区
M1－3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、波状口縁・沈線		破片実測・拓本	Ｗ区
M1－4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、波状口縁・鎖状隆帯		破片実測・拓本	Ｗ区
M1－5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、鎖状隆帯		破片実測・拓本	Ｅ区
M1－6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、波状口縁		破片実測・拓本	Ｗ区
M1－7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線		破片実測・拓本	Ｗ区
M1－8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線・縄文		破片実測・拓本	Ｗ区
M1－9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線・縄文		破片実測・拓本	Ｗ区
M1－10	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、鎖状隆帯・沈線		破片実測・拓本	Ｗ区
M1－11	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線		破片実測・拓本	Ｗ区
M1－12	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、縄文・沈線		破片実測・拓本	Ｅ区
M1－13	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、沈線		破片実測・拓本	Ｗ区
M1－14	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、縄文・沈線		破片実測・拓本	Ｗ区
M1－15	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、縄文・沈線		破片実測・拓本	Ｗ区
M1－16	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、縄文・沈線		破片実測・拓本	Ｗ区
M1－17	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、縄文・沈線		破片実測・拓本	Ｗ区
M1－18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、鎖状隆帯・縄文・沈線		破片実測・拓本	Ｗ区
M1－19	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、鎖状隆帯・縄文・沈線		破片実測・拓本	Ｗ区

溝址出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
M1－20	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、鎖状隆帯・縄文・沈線		破片実測・拓本	W区
M1－21	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、縄文・沈線		破片実測・拓本	W区
M1－22	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式		破片実測・拓本	W区
M1－23	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内２式、波状口縁・沈線		破片実測・拓本	W区
M1－24	縄文土器	深鉢	—	5.5	<2.9>	—	後期堀之内２式、胴代痕		回転実測・拓本	W区
M1－25	縄文土器	蓋	(8.2)	(8.5)	<1.7>	—	後期		完全実測	W区
M1－26	弥生土器	甕	—	7.9	<2.4>	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	W区
M1－27	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描斜走文	破片実測・拓本	E区
M1－28	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描波状文・櫛描簾状文	破片実測・拓本	W区
M1－29	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描波状文	破片実測・拓本	W区
M1－30	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描波状文・櫛描簾状文	破片実測・拓本	W区
M1－31	弥生土器	壺	—	—	—	—	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩、櫛描「T」字文	破片実測・拓本	W区
M1－32	弥生土器	ミニュチュア	—	(4.0)	<2.6>	—	ナデ	ナデ	回転実測	E区
M1－33	土製品	土器片円盤	3.0	2.9	0.9	—		—	完全実測	W区
M1－34	土製品	土器片円盤	3.3	3.7	1.2	—		—	完全実測	W区
M1－35	土製品	土器片円盤	4.0	4.1	0.9	—		—	完全実測	W区
M1－36	土製品	土器片円盤	4.6	4.8	1.1	—	沈線文		完全実測	E区
M1－37	土製品	土器片円盤	5.0	5.0	1.0	—	沈線文		完全実測	E区
M1－38	土製品	土器片円盤	5.6	5.8	0.9	—		—	完全実測	W区
M1－39	石器	打製石斧	<5.0>	<5.4>	<0.8>	<24.9>	上部欠損、表面剥離、刃部に磨滅		完全実測	E区
M1－40	石器	打製石斧	<5.8>	<4.4>	<1.2>	<37.7>	刃部欠損		完全実測	覆土
M1－41	石器	打製石斧	<6.3>	<6.3>	<1.3>	<64.6>	刃部欠損		完全実測	E区
M1－42	石器品	打製石斧	<6.7>	<5.7>	<1.6>	<67.5>	両端欠損		完全実測	覆土
M1－43	石器	打製石斧	<9.0>	<5.2>	<2.8>	<154.7>	刃部欠損		完全実測	W区
M1－44	石器	打製石斧	<16.0>	<7.8>	<2.7>	<408.5>	刃部欠損		完全実測	W区
M1－45	石器	磨製石斧	<2.6>	<3.8>	<0.7>	<11.1>	側面の一部を残し欠損		完全実測	W区
M1－46	石製品	軽石製品	9.9	7.2	4.9	76.3	桶状の磨り面		完全実測	E区
M1－47	石器	磨石	<8.5>	<3.6>	<4.8>	<189.1>	右側以外欠損、磨面２		完全実測	W区
M1－48	石器	磨石	10.6	7.8	2.3	271.0	欠損状況不明、磨面１		完全実測	W区
M1－49	石器	磨・敲石	<9.5>	<6.8>	<3.8>	<276.0>	上部欠損、磨面２、端部と正面に敲打痕		完全実測	E区
M1－50	石器	磨・敲石	10.0	9.5	5.3	701.0	縁辺と正面に敲き、正裏・左側に赤色部分あり、磨面２		完全実測	W区
M1－51	石製品	石皿	<12.7>	<19.7>	<7.9>	<2520.0>	上下欠損		完全実測	W区
M2－1	須恵器	坏	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	W区
M2－2	須恵器	有台坏	—	(7.8)	<1.7>	—	ロクロナデ→みこみ部に縄文	ロクロナデ→付高台	回転実測	W区

ピット出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
P8－1	弥生土器	壺	(23.7)	—	<12.8>		ミガキ	ミガキ→赤彩	完全実測	覆土
P10－1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、縄文・沈線		破片実測・拓本	覆土
P10－2	縄文土器	土器片円盤	3.7	3.9	1.2	—	縄文土器片を加工		完全実測・拓本	覆土

ピット出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
P80－1	須恵器	有台坏	—	—	<0.9>	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ、内外面円滑	回転実測	覆土
P87－1	石製品	石棒	10.8	4.3	2.7	191.7	欠損状況不明		完全実測	覆土
P90－1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、縄文・沈線		破片実測・拓本	覆土
P90－2	土製品	土器片円盤	3.3	3.5	0.9	—		—	破片実測・拓本	覆土
P104－1	石器	打製石斧	<5.7>	<3.6>	<1.7>	<39.2>	刃部欠損、摩滅有り		完全実測	覆土
P113－1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線文		破片実測・拓本	覆土
P113－2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、縄文・沈線		破片実測・拓本	覆土
P113－3	土製品	有孔土器片	3.0	3.3	0.7	—	土器片を加工		破片実測・拓本	覆土
P115－1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、縄文・沈線		破片実測・拓本	覆土
P115－2	土製品	土器片円盤	4.6	4.1	1.1	—		—	破片実測・拓本	覆土
P116－1	鉄器	長頸鏃	<11.20>	<0.90>	<0.35>	<10.3>	茎部欠損		完全実測	覆土
P122－1	石器	磨石	<15.1>	<9.8>	<6.1>	<1050.0>	磨面５、欠損・剥落あり		完全実測	覆土
P126－1	石器	磨石	<7.9>	<6.6>	<4.6>	<331.5>	下部欠損、磨面２		完全実測	覆土

遺構外出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	高坏	—	7.9	<6.1>	—	ナデ	判別出来ない	完全実測	流路１
2	土師器	高坏	—	—	<9.0>	—	ミガキ→黒色処理、脚部ヘラケズリ	ミガキ	完全実測	カクラン１
3	須恵器	坏	(12.0)	(6.2)	(3.7)	—	ロクロナデ	右回転糸切	回転実測	カクラン２
4	須恵器	坏	(14.2)	(8.0)	(4.5)	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転実測	ケン
5	須恵器	坏	(15.4)	(8.0)	(4.2)	—	ロクロナデ	回転ヘラ切→ナデ	回転実測	ケン
6	須恵器	坏	—	(9.9)	<2.5>	—	ロクロナデ	回転ヘラ切→ヘラナデ	回転実測	ケン
7	須恵器	有台付	—	(9.0)	<1.9>	—	ロクロナデ	回転ヘラ切→付高台	回転実測	ケン
8	須恵器	蓋	(18.0)	—	<0.9>	—	ロクロナデ	回転ヘラ切→、自然釉付着	回転実測	カクラン１
9	須恵器	蓋	—	—	—	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	破片実測	ケン
10	土師器	長胴甕	(22.7)	—	<7.7>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	カクラン１
11	土師器	武蔵甕	(23.0)	—	<7.6>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	ケン
12	土師器	壺	—	—	<8.9>	—	ミガキ→赤彩、体部ハケ目	ミガキ→赤彩、剥離著しい	回転実測	ケン
13	須恵器	甕	—	(6.0)	<1.6>	—	ロクロナデ、見込自然釉付着	回転ヘラケズリ、底部刻書、自然釉付着	回転実測	カクラン１
14	須恵器	甕	—	(6.6)	<3.0>	—	ロクロナデ	底部・外周回転ヘラケズリ	回転実測	カクラン１
15	須恵器	長頸壺	(11.4)	—	<6.2>	—	自然釉付着	自然釉付着	回転実測	カクラン２
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	中期後半加曽利ＥⅣ式、縄文・隆帯		破片実測・拓本	表採
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、波状口縁・沈線文・円形刺突		破片実測・拓本	ケン
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線文		破片実測・拓本	カクラン１・２
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、隆帯・沈線文		破片実測・拓本	ケン
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、鎖状隆帯・円孔・沈線文		破片実測・拓本	カクラン１
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線文		破片実測・拓本	カクラン１
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、波状口縁・円孔・沈線文		破片実測・拓本	ケン
23	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、縄文、沈線文		破片実測・拓本	カクラン１
24	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内１式、沈線文		破片実測・拓本	カクラン１

遺構外出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 1 式、鎖状隆帯・沈線		破片実測・拓本	カクラン 2
26	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 2 式、縄文、沈線文		破片実測・拓本	ケン
27	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 2 式、波状口縁・「8」字状貼付文・鎖状隆帯・沈線・縄文		破片実測・拓本	流路 1
28	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 2 式、沈線文		破片実測・拓本	カクラン 1・2・クロ
29	縄文土器	注口土器	—	—	—	—	後期堀之内式、把手・縄文・沈線文		破片実測	カクラン 1
30	縄文土器	注口土器	—	—	—	—	後期堀之内式、把手・沈線文		破片実測	カクラン 1
31	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内式		破片実測・拓本	表採
32	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期、凸帯文		破片実測・拓本	表採
33	土製品	土器片円盤	4.3	3.9	1.1	—	—		破片実測・拓本	ケン
34	土製品	土器片円盤	<4.9>	5	1.5	—	—		破片実測・拓本	表採
35	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	櫛描波状文	破片実測・拓本	カクラン 1・2・クロ
36	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	櫛描羽状文	破片実測・拓本	ケン
37	石器	打製石斧	<9.1>	<4.8>	<1.3>	<69.0>	刃部欠損、磨滅有		完全実測	ケン
38	石器	磨製石斧	<5.0>	<2.8>	<1.1>	<26.6>	基部欠損		完全実測	表採
39	石器	石鏃	<1.8>	<1.8>	<0.3>	<0.87>	片脚・先端欠損、チャート		完全実測	ケン
40	石器	編物石	11.20	5.50	3.20	318.50	—		完全実測	カクラン 1・2
41	石製品	石皿	<9.0>	<6.1>	<7.0>	<289.0>	右側以外欠損		完全実測	カクラン 1・2
42	石製品	石皿	<10.5>	<17.7>	<7.6>	<1160.0>	上部以外欠損		完全実測	ケン

調査区南東黒色帯出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	皿	—	6.0	<1.6>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理、付高台、ヘラ記号	完全実測・拓本	覆土
2	須恵器	坏	(15.0)	—	<3.6>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期、凸帯文		破片実測・拓本	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 1 式、沈線文		破片実測・拓本	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 1 式、沈線文・縄文・鎖状隆帯		破片実測・拓本	覆土
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 2 式、沈線文・縄文		破片実測・拓本	覆土
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期堀之内 1 式、沈線文・縄文・鎖状隆帯		破片実測・拓本	覆土
8	縄文土器	注口土器	—	—	—	—	後期堀之内式、沈線文		破片実測・拓本	覆土
9	縄文土器	注口土器	—	—	—	—	後期		破片実測	覆土
10	縄文土器	土偶（顔）	<5.1>	<4.1>	<4.2>	—	仮面表現、後頭部に把手		完全実測	覆土
11	弥生土器	甕	(15.0)	—	<40.3>	—	ミガキ	櫛描斜走文、櫛描簾縄文	回転実測	覆土
12	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	櫛描斜走文、櫛描簾縄文	破片実測・拓本	覆土
13	石器	台石	<8.6>	<6.6>	<6.6>	<513.0>	右側以外欠損、使用痕 2、敲打痕有		完全実測	覆土
14	石器	打製石斧	<4.9>	<4.9>	<0.8>	<28.0>	左側以外欠損		完全実測	覆土
15	石器	打製石斧	<6.7>	<5.4>	<1.7>	<64.0>	刃部欠損		完全実測	覆土
16	石器	打製石斧	<8.1>	<7.2>	<1.6>	<101.0>	刃部欠損		完全実測	覆土
17	石器	編物石	11.7	7.2	2.8	326.0	抉り、使用痕有		完全実測	覆土
18	石器	磨・敲石	<4.9>	<3.	<1.5>	<102.0>	下部～裏面欠損、全体に磨、端部に敲打痕		完全実測	覆土
19	石器	磨石	<6.8>	<3.3>	<2.6>	<82.0>	右側以外欠損、磨面 1		完全実測	覆土
20	石製品	石棒	<9.4>	<2.8>	<2.6>	<102.0>	下部欠損		完全実測	覆土

調査区西端黒色帯出土遺物観察表

No	器種	器形	法量 口径(上段)/最大径(中段)/底径(下段)/器高(cm)/重量(g)	出土遺構等	成形・調整	備考	出土層位
1	縄文土器	深鉢	— / — / — / — / —	中形後半出作向E区式、微隆起線・縄文		破片実測・拓本	覆土
2	縄文土器	深鉢	— / — / — / — / —	後期堀之内1式、沈線文		破片実測・拓本	覆土
3	縄文土器	深鉢	— / — / — / — / —	後期三十稲場式?、刺突・沈線文		破片実測	覆土
4	縄文土器	深鉢	— / — / — / — / —	中形後半、縄文・沈線文		破片実測・拓本	覆土
5	縄文土器	深鉢	— / — / — / — / —	後期堀之内1式、縄文・沈線文		破片実測・拓本	覆土
6	縄文土器	深鉢	— / — / — / — / —	後期堀之内1式、縄文・沈線文・磨耗		破片実測・拓本	覆土
7	縄文土器	深鉢	— / — / — / — / —	後期堀之内1式、縄文・沈線文		破片実測・拓本	覆土
8	縄文土器	深鉢	— / — / — / — / —	後期、凸帯文		破片実測・拓本	覆土
9	縄文土器	深鉢	— / — / — / 6.9 / <3.0>	底部		完全実測	覆土
10	縄文土器	鉢	— / — / (8.6) / — / <2.3>	後期、つまみ・沈線文		破片実測	覆土
11	石器	磨・敲石	— / <3.9> / <8.0> / <1.6> / <56.0>	下部欠損、磨面2、正面に敲打痕		完全実測	覆土
12	石器	磨石	— / <5.4> / <4.9> / <2.2> / <110.0>	磨面1、欠損状況不明		完全実測	覆土
13	石器	磨・敲石	— / <6.5> / <5.2> / <3.5> / <157.0>	左側以外欠損、磨面2、側面に敲打痕		完全実測	覆土
14	石器	磨石	— / <15.1> / <6.4> / <2.5> / <261.0>	全体欠損、磨面1		完全実測	覆土

第8節　黒色帯出土遺物（第71・72図）

調査区の西端部のH1・2号住居址周辺や、南東部分のD2号土坑周辺には黒色土の堆積が認められ、これを切って弥生時代以降の遺構は構築されるが、黒色土中には縄文時代の遺物が数多く包含されていた。掘り下げるとP1(浅間火山第1軽石流)に達するため、低地であった部分に縄文時代の人々が塵芥を廃棄したとも考えられる。後期堀之内式期の土器片が主体的である。

第Ⅲ章　まとめ

今回の調査で、出土遺物の大半を占めるのは縄文時代後期堀之内1・2式の土器片と、共存していたであろう石器や所謂「鉄平石」の小破片である。このような遺物は弥生時代以降の遺構全ての覆土中に多量に包含されている。しかし、縄文時代の遺構は数基の土坑が検出されたに過ぎない。隣接する西近津遺跡Ⅳ・Ⅶ・Ⅷなどの調査においても同様の時期の遺物が大量に出土しているが、遺構数はそれに比しているわけでは無く、今回の調査と同様の状況である。また、住居址が1軒も検出されていないという事も共通している。弥生時代以降の住居址により破壊され消滅してしまったか、集落はもう少し西よりの田切に近い場所に展開しているというような事が推測される。調査区内で2箇所検出された黒色帯に内包された縄文時代の遺物は廃棄された様相であり、調査地点が集落の縁辺部分である事を示唆しているようにも思える。

弥生時代の遺構は竪穴住居址と円形周溝墓、周辺部の調査では環濠とされている溝址が検出された。全て後期のものである。

古墳時代後期の竪穴住居址H12からは鐙の小札が2点検出された。長野県埋蔵文化財センターが行った西近津遺跡群の調査でも出土しているが、佐久市内ではこの他に出土例がなく、貴重である。また、H13出土の高坏に認められる墨書は判読できないが、佐久地方では古い時期の文字資料のひとつである。

奈良時代の竪穴住居址H1・2からは帯金具の「巡方」が出土した。律令期の西近津遺跡の性格を考えるうえで重要な遺物であろう。

平安時代の複数の住居址からは数多くの墨書土器が出土している「字」・「大井」・「十」・「大十」などである。

以上、何れの時期においても西近津遺跡の重要性を再認識させる成果があった。

H1 号住居址

H2 号住居址

H3 号住居址

H4 号住居址

H5 号住居址

H6 号住居址

H7 号住居址

H8 号住居址

H8 号住居址カマド

H9 号住居址

H10 号住居址

H10 号住居址カマド

H11 号住居址

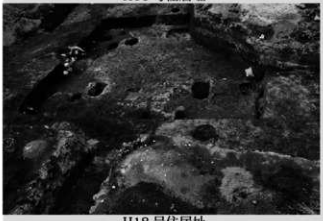
H11 号住居址カマド

H12 号住居址

H13 号住居址

H13 号住居址カマド

H16 号住居址



H18 号住居址

H19 号住居址

H14 号住居址

H17 号住居址

H18 号住居址

H20 号住居址

H21 号住居址

H22 号住居址

H23 号住居址カマド

H25 号住居址

H21 号住居址カマド

H23 号住居址

H24 号住居址

H25 号住居址カマド

H26 号住居址

H27 号住居址

H28 号住居址

H29 号住居址

H30 号住居址

H31 号住居址

F1 号掘立柱建物址

F2 号掘立柱建物址

F3 号掘立柱建物址

F4 号掘立柱建物址

F5 号掘立柱建物址

F6 号掘立柱建物址

D1 号土坑

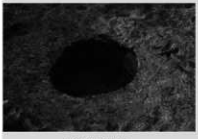
D2 号土坑

D3 号土坑

D4 号土坑

D5 号土坑

D6 号土坑



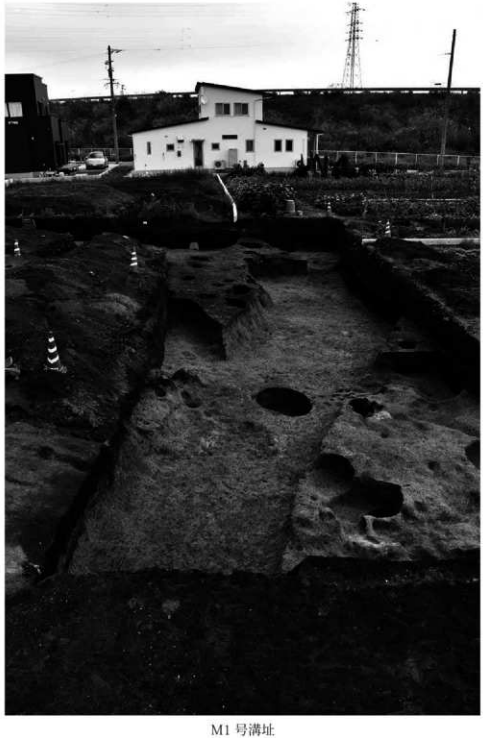
D7 号土坑

D8 号土坑

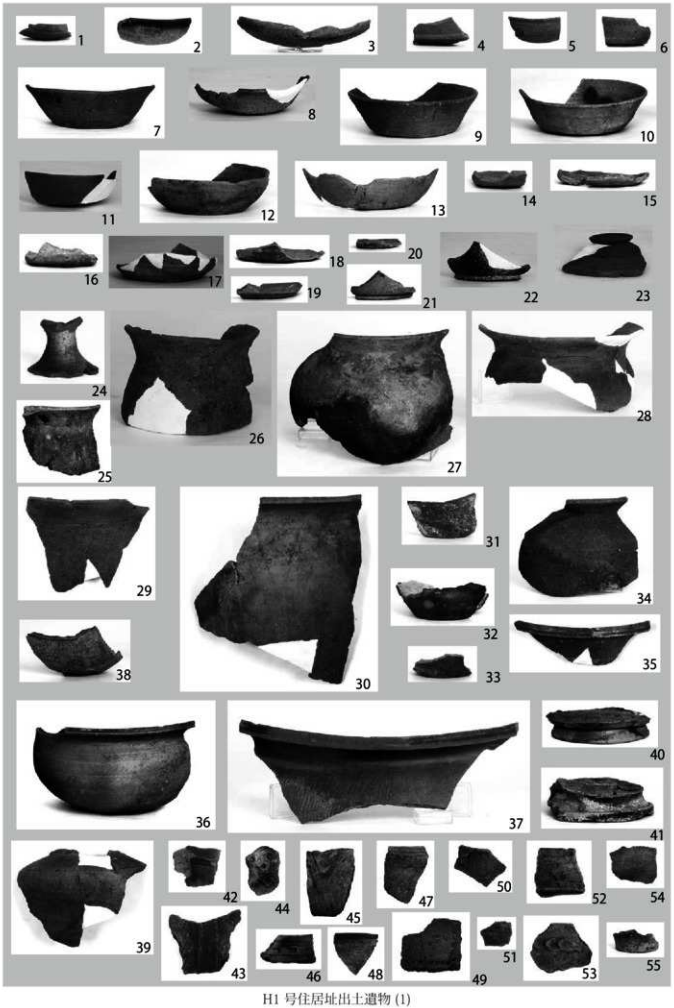
D9 号土坑

OT1・2号周溝墓

OT3号周溝墓

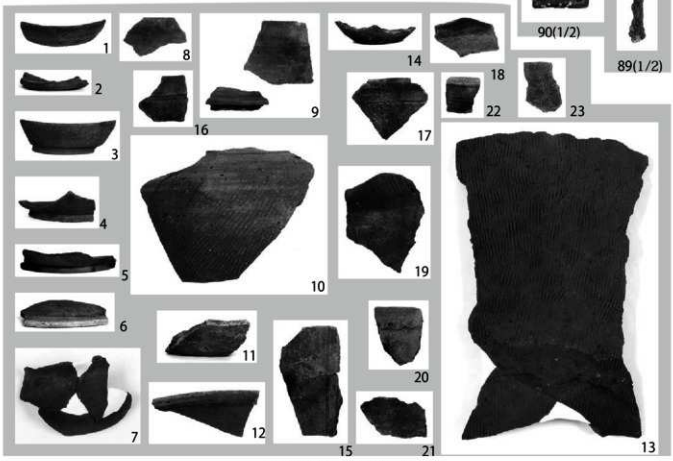


M1号溝址



H1 号住居址出土遺物 (1)

H1 号住居址出土遺物 (2)



H2 号住居址出土遺物 (1)

24(1/2)

25(1/2)

26

27

28

29

30(1/2)

31(1/2)

H2 号住居址出土遺物 (2)

1

2

3

4

5

6

7

8

10

9

11

12

13

14

15

17

18

19

20

21

16

31

33

22

23

24

25

26

28

29

30

32

27

35

36

37

34

39(原寸)

38

40(1/2)

H3 号住居址出土遺物

1

2

5

6

7

9

3

4

8

H4 号住居址出土遺物

1

3

2

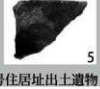
H5 号住居址出土遺物

1

2

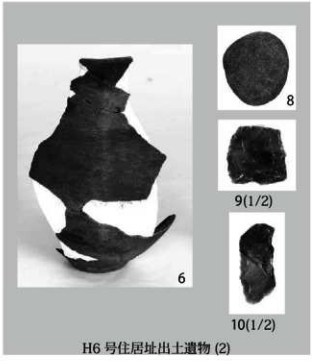
3

4

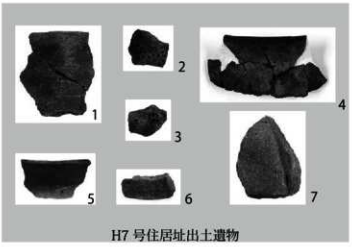

5

7

H6 号住居址出土遺物 (1)

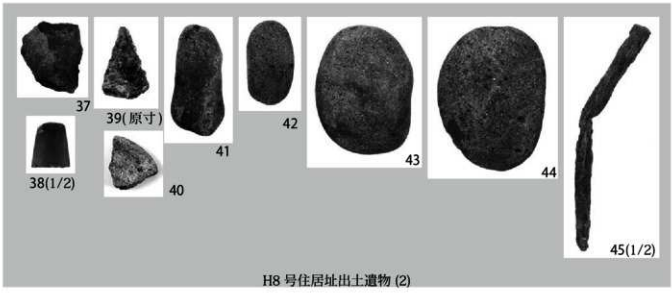


H6 号住居址出土遺物 (2)

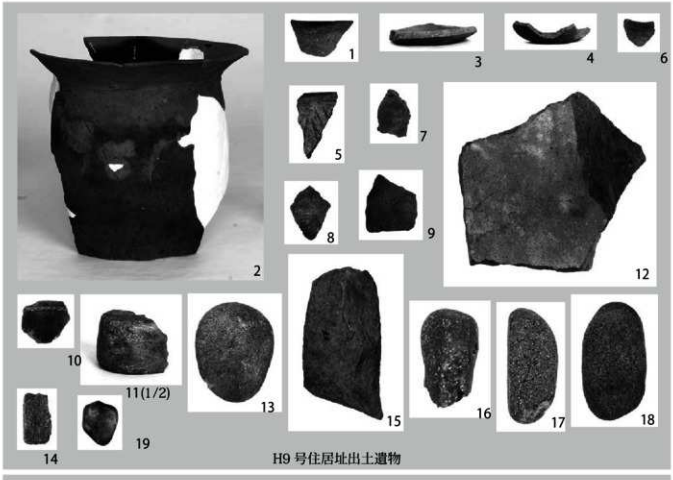


H7 号住居址出土遺物

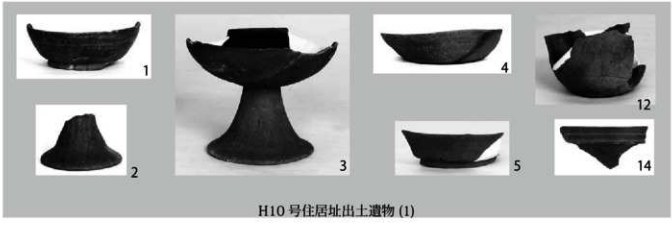
H8 号住居址出土遺物 (1)



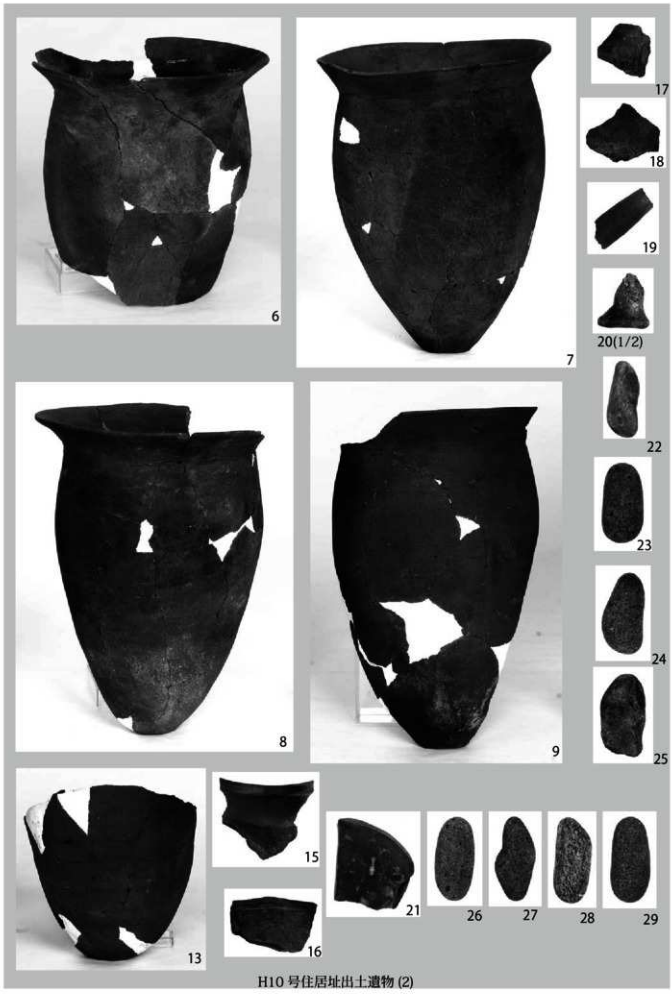
H8 号住居址出土遺物 (2)



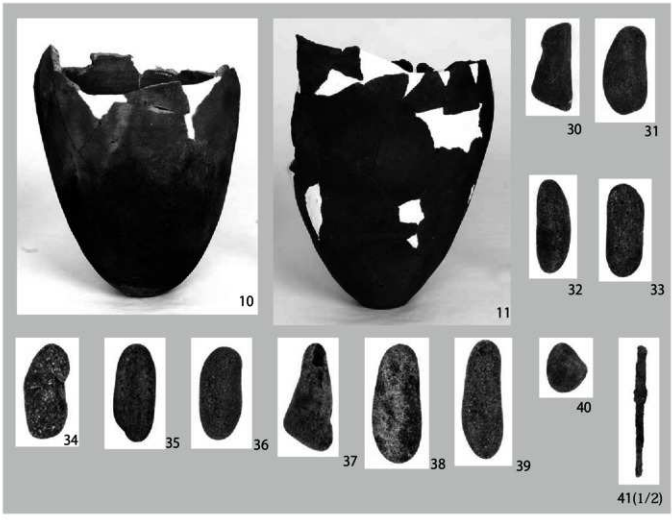
H9 号住居址出土遺物

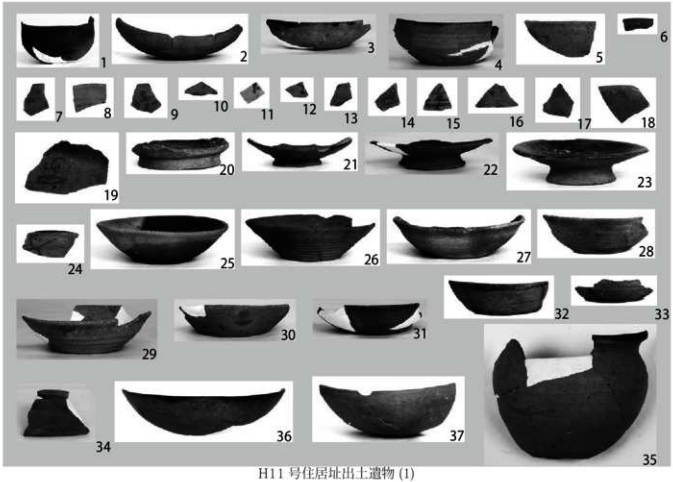


H10 号住居址出土遺物 (1)

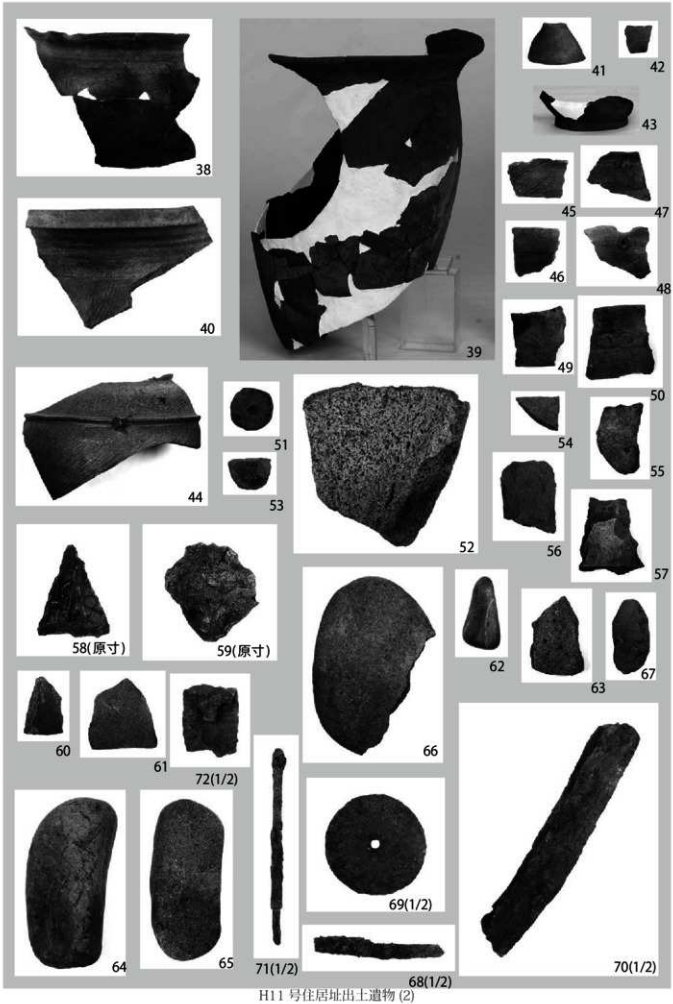


H10 号住居址出土遺物 (2)

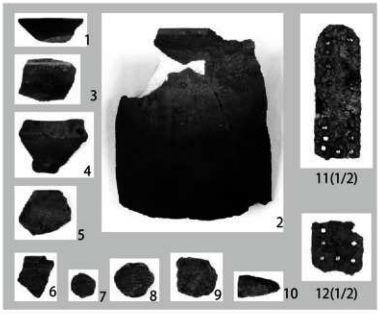




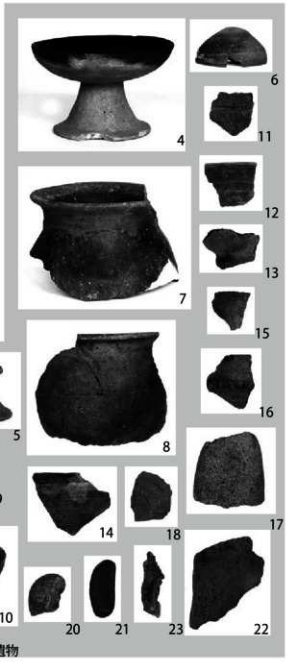
H11 号住居址出土遺物 (1)



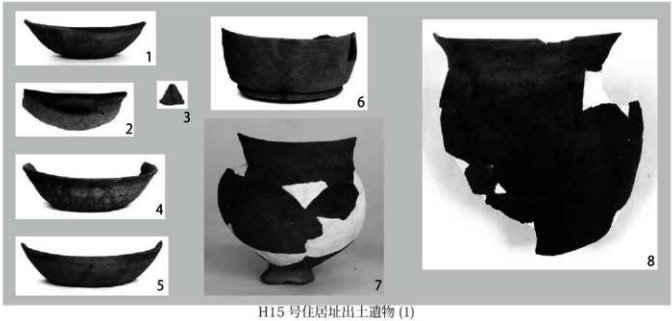
H11 号住居址出土遺物 (2)



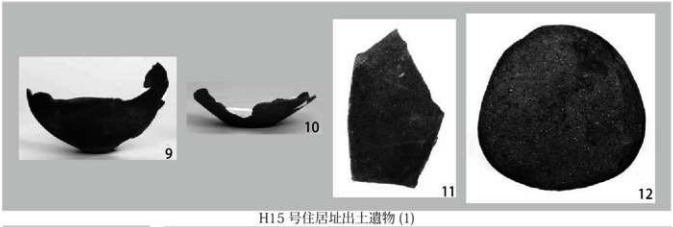
H12 号住居址出土遺物



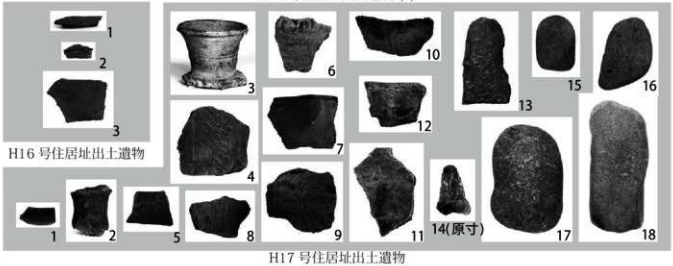
H13 号住居址出土遺物



H15 号住居址出土遺物 (1)

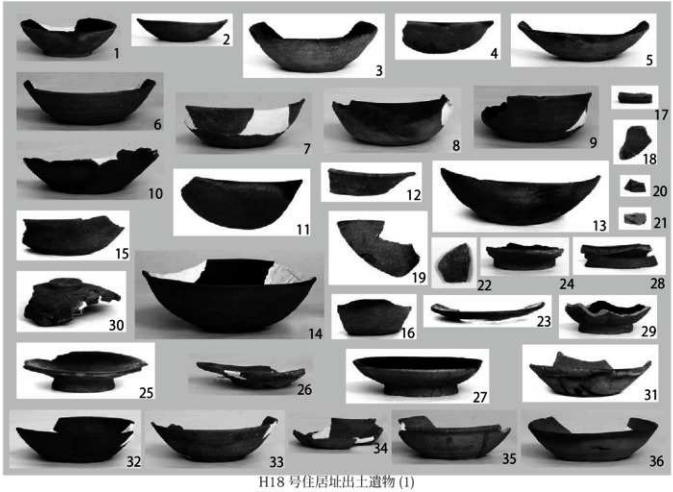


H15 号住居址出土遺物 (1)

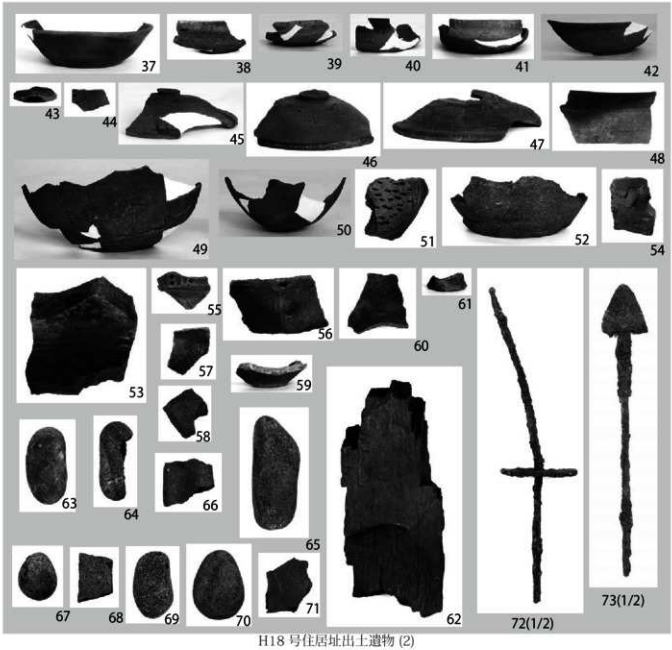


H16 号住居址出土遺物

H17 号住居址出土遺物



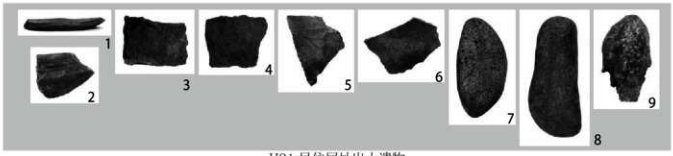
H18 号住居址出土遺物 (1)



H18 号住居址出土遺物 (2)

H19 号住居址出土遺物

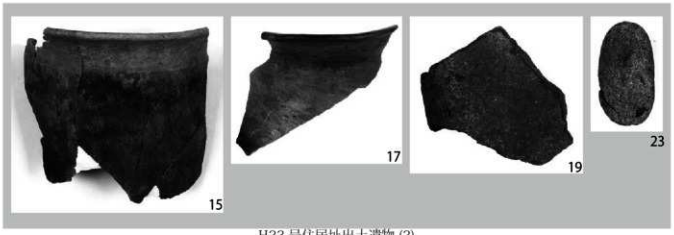
H20 号住居址出土遺物



H21 号住居址出土遺物

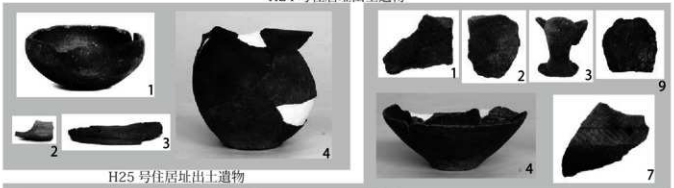
H22 号住居址出土遺物

H23 号住居址出土遺物 (1)

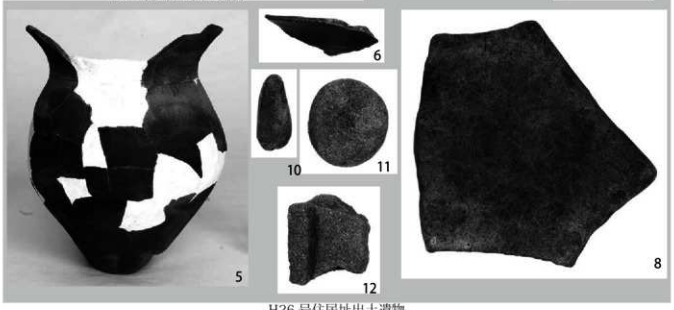


H23 号住居址出土遺物 (2)

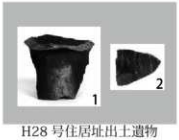
H24 号住居址出土遺物



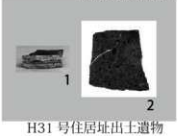
H25 号住居址出土遺物



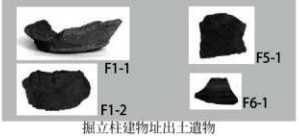
H26 号住居址出土遺物



H28 号住居址出土遺物



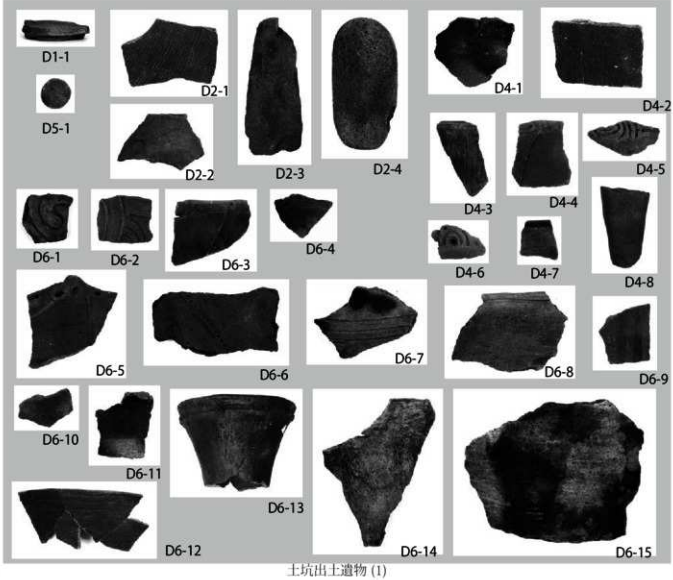
H31 号住居址出土遺物



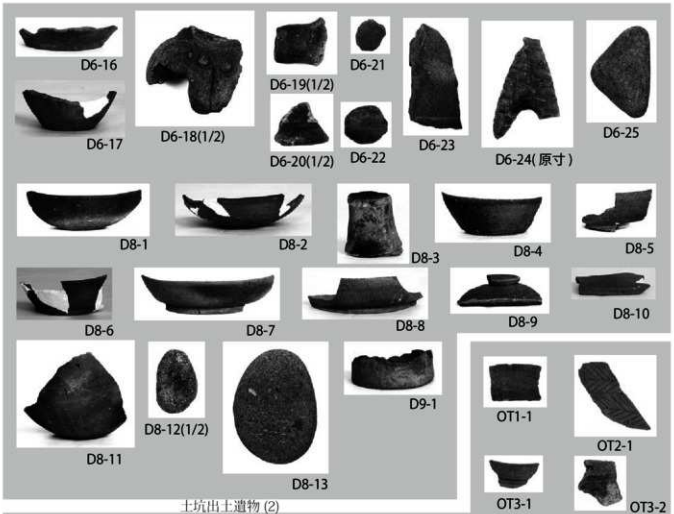
掘立柱建物址出土遺物

H27 号住居址出土遺物

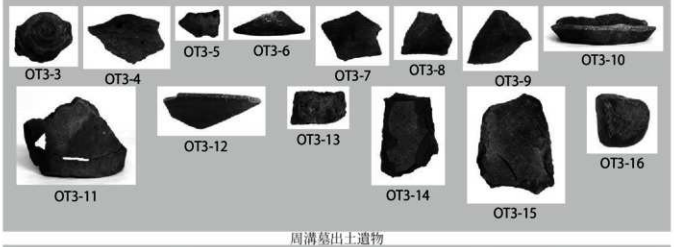
H30 号住居址出土遺物



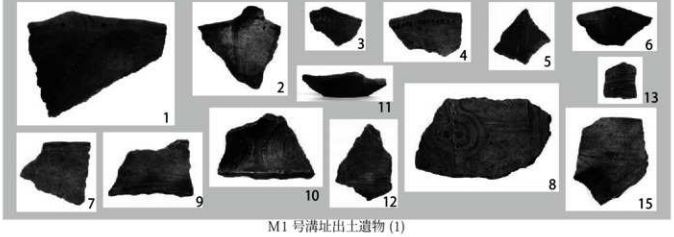
土坑出土遺物 (1)



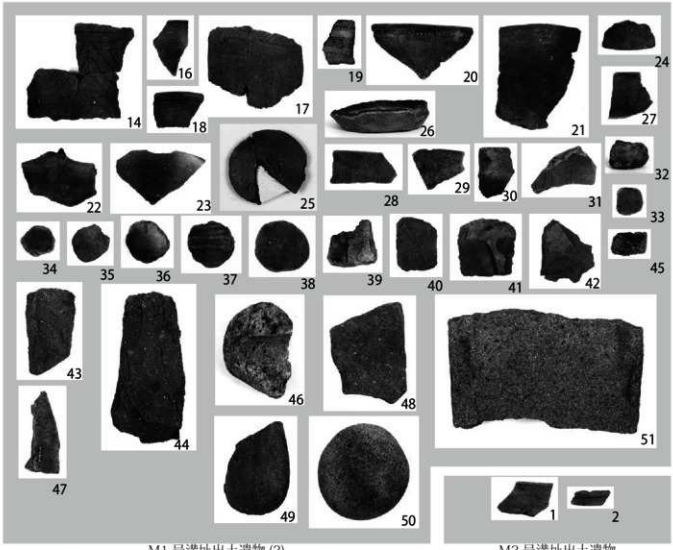
土坑出土遺物 (2)



周溝墓出土遺物

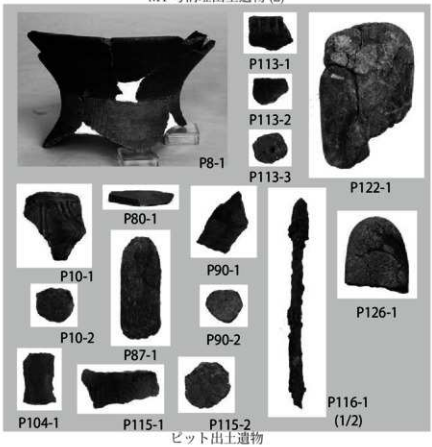


M1 号溝址出土遺物 (1)

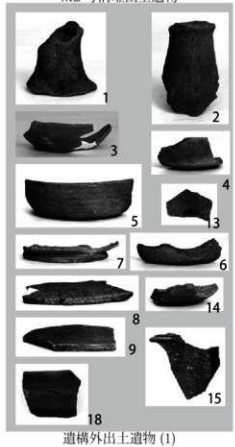


M1 号溝址出土遺物 (2)

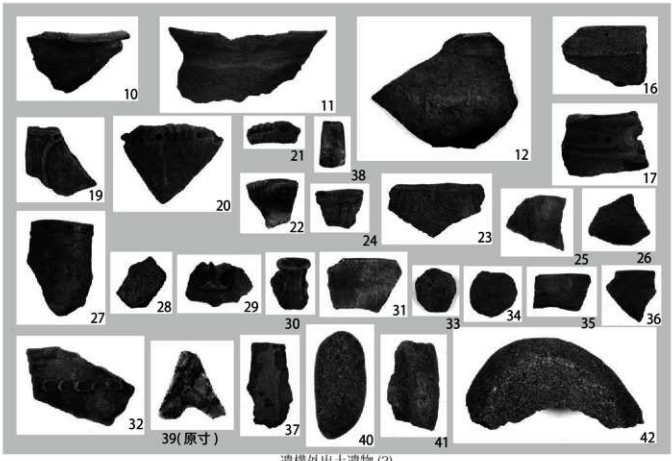
M2 号溝址出土遺物



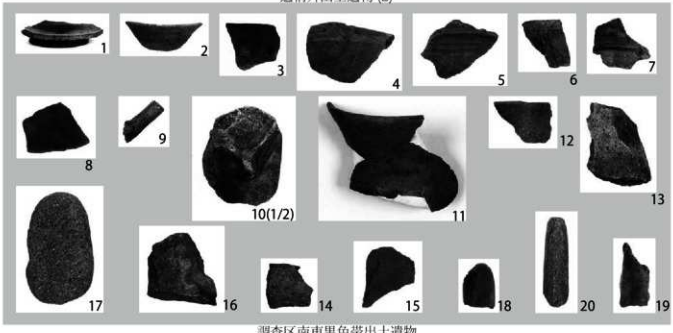
ピット出土遺物



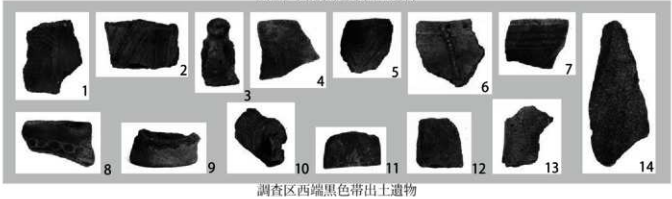
遺構外出土遺物 (1)



遺構外出土遺物 (2)



調査区南東黒色帯出土遺物



調査区西端黒色帯出土遺物

報告書抄録

ふりがな	にしちかついせきぐん　にしちかついせき　13
書名	西近津遺跡群　西近津遺跡　XⅢ
副書名	
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 273 集
編著者名	小林眞寿
編集機関	佐久市教育委員会　文化振興課
所在地	長野県佐久市中込 2913　℡ 0267-63-5321　FAX0267-63-5322
発行年月日	令和２年（2020）３月

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
にしちかついせきⅩⅢ 西近津遺跡ⅩⅢ	さくしながとろあざもりした 佐久市長土呂字森下 178-2、1799 外	20217	29	36°17′1″	138°27′21″	平成 30 年 10 月 2 日～令和２年 3 月 20 日	623.7㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西近津遺跡ⅩⅢ	集落址	縄文 弥生 古墳 奈良・平安	竪穴住居址 -31 軒 掘立柱建物址 -6 棟 土坑 -9 基 溝址 -2 条 ピット -152 基	縄文土器　弥生土器 土師器　須恵器 灰釉陶器 石器・石製品 鉄器・銅器	7 世紀の鍛小札の出土

要約	縄文時代後期堀之内式期の遺物が多量に出土。集落は弥生時代後期から平安時代にかけてのものであった。

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第 273 集

西近津遺跡群　西近津遺跡ⅩⅢ

令和２年３月

編集・発行　佐久市教育委員会

〒 385-8501　長野県佐久市中込 3056

社会教育部　文化振興課　文化財事務所

〒 385-0051　長野県佐久市中込 2913

℡ 0267-63-5321

印刷所　キクハラインク有限会社